整理センター国田分館

茨城県教育財団文化財調査報告第155集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

中原遺跡 1
(下　巻)

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第155集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

中原（なかはら）遺跡 1
（下　巻）

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

―下　巻―

3　奈良・平安時代の遺構と遺物
(2)　掘立柱建物跡……285
(3)　堀……342
(4)　土坑……353
(5)　遺構に伴わない遺物……380
4　その他の遺構と遺物……382
(1)　掘立柱建物跡……382
(2)　土坑……386
(3)　溝……412
(4)　遺構に伴わない遺物……413
第4節　まとめ……415
中原遺跡遺構一覧……425
付章　中原遺跡の自然科学分析……パリノ・サーヴェイ株式会社
1　ローム層の層序確立のための火山ガラス比分析および重鉱物分析
2　中原遺跡から出土した炭化材・種実遺体の同定
茨城県中原遺跡出土の漆膜について……吉田生物研究所
写真図版

挿図目次

第192図　第1号掘立柱建物跡実測図……286
第193図　第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図…287
第194図　第2号掘立柱建物跡実測図……289
第195図　第3号掘立柱建物跡実測図……291
第196図　第3号掘立柱建物跡出土遺物実測図…292
第197図　第4A号掘立柱建物跡実測図……294
第198図　第4B号掘立柱建物跡実測図……296
第199図　第5号掘立柱建物跡実測図……298
第200図　第6号掘立柱建物跡実測図(1)……300
第201図　第6号掘立柱建物跡実測図(2)……301
第202図　第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図…302
第203図　第7号掘立柱建物跡実測図……303
第204図　第8号掘立柱建物跡実測図……305
第205図　第9号掘立柱建物跡実測図……306
第206図　第9号掘立柱建物跡出土遺物実測図…307
第207図　第12号掘立柱建物跡実測図……309
第208図　第13号掘立柱建物跡実測図……311
第209図　第14号掘立柱建物跡実測図……312
第210図　第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図…314
第211図　第15号掘立柱建物跡実測図……315
第212図　第16号掘立柱建物跡実測図……316
第213図　第17号掘立柱建物跡実測図……318
第214図　第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図…319
第215図　第18号掘立柱建物跡実測図……320
第216図　第19号掘立柱建物跡実測図……322
第217図　第19号掘立柱建物跡出土遺物実測図…323
第218図　第22号掘立柱建物跡実測図……325
第219図　第23号掘立柱建物跡実測図……327

第220図　第24号掘立柱建物跡実測図 ……329
第221図　第24号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …330
第222図　第25号掘立柱建物跡実測図 ……331
第223図　第25号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …332
第224図　第26号掘立柱建物跡実測図 ……334
第225図　第27号掘立柱建物跡実測図 ……336
第226図　第28号掘立柱建物跡実測図 ……337
第227図　第29号掘立柱建物跡実測図 ……338
第228図　第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …339
第229図　第30号掘立柱建物跡実測図 ……341
第230図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …342
第231図　第１号堀出土遺物実測図(1) ……345
第232図　第１号堀出土遺物実測図(2) ……346
第233図　第１号堀出土遺物実測図(3) ……347
第234図　第１号堀出土遺物実測図(4) ……348
第235図　第１号堀出土遺物実測図(5) ……349
第236図　A群（第186～190・216号土坑）実測図 …354
第237図　B群（第191・192・194号土坑）実測図 …356
第238図　C群（第193・195・196号土坑）実測図 …357
第239図　D群（第199・200A・256A・325号土坑）・
　　E群（第200B・256B・323・324号土坑）実測図…358
第240図　F群（第217・218・220号土坑）実測図……361
第241図　G群（第223・238・239号土坑）実測図……363
第242図　H群（第225・228・229・231・232号土坑）実測図…364
第243図　第234号土坑・出土遺物実測図 ……365
第244図　第252A・252B号土坑・出土遺物実測図…366
第245図　第384号土坑・出土遺物実測図 ……367
第246図　柱穴のような土坑実測図 ……368
第247図　第２号土坑実測図 ……370
第248図　第11号土坑・出土遺物実測図 ……370
第249図　第90号土坑・出土遺物実測図 ……371
第250図　第138号土坑・出土遺物実測図 ……372
第251図　第139号土坑・出土遺物実測図 ……373
第252図　第156号土坑・出土遺物実測図 ……373
第253図　第163号土坑・出土遺物実測図 ……374
第254図　第170号土坑実測図 ……374
第255図　第275号土坑・出土遺物実測図 ……375
第256図　第294号土坑実測図 ……376
第257図　第295号土坑実測図 ……376
第258図　第298号土坑実測図 ……376
第259図　第309号土坑・出土遺物実測図 ……377
第260図　第328号土坑・出土遺物実測図 ……377
第261図　第353号土坑実測図 ……378
第262図　第378号土坑・出土遺物実測図 ……378
第263図　第382号土坑・出土遺物実測図 ……379
第264図　第386号土坑・出土遺物実測図 ……379
第265図　第394号土坑・出土遺物実測図 ……380
第266図　遺構外出土遺物実測図（奈良・平安時代）…381
第267図　第10号掘立柱建物跡実測図 ……382
第268図　第20号掘立柱建物跡実測図 ……384
第269図　第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …384
第270図　第21号掘立柱建物跡実測図 ……385
第271図　第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …386
第272図　方形土坑実測図(1) ……387
第273図　方形土坑・出土遺物実測図(2) ……389
第274図　方形土坑・出土遺物実測図(3) ……390
第275図　方形土坑・出土遺物実測図(4) ……391
第276図　その他の土坑実測図(1) ……392
第277図　その他の土坑実測図(2) ……394
第278図　その他の土坑実測図(3) ……396
第279図　その他の土坑実測図(4) ……398
第280図　その他の土坑実測図(5) ……400
第281図　その他の土坑実測図(6) ……402
第282図　その他の土坑実測図(7) ……404
第283図　その他の土坑実測図(8) ……406
第284図　その他の土坑実測図(9) ……408
第285図　その他の土坑実測図(10) ……409
第286図　その他の土坑・出土遺物実測図(11) ……410
第287図　第１・７・８号溝断面図 ……413
第288図　遺構外出土遺物実測図（中・近世）……414
第289図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷(1)……422
第290図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷(2)……423
第291図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷(3)……424
付図１　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）全体図
付図２　第１号堀，第407～409号土坑実測図

表　目　次

表8　旧石器時代の出土遺物……416
表9　住居跡一覧表……425
表10　掘立柱建物跡一覧表……427
表11　堀一覧表……428
表12　堀に伴う土坑一覧表……428
表13　溝一覧表……428
表14　陥し穴一覧表……428
表15　柱穴のような土坑一覧表……428
表16　奈良・平安時代の土坑一覧表……430
表17　方形土坑一覧表……430
表18　その他の土坑一覧表……431

写　真　図　版　目　次

ＰＬ１　中原遺跡全景，調査Ｉ区遺構確認状況
ＰＬ２　旧石器第２調査区，旧石器時代出土遺物(1)
ＰＬ３　旧石器時代出土遺物(2)
ＰＬ４　旧石器時代出土遺物(3)
ＰＬ５　第２・３号陥し穴，縄文時代出土遺物（石器）
ＰＬ６　縄文時代出土遺物（縄文土器）
ＰＬ７　第１号住居跡・出土遺物
ＰＬ８　第２号住居跡・出土遺物
ＰＬ９　第３・４号住居跡・出土遺物
ＰＬ10　第５号住居跡・遺物出土状況
ＰＬ11　第５号住居跡掘り方・出土遺物
ＰＬ12　第５号住居跡出土遺物
ＰＬ13　第６号住居跡・出土遺物
ＰＬ14　第６号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ15　第７号住居跡・出土遺物
ＰＬ16　第７号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ17　第８号住居跡・出土遺物
ＰＬ18　第８号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ19　第８号住居跡出土遺物
ＰＬ20　第９・11号住居跡，第９号住居跡出土遺物
ＰＬ21　第９号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ22　第11号住居跡出土遺物
ＰＬ23　第13号住居跡・出土遺物
ＰＬ24　第14号住居跡・出土遺物
ＰＬ25　第14号住居跡遺物出土状況，
　　第15号住居跡
ＰＬ26　第15号住居跡出土遺物
ＰＬ27　第16号住居跡・出土遺物
ＰＬ28　第16号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ29　第16号住居跡出土遺物
ＰＬ30　第17号住居跡・出土遺物
ＰＬ31　第19号住居跡・出土遺物
ＰＬ32　第20号住居跡・出土遺物
ＰＬ33　第21号住居跡・出土遺物
ＰＬ34　第21号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ35　第22号住居跡・出土遺物
ＰＬ36　第22号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ37　第23号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ38　第23号住居跡出土遺物
ＰＬ39　第24号住居跡・出土遺物
ＰＬ40　第27号住居跡・出土遺物
ＰＬ41　第28・29号住居跡
ＰＬ42　第29号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ43　第30号住居跡・出土遺物
ＰＬ44　第31号住居跡・出土遺物
ＰＬ45　第32号住居跡・出土遺物
ＰＬ46　第32号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ47　第32・35号住居跡出土遺物
ＰＬ48　第36号住居跡・出土遺物
ＰＬ49　第36号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ50　第38号住居跡・出土遺物
ＰＬ51　第38号住居跡出土遺物，第39A号住居跡
ＰＬ52　第39A号住居跡出土遺物
ＰＬ53　第39A号住居跡遺物出土状況・出土遺物

ＰＬ54　第39A号住居跡出土遺物，第41号住居跡・出土遺物
ＰＬ55　第41号住居跡出土遺物
ＰＬ56　第44号住居跡・出土遺物
ＰＬ57　第45・46号住居跡・出土遺物
ＰＬ58　第47号住居跡・出土遺物
ＰＬ59　第48号住居跡・出土遺物
ＰＬ60　第48・49号住居跡出土遺物
ＰＬ61　第50号住居跡・出土遺物，第51号住居跡出土遺物
ＰＬ62　第53号住居跡・出土遺物
ＰＬ63　第53号住居跡遺物出土状況，第54号住居跡
ＰＬ64　第54号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ65　第56号住居跡・出土遺物
ＰＬ66　第56号住居跡出土遺物
ＰＬ67　第56号住居跡出土遺物，第58号住居跡・出土遺物
ＰＬ68　第58号住居跡出土遺物
ＰＬ69　第63号住居跡・出土遺物
ＰＬ70　第63号住居跡出土遺物，第64号住居跡・出土遺物
ＰＬ71　第65号住居跡・出土遺物
ＰＬ72　第66号住居跡・出土遺物
ＰＬ73　第67号住居跡・出土遺物
ＰＬ74　第67号住居跡出土遺物，第68号住居跡・出土遺物
ＰＬ75　第70号住居跡・出土遺物
ＰＬ76　第71号住居跡・出土遺物
ＰＬ77　第72号住居跡・出土遺物
ＰＬ78　第73・74号住居跡
ＰＬ79　第74号住居跡出土遺物
ＰＬ80　第75・76号住居跡
ＰＬ81　第75・76号住居跡出土遺物
ＰＬ82　第79号住居跡・出土遺物
ＰＬ83　第79号住居跡出土遺物，第80号住居跡
ＰＬ84　第81号住居跡・出土遺物
ＰＬ85　第82号住居跡・出土遺物
ＰＬ86　第84A号住居跡出土遺物，第85号住居跡・出土遺物
ＰＬ87　第86号住居跡出土遺物，第87号住居跡・出土遺物
ＰＬ88　第90号住居跡・出土遺物
ＰＬ89　第１～３・５～７・９号掘立柱建物跡，第４Ａ・４Ｂ・８号掘立柱建物跡柱痕確認状況
ＰＬ90　第12・13・15・17～19・22～27・29号掘立柱建物跡
ＰＬ91　掘立柱建物跡出土遺物
ＰＬ92　第１号堀・遺物出土状況・土層断面
ＰＬ93　第１号堀出土遺物(1)
ＰＬ94　第１号堀出土遺物(2)
ＰＬ95　第186・190～198・217～220号土坑，土坑出土遺物(1)
ＰＬ96　土坑出土遺物(2)
ＰＬ97　遺構外出土遺物(1)
ＰＬ98　遺構外出土遺物(2)，その他の遺物

(2) 掘立柱建物跡

当遺跡からは，掘立柱建物跡30棟が検出された。これらの建物跡は出土遺物が極端に少なく，時期を限定することは困難であったが，他の遺構との重複関係や配置から，奈良・平安時代の掘立柱建物跡27棟，時期不明の掘立柱建物跡３棟に分けることができる。ここでは，奈良・平安時代の掘立柱建物跡について，考えてみたい。

奈良・平安時代の掘立柱建物跡の配置は，調査Ⅰ区の中央部に東西に広がる群，中央部から南に広がる群，南西部から調査ⅡＡ区東部にかけて広がる群の，おおよそ３群に分けることができる。特に，一番北に近く，東西一直線に並んでいる掘立柱建物跡群の北端は，調査Ⅰ区東部に位置する奈良時代（８世紀）の堀の北端とほぼ同緯度であり，その北側には掘立柱建物跡は配置されていない。よって，この堀の内側に配置された掘立柱建物跡群は，集落の中で計画的・機能的に配置されたと考えられる。以下，各掘立柱建物跡についてその特徴を記載する。

第１号掘立柱建物跡（第192図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｃ５j0区。

重複関係　本跡は，第30号竪穴住居跡と重複している。第30号竪穴住居跡が本跡のＰ６～Ｐ８を掘り込んでいることから，本跡が古い。

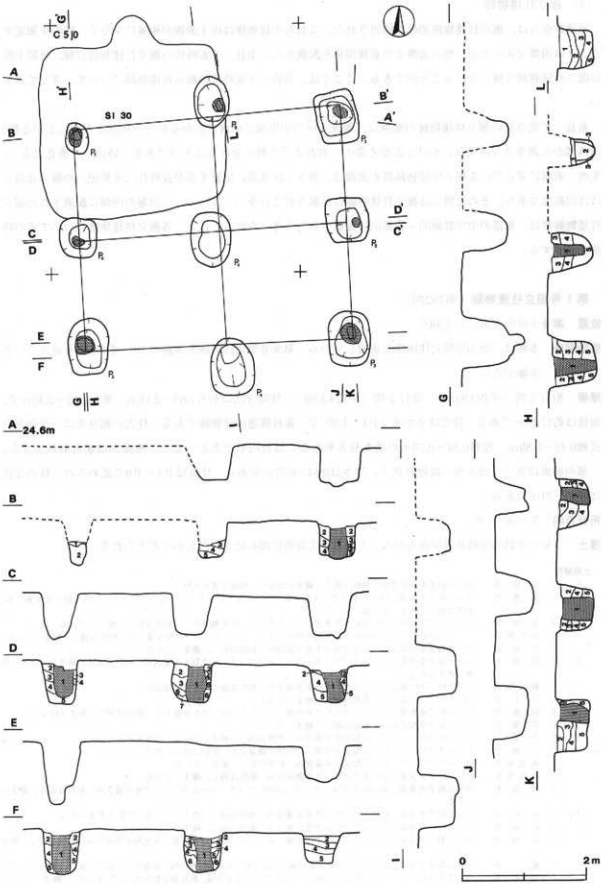
規模　桁行２間（平均3.93m），梁行２間（平均4.35m），柱間寸法は桁行1.63～2.15m，梁行2.00～2.30mで，面積は約17.10m²である。柱穴は９か所（Ｐ１～Ｐ９）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.49～0.80m，短軸0.36～0.70mの隅丸長方形あるいは楕円形である。また，断面形は逆台形状を呈し，一部の底面は丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.54～0.77mである。柱痕はＰ１～Ｐ9で認められ，柱の寸法は径10～21cmである。

桁行方向　Ｎ－６°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・黒色土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，黒色土粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

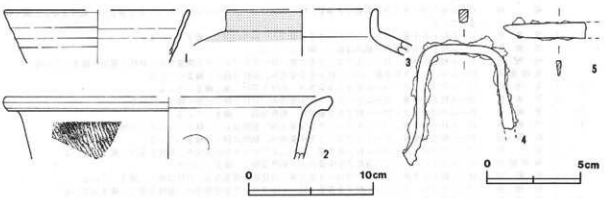


第192図　第１号掘立柱建物跡実測図

P5	1	黒　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	暗　褐　色	SI30貼床
	2	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P8	1	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，黒色土粒子を少量含み，粘性はなく，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子・黒色土粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
P9	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	7	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片10点，須恵器片18点，鉄製品２点（門，刀子）が出土している。第193図１の須恵器坏，４の門と５の刀子がP5の覆土中から，２の須恵器鉢がP2の覆土中から，３の須恵器短頸壺がP6の覆土中からそれぞれ出土している。２の須恵器鉢は混入したものと考えられる。

所見　Ⅰ区中央部の平坦地に位置している。柱穴は，深さ，断面形ともにほぼ規則性が認められる。柱間寸法についてもほぼ規則性が認められるが，P4とP8は桁行方向に対して外側へ若干膨らんでいる。また，隣接する第２・３号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致し，第１号堀と直交することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，重複関係と出土遺物から，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。



第193図　第１号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第193図 1	坏 須恵器	A [14.9] B（4.2）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。	密　砂粒 灰白色 普通	20%　P518 P5覆土中

第193図 2	鉢 須恵器	A〔26.2〕 B（5.0）	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，内面アテ具痕有り。	砂粒 灰黄色 普通	10%　P519 P2覆土中
3	短頸壺 須恵器	A〔12.0〕 B（3.7）	体部から口縁部の破片。体部から頸部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。	長石　砂粒 内面　灰黄色 外面　黄灰色 釉　淡黄色 良好	10%　P520 外面一部自然釉 P6覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鬥	6.5	0.6	0.5	(23.00)	P5覆土中	M59
5	刀子	(4.4)	0.9	0.2	(2.64)	P5覆土中	M73

第2号掘立柱建物跡（第194図）

位置　調査Ⅰ区中央部，C6j2区。

規模　桁行4間（平均8.29m），梁行2間（平均4.66m），柱間寸法は桁行1.75～4.12m，梁行2.34～4.45mで，面積は約38.63m²である。柱穴は10か所（P1～P10）で，側柱構造の建物跡である。P1とP10の間，P7とP8の間の柱穴は確認できなかった。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.39～0.72m，短径0.37～0.69mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.06～0.40mである。柱痕はP1・P3・P8・P10で認められ，柱の寸法は径15～17cmである。

桁行方向　N－87°－E

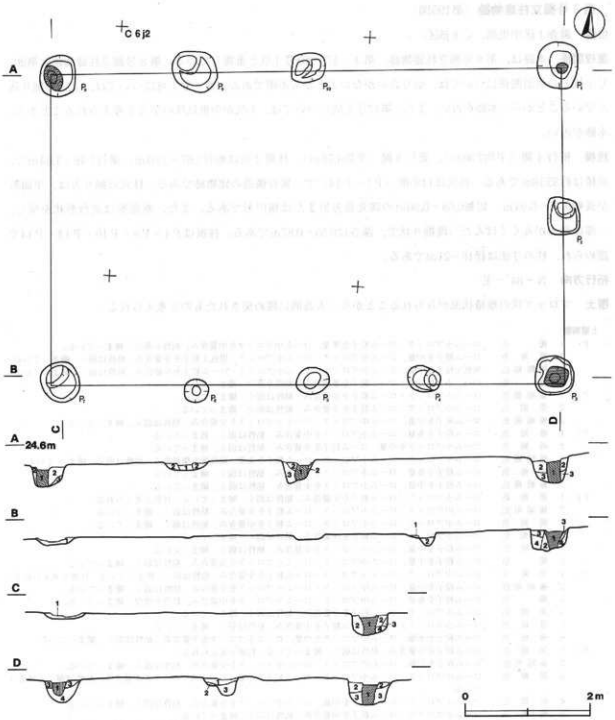
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒褐色	ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒色土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	褐色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，強く締まっている。
P3	1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，強く締まっている。
	2	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，強く締まっている。
P7	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8	1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P10	1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒色土粒子・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　遺物は出土していない。

所見　Ⅰ区中央部の平坦地に構築されている。柱穴は，断面形，深さともに不ぞろいで，柱間寸法については規則性に乏しく，その性格は不明である。桁行方向では，隣接する第3号掘立柱建物跡と同軸上に並び，第1



第194図　第２号掘立柱建物跡実測図

号掘立柱建物跡の桁行と同じ方向である。よって，その関連は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土遺物がなく特定できないものの，第１・３号掘立柱建物跡と同時期で，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

第３号掘立柱建物跡（第195図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｃ６j5区。

重複関係　本跡は，第８号掘立柱建物跡，第４・47・201号土坑と重複している。第８号掘立柱建物跡と第201号土坑との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。第４号土坑については，Ｐ10を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，第47号土坑については，土坑が中世以降の芋穴と考えられることから，本跡が古い。

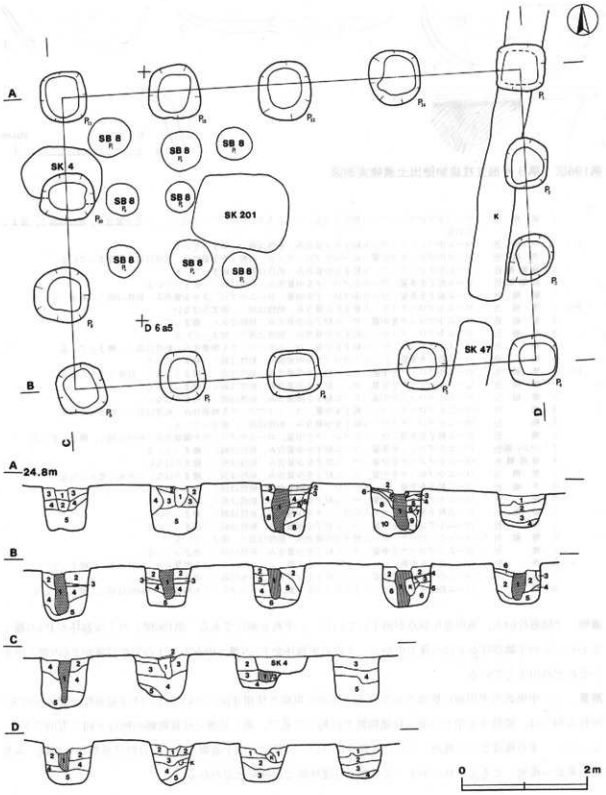
規模　桁行４間（平均7.36m），梁行３間（平均4.78m），柱間寸法は桁行1.67～2.04m，梁行1.49～1.64mで，面積は約35.18m²である。柱穴は14か所（Ｐ1～Ｐ14）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.76～0.94m，短軸0.68～0.90mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.55～0.87mである。柱痕はＰ4～Ｐ8・Ｐ10・Ｐ13・Ｐ14で認められ，柱の寸法は径16～21cmである。

桁行方向　Ｎ－84°－Ｅ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

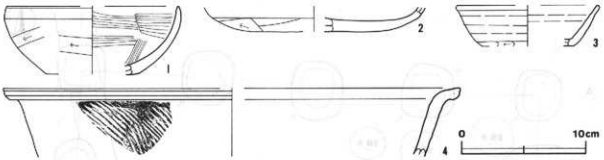
土層解説

Ｐ1	1	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	2	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	黒色土粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ2	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含む，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗 褐 色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，黄化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ6	1	黒 褐 色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ8	1	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ9	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第195図　第３号掘立柱建物跡実測図

	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第196図　第３号掘立柱建物跡出土遺物実測図

	4	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P11	1	黒	褐	色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒	褐	色	ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐		色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐		色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗	褐	色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P12	1	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐		色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐		色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P13	1	黒	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	褐		色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐		色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐		色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	にぶい褐		色	ローム小ブロックを多量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	8	暗暗褐		色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P14	1	黒	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒	褐	色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐		色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗	褐	色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐		色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐		色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	8	褐		色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	9	暗	褐	色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	10	褐		色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片64点，須恵器片38点が出土している。いずれも細片である。第196図１の土師器坏がＰ4の覆土中から，２の土師器坏がＰ12の覆土中から，３の須恵器坏がＰ9の覆土中から，４の須恵器鉢がＰ6の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　Ⅰ区中央部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。桁行方向では，隣接する第２号掘立柱建物跡と同軸上に並び，第１号掘立柱建物跡の桁行と同じ方向である。よって，一連の施設として機能していた可能性は高い。時期は，出土遺物から，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられ，第１・２号掘立柱建物跡と同時期と思われる。

第３号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第196図 1	坏 土師器	A［14.0］ B　5.4 C［7.5］	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ，口縁部から底部にかけて内面へラ磨き。外面下位へラ削り。	雲母　砂粒 橙色 普通	20%　P521 P4覆土中

第196図 2	坏 土師器	B（1.9） C［12.0］	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。外面下位から底部外面にかけヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 スコリア にぶい黄橙色 普通	30%　P522 底部内面油煙付着 P12覆土中
3	坏 須恵器	A［11.4］ B　3.3 C［7.4］	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 黄灰色 普通	10%　P523 P9覆土中
4	鉢 須恵器	A［37.0］ B（5.5）	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し，端部はつまみ上げられている。口唇部に棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	10%　P524 P6覆土中

第４Ａ号掘立柱建物跡（第197図）

位置　調査Ⅰ区南部，Ｄ６c2区。

重複関係　本跡は，第46号住居跡，第４Ｂ号掘立柱建物跡と重複している。第46号住居跡が本跡のＰ6を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，本跡が第４Ｂ号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

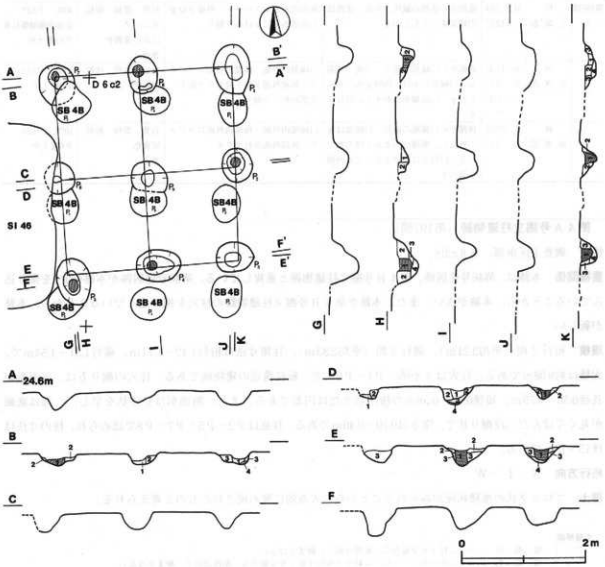
規模　桁行２間（平均3.21m），梁行２間（平均2.83m），柱間寸法は桁行1.42～1.71m，梁行1.31～1.54mで，面積は約9.08㎡である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ9）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.50～0.79m，短径0.46～0.58mの楕円形または円形である。また，断面形はＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.19～0.46mである。柱痕はＰ2～Ｐ5・Ｐ7・Ｐ8で認められ，柱の寸法は径15～18cmである。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ4	4	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	黒褐色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロックを少量，ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	褐色	ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ6	1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	黒褐色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ8	1	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	にぶい褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ9	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	にぶい褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第197図　第４Ａ号掘立柱建物跡実測図

遺物　須恵器片３点が出土している。

所見　Ⅰ区南部の平坦部に構築されている。柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。他の遺構との関連は不明であるが，第１・５・６号掘立柱建物跡などと構造や柱間について共通する点が多いことから，同時期に構築され，意図的に配置された一連の施設である。また，重複している第４Ｂ号掘立柱建物跡については，本跡と同規模で構造も変わらないことから，本跡は前者を建て替えたものと考えられる。よって，時期は，重複する第46号住居跡が平安時代の９世紀前葉，第１・５・６号掘立柱建物跡が８世紀前葉から後葉と考えられることから，奈良時代の前期に構築された第４Ｂ号掘立柱建物跡を建て替え，後期（８世紀後葉）まで構築されていたと思われる。

第４Ｂ号掘立柱建物跡（第198図）

位置　調査Ｉ区南部，Ｄ６c2区。

重複関係　本跡は，第46号住居跡，第４Ａ号掘立柱建物跡と重複している。第46号住居跡が本跡のＰ6を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，第４Ａ号掘立柱建物跡が本跡の柱穴を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模　桁行２間（平均2.69m），梁行２間（平均3.24m），柱間寸法は桁行1.50～1.80m，梁行1.26～1.40mで，面積は約8.59㎡である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ9）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.50～0.66m，短径0.46～0.60mの楕円形または円形である。また，断面形はＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.23～0.35mである。柱痕はＰ1・Ｐ3～Ｐ6・Ｐ8・Ｐ9で認められ，柱の寸法は径12～21cmである。

桁行方向　Ｎ－０°

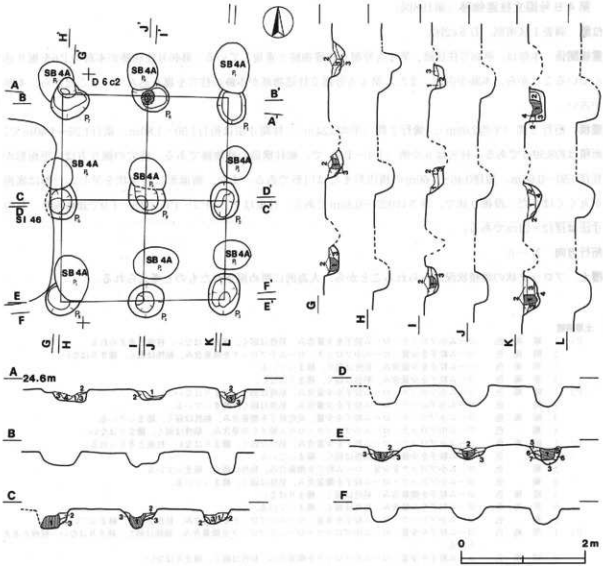
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ2	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ3	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ4	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ6	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ8	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ9	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　遺物は出土していない。

所見　Ｉ区南部の平坦部に構築されている。柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。他の遺構との関連は不明であるが，第１・５・６号掘立柱建物跡などと構造や柱間について共通する点が多いことから，同時期に構築され，意図的に配置された一連の施設である。また，重複してい



第198図　第４Ｂ号掘立柱建物跡実測図

る第４Ａ号掘立柱建物跡については，本跡と同規模で構造も変わらないことから，本跡を建て替えたものと考えられる。時期は，重複する第46号住居跡が平安時代の９世紀前葉，第１・５・６号掘立柱建物跡が８世紀前葉から後葉と考えられることから，本跡は奈良時代前期（８世紀前葉）に構築され，後に建て替えられたと思われる。

第５号掘立柱建物跡（第199図）

位置　調査Ｉ区南部，Ｄ５ｅ0区。

規模　桁行２間（平均3.58m），梁行２間（平均3.28m），柱間寸法は桁行1.74～1.87m，梁行1.40～1.99mで，面積は約11.74㎡である。柱穴は11か所（Ｐ1～Ｐ9C）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.75～0.89m，短径0.60～0.72mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.39～0.62mである。柱痕はＰ1・Ｐ3・Ｐ7～Ｐ9（A, B, C）で認められ，柱の寸法は径約18cmである。

桁行方向　N－7°－W

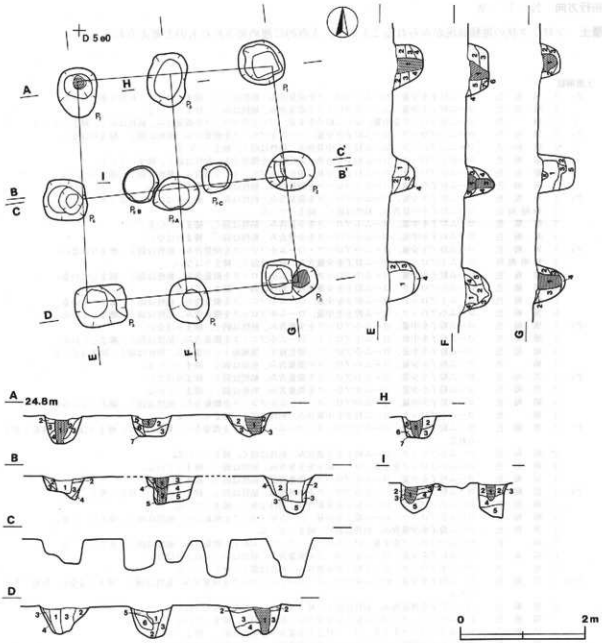
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	灰　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P4	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子・黒褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	灰　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P8	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　色	ローム中ブロックを少量，ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	7	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9A	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9B	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	黒褐色土を中量，ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	灰　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9C	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・黒褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片１点，須恵器片２点が出土している。細片のため，図示できなかった。

所見　Ⅰ区南部の平坦部に構築されている。柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。P9B・P9Cは，しっかりした掘り方で，補助穴として機能していたものと思われる。他の遺構との関連は不明であるが，第１・４Ａ・４Ｂ号掘立柱建物跡などと構造や柱間について共通する点が多い。



第199図　第５号掘立柱建物跡実測図

また，桁行方向は近接する第17・18・22号掘立柱建物跡などとほぼ同方向（±１°）であることから，これらと同時期に構築され，意図的に配置された一連の施設である。時期は，第１・４Ａ・４Ｂ号掘立柱建物跡などが８世紀前葉から後葉と考えられることから，本跡も奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）に構築されていたと思われる。

第６号掘立柱建物跡（第200・201図）

位置　調査Ｉ区南部，Ｄ６c4区。

重複関係　本跡は，第49号住居跡，第327号土坑と重複している。第49号住居跡が本跡のＰ6Ａ・Ｐ14・Ｐ15を，第327号土坑がＰ1を掘り込んでいることから，本跡が古い。

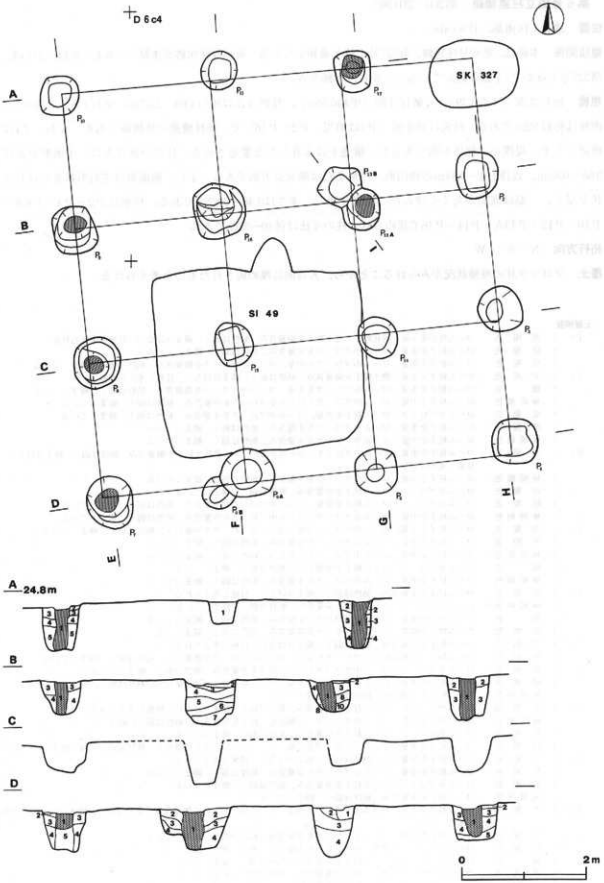
規模　桁行３間（平均6.39m），梁行３間（平均6.56m），柱間寸法は桁行1.65～2.37m，梁行1.76～2.59mで，面積は約41.92m²である。柱穴は18か所（Ｐ1は消失，Ｐ2～Ｐ16）で，総柱構造の建物跡である。なお，Ｐ1は確認できず，規模その他は不明であるが，構造上は存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.56～0.88m，短径0.51～0.84mの楕円形，円形または隅丸長方形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.40～0.82mである。柱痕はＰ2～Ｐ4・Ｐ6Ａ～Ｐ10・Ｐ12・Ｐ13Ａ・Ｐ14～Ｐ16で認められ，柱の寸法は径10～23cmである。

桁行方向　Ｎ－６°－Ｗ

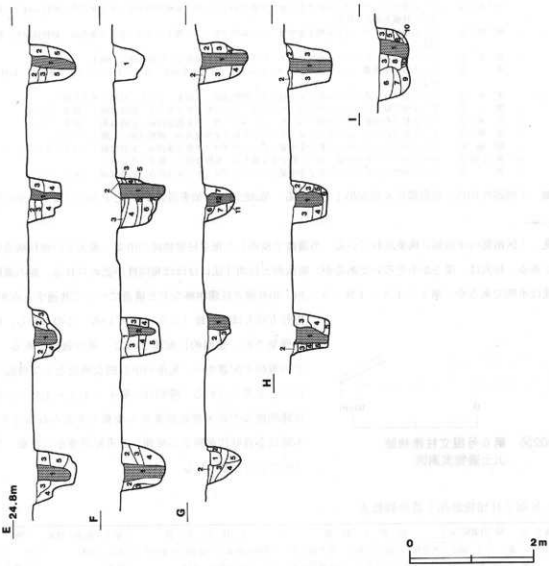
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ2	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	黒　褐　色	ローム粒子を小量，ローム中ブロック少量・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ6	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ7	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム粒子・灰褐色粘土小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ8	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
Ｐ9	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ10	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ11	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第200図　第６号掘立柱建物跡実測図（１）



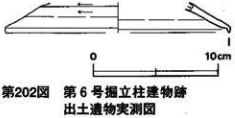
第201図　第6号掘立柱建物跡実測図（2）

P12	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P13（A・B）			
	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	明　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	明　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	8	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	9	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	10	褐　　色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	11	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
	12	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
P14	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P15	1	極暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・黒色土小ブロック・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。第49号住居跡の貼床。

	2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，黒色土小ブロック・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐 色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P16	1	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒 褐 色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	極暗褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片10点，須恵器片８点が出土している。第202図１の須恵器壺がP6とP16Aの覆土中から出土している。

所見　Ⅰ区南部の平坦部に構築されている。当遺跡で検出した掘立柱建物跡の中で一番大きい総柱構造の建物跡である。柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。他の遺構との関連は不明であるが，第１・４A・４B・５・29・30号掘立柱建物跡などと構造について共通する点が多く，桁行方向もほぼ一致（±６°）している。このとから，同時期に構築され，意図的に配置された一連の施設である。また，その規模と配置から，集落の中心的な施設として機能していたことも考えられる。時期は，第１・４A・４B・５号掘立柱建物跡などが８世紀前葉から後葉と考えられることから，本跡は奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）に構築されていたと思われる。



第202図　第６号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第６号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	壺 須恵器	A［18.0］ B（24）	天井部と口縁部の破片。天井部は平坦で，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	20% P525 P6覆土中 P16A覆土中

第７号掘立柱建物跡（第203図）

位置　調査Ⅰ区南部，D６e4区。

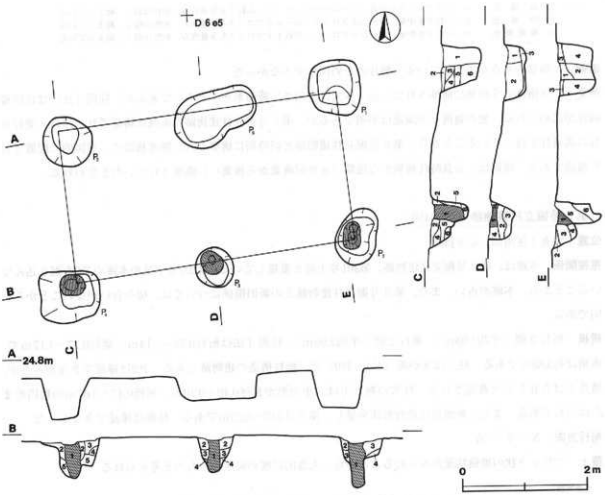
規模　桁行２間（平均4.64m），梁行１間（平均2.32m），柱間寸法は桁行2.22～2.39m，梁行2.25～2.40mで，面積は約10.95㎡である。柱穴は６か所（P1～P6）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.57～0.94m，短径0.57～0.83mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.36～0.80mである。柱痕はP2～P4で認められ，柱の寸法は径14～21cmである。

桁行方向　N－78°－E

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒 褐 色	ローム粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。



第203図　第７号掘立柱建物跡実測図

P2	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック少量・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P3	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・ローム粒子を少含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・黒色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，強い粘性を帯び，硬く締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子・黒色土大ブロックを少量含み，強い粘性を帯び，硬く締まっている。
P5	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量，焼土中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	黒色土中ブロックを中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

P6 1 暗 褐 色　ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片6点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区南部の平坦部に構築されている。柱穴は，深さ，断面形が不ぞろいであるが，柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。他の遺構との関連は不明であるが，第6号掘立柱建物跡の南側に構築され，桁行・梁行ともに共通性を持っていることから，第6号掘立柱建物跡と同時期に構築された関連施設で，意図的に配置された施設である。時期は，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）に構築されていたと思われる。

第8号掘立柱建物跡（第204図）

位置　調査Ⅰ区南部，C6j5区。

重複関係　本跡は，第3号掘立柱建物跡，第201号土坑と重複している。第201号土坑が本跡のP2を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，第3号掘立柱建物跡との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行2間（平均1.98m），梁行2間（平均1.96m），柱間寸法は桁行0.76～1.14m，梁行0.77～1.17mで，面積は約3.88㎡である。柱穴は8か所（P1～P9）で，総柱構造の建物跡である。P2は確認できなかったが，構造上は存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.49～0.70m，短径0.47～0.67mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状を呈し，深さは0.07～0.23mである。柱痕は確認できなかった。

桁行方向　N－9°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

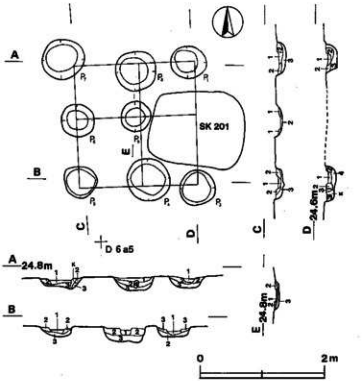
土層解説

P1 1 褐 色　ローム粒子を中量，暗褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色　ローム粒子を少量，暗褐色土小ブロック・灰褐粘土粒子色を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3 1 褐 色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色　ローム粒子を中量，灰褐色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
4 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4 1 黒 色　ローム粒子を少量，黒褐色土小ブロック・灰褐色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・炭化粒子・暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを少量，灰褐色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5 1 褐 色　ローム粒子を少量，暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6 1 褐 色　ローム粒子を中量，暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7 1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8 1 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4 褐 色　ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9 1 褐 色　ローム粒子を少量，暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐　ローム粒子を中量を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　遺物は出土していない。

所見　Ⅰ区中央部の平坦部に構築されている。柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法にはほぼ規則性が認められる。他の総柱構造の掘立柱建物跡と比べ，柱穴の配列は菱形のようにずれており，面積も極

端に小さい。しかし，配置をみると他の遺構との関連がないとは言い切れず，第１・４Ａ・４Ｂ・５・６号掘立柱建物跡などと同時期に構築された一連の施設である可能性が考えられる。時期は，奈良時代（８世紀）と考えられる。



第204図　第８号掘立柱建物跡実測図

第９号掘立柱建物跡（第205図）

位置　調査Ｉ区東南部，Ｄ７f区。

重複関係　本跡は，第58・64号住居跡と重複している。第58号住居跡が本跡のＰ6とＰ7を，第64号住居跡が本跡のＰ5を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。

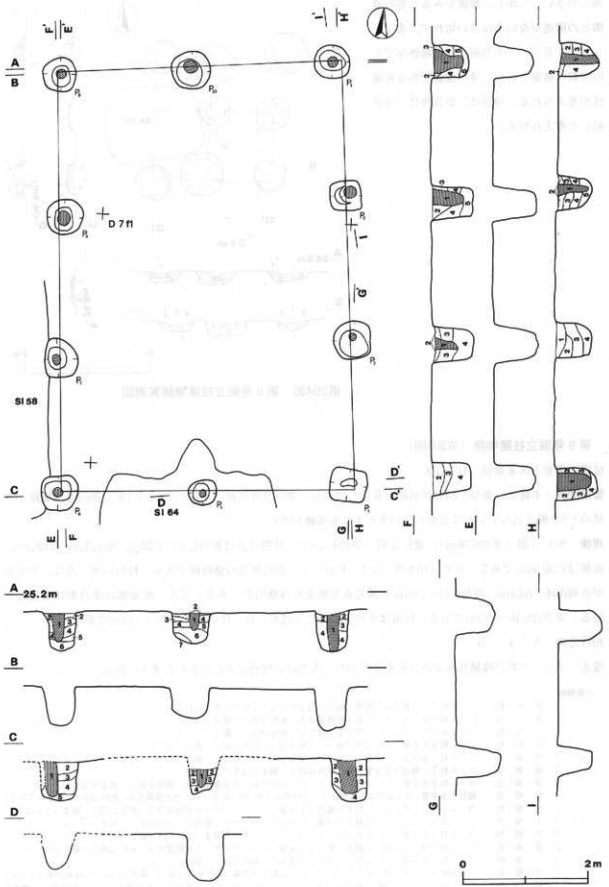
規模　桁行３間（平均6.76m），梁行２間（平均4.52m），柱間寸法は桁行2.12～2.33m，梁行2.06～2.08mで，面積は約30.56m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.48～0.64m，短軸0.41～0.59mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状を呈している。深さは0.46～0.73mである。柱痕はすべての柱穴で認められ，柱の寸法は径13～24cmである。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

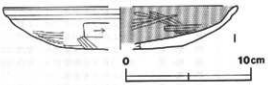
Ｐ1	1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ2	1	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子・褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	褐色土を中量，ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。



第205図　第９号掘立柱建物跡実測図

	3	暗　掲　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒　掲　色	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	黒　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗掲色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗掲色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	黒　掲　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・焼土小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗掲色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量，焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	掲　　色	焼土小ブロック・焼土粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
P8	1	黒　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗掲色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を少量，炭化物・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	掲　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　掲　色	ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒　掲　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物を少量，焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗掲色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　掲　色	ローム中ブロック・ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗掲色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	掲　　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	極暗掲色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　掲　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	暗　掲　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	極暗掲色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
	7	極暗掲色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　土師器片45点，須恵器片10点が出土している。第206図１の土師器坏がＰ4の覆土中から出土している。



第206図　第９号掘立柱建物跡出土遺物実測図

所見　Ⅰ区南東部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。同じ構造を持つ第26号掘立柱建物跡などと同規模であり，桁行方向は，第１・４Ａ・６・12・18・23・26・27・29・30号掘立柱建物跡とほぼ同方向（±２°）であり，これらの関連は不明であるが，同時期と思われる。また，第１・２・３号掘立柱建物跡などと直交して，第１号堀と並行して意識的に構築されていることから，一連の施設として機能していた可能性は高い。時期は，重複している住居跡が８世紀後葉と９世紀中葉であることから，奈良時代前期から中期（８世紀前葉から中葉）と考えられる。

第９号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	坏 土師器	A 18.8 B 3.4	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ヘラ磨き。外面一部手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 スコリア 内面 黒色 外面 にぶい橙色 普通	20% P526 内面黒色処理 P4覆土中

第12号掘立柱建物跡（第207図）

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５a4区。

重複関係　本跡は，第13号掘立柱建物跡，第199・200A・200B・256B・323・324・325号土坑と重複している。本跡が第13号掘立柱建物跡のＰ1を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第256B号土坑が本跡のＰ5を掘り込んでいることから，本跡が古い。その他の土坑との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

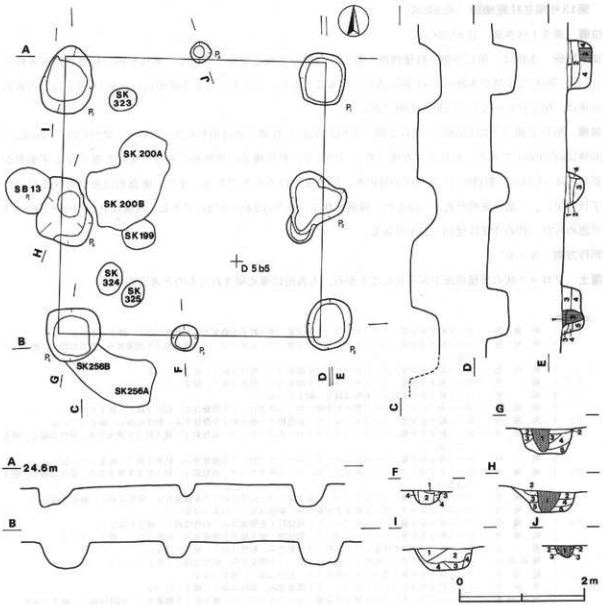
規模　桁行２間（平均4.08m），梁行２間（平均4.10m），柱間寸法は桁行1.95～2.15m，梁行1.77～2.30mで，面積は約16.73m²である。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.34～1.09m，短径0.30～0.89mの楕円形，円形または不定形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは0.18～0.44mである。柱痕はＰ1・Ｐ3・Ｐ5・Ｐ6・Ｐ8で認められ，柱の寸法は径14～21cmである。桁側の中間に位置するＰ4とＰ8は，他の柱穴よりも小さく，浅くなっている。

桁行方向　Ｎ－３°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	4	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ3	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ4	1	暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ6	1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
	3	褐色	ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
	4	黒褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第207図　第12号掘立柱建物跡実測図

Ps　1　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性はなく，締まっている。柱痕と考えられる。
　　2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
　　3　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片１点，須恵器片４点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区西部の平坦地に位置している。P1～P3とP5～P7については，深さ，断面形ともにほぼ規則性が認められる。柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。桁行２間，梁行２間の側柱構造を持つ掘立柱建物跡は他に検出されなかったが，第4A・4B・9・21・23・26・27・29・30号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致（±3°）している。このことから詳細は不明であるが，他の建物跡と同時期で，一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

第13号掘立柱建物跡（第208図）

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b3区。

重複関係　本跡は，第12号掘立柱建物跡，第237・287号土坑と重複している。第12号掘立柱建物跡が本跡のＰ1を，第287号土坑が本跡のＰ6を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。第237号土坑との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行２間（平均3.30m），梁行２間（平均3.21m），柱間寸法は桁行1.25～2.06m，梁行1.35～1.70mで，面積は約10.59㎡である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ9）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は,平面形が長径0.64～1.24m，短径0.53～0.98mの楕円形，円形または不定形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.44～0.74mである。柱痕はＰ1～Ｐ6・Ｐ8・Ｐ9で認められ，柱の寸法は径10～24cmである。

桁行方向　Ｎ－０°

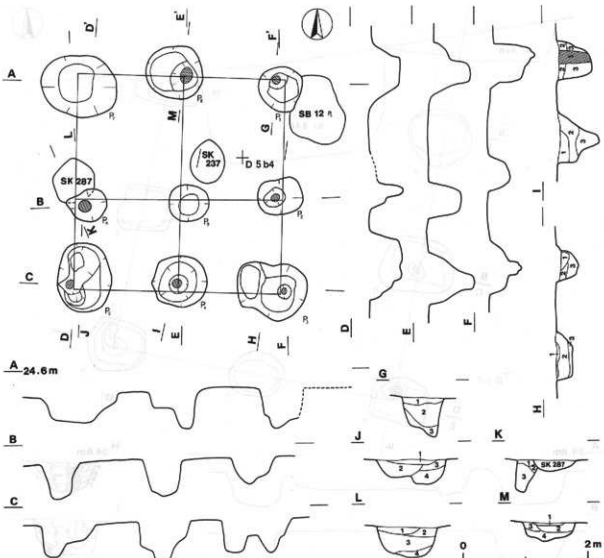
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	褐　　色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ3	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ5	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	極暗褐色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ6	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ7	1	暗　褐　色	焼土小ブロック・焼土粒子を中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	褐　　色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	焼土粒子を中量，焼土中ブロック・焼土小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	焼土粒子を少量，焼土中ブロック・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ8	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性はなく，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，焼土小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ9	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片11点，須恵器片10点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区西部の平坦地に位置している。柱穴は，深さ，断面形ともにほぼ規則性が認められる。柱間寸法については，中央の桁行列が南側の桁行列に若干寄り気味であるが，ほぼ規則性が認められる。第１・4A・4B・16・29・30号掘立柱建物跡などの，桁行２間，梁行２間の総柱構造を持つ建物跡と桁行方向がほぼ一致（±６°）し，規模も同じぐらいであることから，これらは同時期の施設として機能していた可能性が高い。時期は，重



第208図　第13号掘立柱建物跡実測図

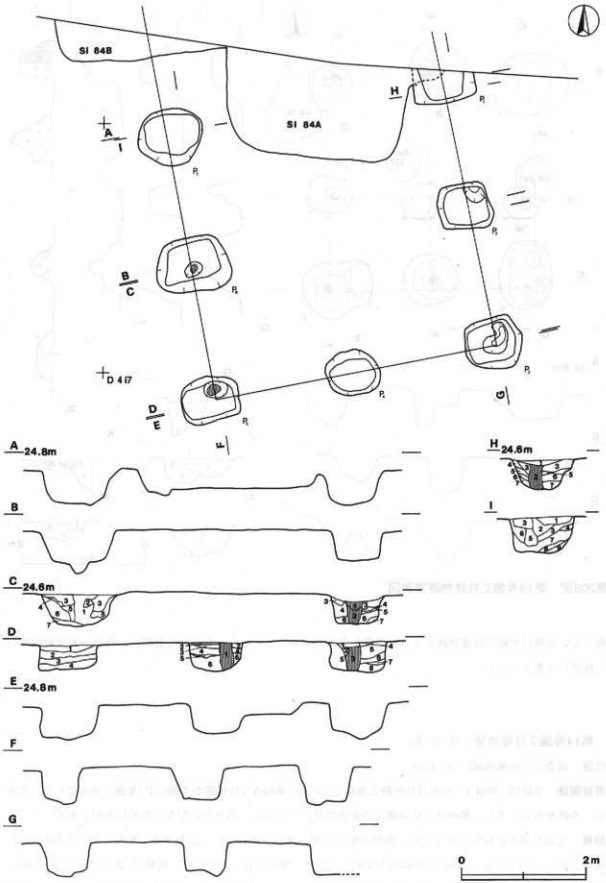
複している第12号掘立柱建物跡が8世紀前葉から後葉であることから，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と考えられる。

第14号掘立柱建物跡（第209図）

位置　調査ⅡA区東南部，D4h7区。

重複関係　本跡は，第84A・84B号住居跡と重複している。第84A号住居跡が本跡のP1を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，第84B号住居跡との新旧関係については，切り合いがないために不明である。

規模　北部が調査区域外であるため，南部の桁行2間，梁行2間について記載する。桁行2間（平均4.26m），梁行2間（平均4.77m），柱間寸法は桁行2.00～2.25m，梁行2.35～2.42mで，面積は(20.32)m^2以上である。柱穴は7か所（P1～P7）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.90～1.21m，短軸0.51～0.91mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状を呈しており，一部は底面が丸くく



第209図　第14号掘立柱建物跡実測図

ほんだ二段掘り状で，深さは0.47～0.65mである。柱痕はP1～P6で認められ，柱の寸法は径14～20cmである。

桁行方向　N－9°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	褐　　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子・黒褐色土を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　　色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量・ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　　色	黒褐色土を中量，ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	8	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐　　色	ローム粒子・暗褐色土を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子・黒褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	黒褐色土小ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐　　色	ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土小ブロックを中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	灰　褐　色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	8	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土を少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	9	褐　　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片12点，須恵器片７点が出土している。第210図１の土師器鉢がP6の覆土中から出土している。

所見　Ⅱ A区東部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。桁行３間，梁行２間の側柱構造を持つ他の建物跡とは，桁行方向の違いが若干認められる（±９°）が，隣接している第15号掘立柱建物跡とはほぼ同方向（±２°）である。その関連は不明であるが，一連の施設として

第210図　第14号掘立柱建物跡
出土遺物実測図

機能していた可能性は高い。時期は，出土遺物と重複している住居跡が9世紀前葉と考えられることから，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と思われる。

第14号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第210図 1	鉢 土師器	体部	外面平行タタキ。内面ナデ，一部ヘラナデ。	TP33　内面黒色処理 P6覆土中 内面　黒色，外面　灰色

第15号掘立柱建物跡（第211図）

位置　調査ⅡA区東南部，D4g5区。

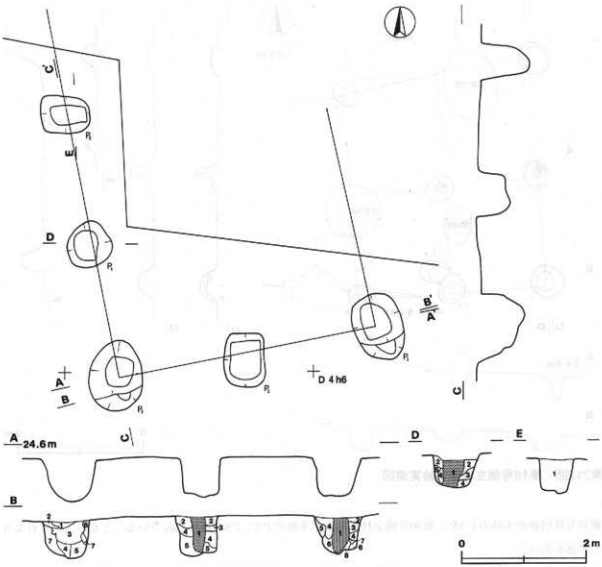
規模　北部が調査区域外であるため，南部の桁行2間，梁行2間について記載する。桁行2間（平均4.26m），梁行2間（平均4.26m），柱間寸法は桁行2.11～2.15m，梁行2.04～2.22mで，面積は（18.15）m^2以上である。柱穴は5か所（P1～P5）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.74～1.18m，短軸0.58～0.87mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状を呈しており，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.57～0.66mである。柱痕はP1・P2・P4で認められ，柱の寸法は径16～24cmである。

桁行方向　N－7°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，暗褐色土を少量含み，粘性を帯び，締まっている。版築のような人為的に固められた層。
	5	褐色	暗褐色土を中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。版築のような人為的に固められた層。
	6	褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	8	灰褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	褐色	暗褐色土を中量，ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を中量，ローム中ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	7	褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第211図　第15号掘立柱建物跡実測図

P5　1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を中量，ローム中ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

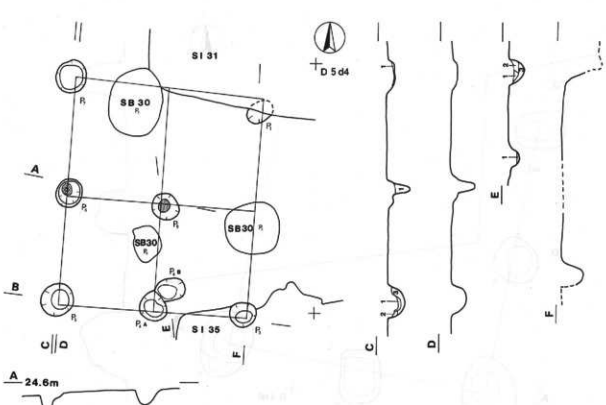
遺物　土師器片３点，須恵器片２点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　ⅡＡ区東部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。桁行３間，梁行２間の側柱構造を持つ他の掘立柱建物跡とは，桁行方向の違いが若干認められる（±９°）が，隣接している第14号掘立柱建物跡についてはほぼ同方向（±２°）で，掘り方も類似している。その関連は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性は高い。時期は，出土遺物から，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

第16号掘立柱建物跡（第212図）

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５d3区。

重複関係　本跡は，第31・35号住居跡，第30号掘立柱建物跡と重複している。第31号住居跡が本跡のＰ1を，



第212図　第16号掘立柱建物跡実測図

第35号住居跡が本跡のP3を，第30号掘立柱建物跡が本跡のP2とP8を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。

規模　桁行２間（平均3.48m），梁行２間（平均3.03m），柱間寸法は桁行1.70～1.80m，梁行1.45～1.55mで，面積は約10.54㎡である。柱穴は８か所（P1～P9）で，総柱構造の建物跡である。P2とP8は確認できなかったが，構造上は存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.42～0.53m，短径0.36～0.52mの楕円形または円形である。また，断面形はU字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.12～0.37mである。柱痕はP6とP9で認められ，柱の寸法は径約20㎝である。

桁行方向　N－4°－E

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P4B	1	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P5	1	暗	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐		色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P7	1	暗	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P9	1	暗	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片１点，須恵器片２点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ｉ区西部の平坦地に位置している。柱穴は，深さ，断面形，柱間寸法ともにほぼ規則性が認められる。他の同構造の掘立柱建物跡と桁行方向が一致していないことから，その関連については不明である。しかし，第30号掘立柱建物跡との切り合い，立地場所などを考えると，第12・13・27・29・30号掘立柱建物跡などと共に，一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，重複している住居が８世紀後葉であることから，奈良時代前期から中期（８世紀前葉から中葉）と考えられる。

第17号掘立柱建物跡（第213図）

位置　調査Ｉ区南西部，Ｄ５d7区。

重複関係　本跡は，第18・19号掘立柱建物跡と重複している。第19号掘立柱建物跡が本跡のＰ5とＰ7を掘り込んでいることから，本跡が古い。第18号掘立柱建物跡との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

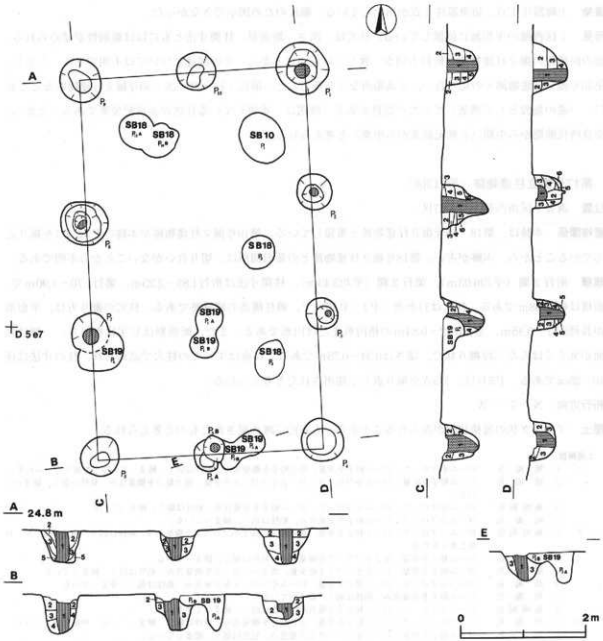
規模　桁行３間（平均6.03m），梁行２間（平均3.43m），柱間寸法は桁行1.85～2.25m，梁行1.70～1.90mで，面積は約20.68㎡である。柱穴は11か所（Ｐ1～Ｐ10）で，倒柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.51～0.85m，短径0.42～0.84mの楕円形または円形である。また，断面形はＵ字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.34～0.75mである。柱痕はすべての柱穴で認められ，柱の寸法は径10～25cmである。Ｐ5Ｂは，Ｐ5Ａを掘り直して使用されたと考えられる。

桁行方向　Ｎ－７°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	極暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	(Ａ・Ｂ)		
	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ6	1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	黒褐色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

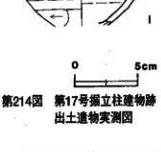


第213図　第17号掘立柱建物跡実測図

P8	1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒　褐　色	焼土小ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	極暗褐色	炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片33点，須恵器片37点が出土している。第214図１の須恵器坏がＰ7の覆土中から出土している。

所見　Ｉ区南西部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と断面形はほぼ一致しているが，深さは一定ではない。柱間寸法についてはほぼ規則性が認められる。桁行方向は，同じ構造の第９・18・23・26・27号掘立柱建物跡とほぼ同方向（±５°）であるが，これらとの関連は不明である。重複している第18号掘立柱建物跡とは構造も似ていることから，同じ機能を持った施設の可能性が高い。時期は，出土遺物から，奈良時代後期（８世紀後葉）と考えられる。



第214図　第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第214図 1	坏 須恵器	A［12.0］ B（4.0）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，中位と下位に明瞭な段を持つ。内壁気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母　砂粒　にぶい黄褐色　普通	10%　P528　P7覆土中

第18号掘立柱建物跡（第215図）

位置　調査Ｉ区南西部，Ｄ５d7区。

重複関係　本跡は，第17・19号掘立柱建物跡と重複している。ともに切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

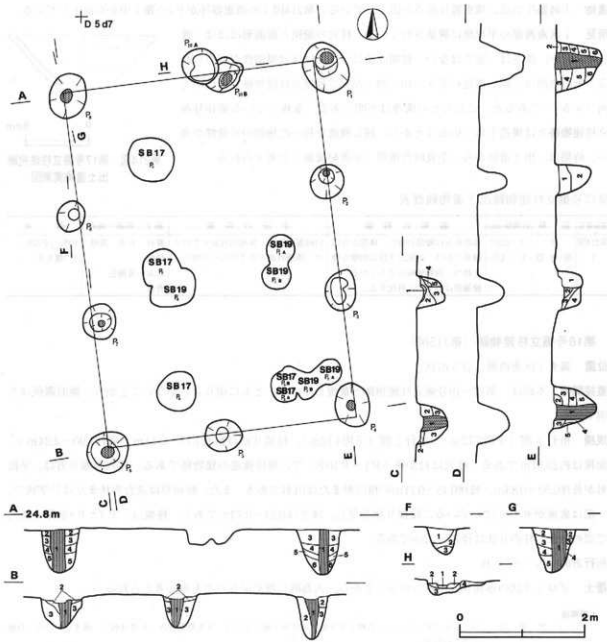
規模　桁行３間（平均5.72m），梁行２間（平均4.12m），柱間寸法は桁行1.75～2.14m，梁行1.90～2.24mで，面積は約23.57m²である。柱穴は11か所（Ｐ1～Ｐ10Ｂ）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.50～0.83m，短径0.45～0.71mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状で，一部は底面が丸くくぼんでいる二段掘り状を呈し，深さは0.24～0.73mである。柱痕は，Ｐ3とＰ8を除く柱穴で認められ，柱の寸法は径12～22cmである。

桁行方向　Ｎ－６°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化物・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒褐色	ローム粒子を少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ4	1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。
Ｐ5	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。



第215図　第18号掘立柱建物跡実測図

P6	1	極暗褐色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P7	1	極暗褐色	ローム粒子を少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。
P8	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム大ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化物・焼土小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

	4	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10B	1	極暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。
	4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片30点，須恵器片30点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区南西部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と断面形は，P10AとP10Bを除いて，ほぼ一致しているが，深さは一定ではない。柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。桁行方向は，同じ構造の第9・17・23・26・27号掘立柱建物跡とほぼ同方向（±4°）であるが，これらとの関連は不明である。重複している第17号掘立柱建物跡とは，構造も似ていることから，同じ機能を持った施設の可能性が高い。時期は，出土遺物から，奈良時代後期（8世紀後葉）と考えられる。

第19号掘立柱建物跡（第216図）

位置　調査Ⅰ区南部，D5e7区。

重複関係　本跡は，第17・18号掘立柱建物跡と重複している。本跡が第17号掘立柱建物跡のP5BとP7を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第18号掘立柱建物跡との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

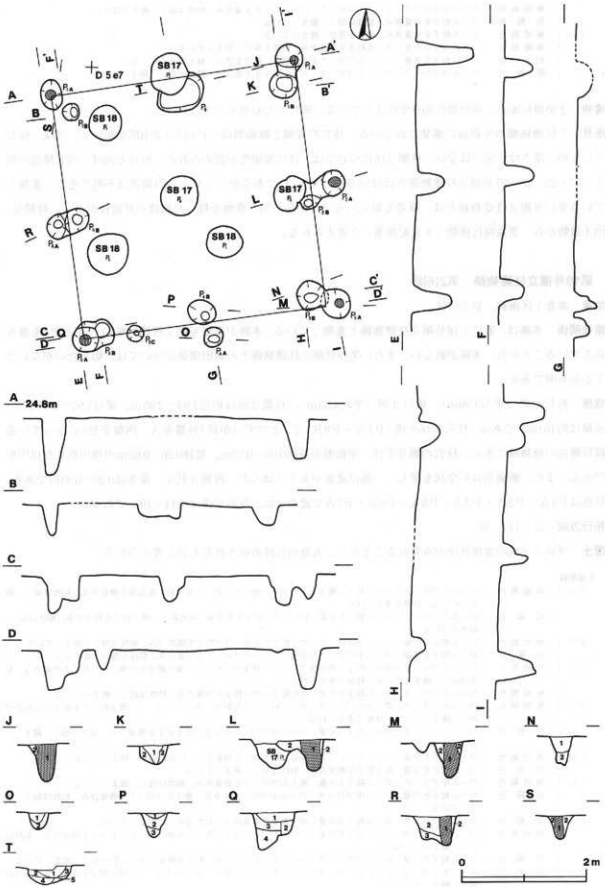
規模　桁行2間（平均3.99m），梁行2間（平均4.03m），柱間寸法は桁行1.94～2.05m，梁行1.97～2.07mで，面積は約16.08㎡である。柱穴は16か所（P1A～P8B）で，2つずつが対（外側をA，内側をB）になっている側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.26～0.70m，短径0.26～0.62mの楕円形または円形である。また，断面形はU字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.26～0.93mである。柱痕はP1A・P2A・P3A・P5A・P6B・P7Aで認められ，柱の寸法は径14～19cmである。

桁行方向　N－11°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1A	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P1B	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P2A	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3A	1	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3B	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒褐色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4A	1	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4B	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，炭化物・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
P5A	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。



第216図　第19号掘立柱建物跡実測図

	4	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6A	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P7A	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗 褐 色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8	1	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐 色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。

遺物　土師器片15点，須恵器片23点が出土している。第217図１の須恵器坏がＰ２Ａの覆土中から，２の須恵器壺がＰ１Ｂの覆土中からそれぞれ出土している。

所見　Ⅰ区南西部の平坦部に構築されている。柱穴の規模と平面形には，Ｐ8を除いてほぼ規則性がみられる。深さは不ぞろいであるが，隅の柱穴については，外側の柱穴が内側の柱穴よりも深くなっている。また，柱間寸法はほぼ規則性が認められる。柱穴の配列については，覆土の堆積状況から内側の柱穴よりも外側の柱穴の方が新しいと考えられるので，初め内側の柱穴を使用したのち，建て替えをしたものと思われる。同構造のものは検出されておらず，他の遺構との関連は不明である。重複している第17・18号掘立柱建物跡とは時期差があまりなく，立地状況も似ていることから，同じ機能を持った施設の可能性が高い。時期は，出土遺物と重複している第17号掘立柱建物跡が８世紀後葉であることから，平安時代前期（９世紀前葉）と考えられる。

第217図　第19号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第217図 1	坏 須恵器	A [13.4] B 4.1 C [8.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，中位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。	長石　石英　砂粒 灰黄色 普通	10%　P529 P2A覆土中
2	壺 須恵器	A [13.0] B 2.8 F 3.1 G 0.9	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は平坦で，中位に明瞭な稜を持ち，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	つまみ・天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	雲母　砂粒 黄灰色 普通	40%　P530 P1B覆土中

第22号掘立柱建物跡（第218図）

位置　調査Ⅰ区南部，Ｄ６ｆ区。

重複関係　本跡は，第23号掘立柱建物跡，第320・337Ａ・337Ｂ・339号土坑と重複している。第337Ａ・337Ｂ号土坑が本跡のＰ6を，第339号土坑が本跡のＰ7を掘り込んでいることから，本跡が古い。第23号掘立柱建物跡，第320号土坑との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行４間（平均7.74m），梁行２間（平均4.73m），柱間寸法は桁行1.80～2.07m，梁行2.27～2.50mで，面積は約36.61m²である。柱穴は12か所（Ｐ1～Ｐ12）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.47～1.06m，短径0.37～0.65mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈しており，深さは0.43～0.70mである。柱痕はＰ1・Ｐ10・Ｐ11で認められ，柱の寸法は径13～18cmである。

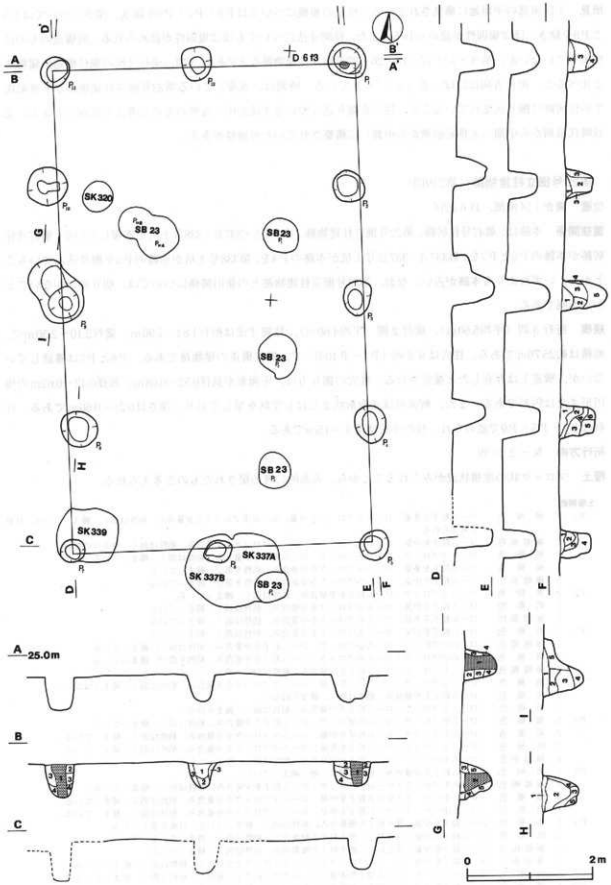
桁行方向　Ｎ－８°－Ｗ

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ2	1	極暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ4	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ5	1	黒　褐　色	ロームを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ6	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
Ｐ7	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ10	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ11	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ12	1	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　土師器片２点が出土している。細片のため図示できなかった。



第218図　第22号掘立柱建物跡実測図

所見　Ⅰ区南部の平坦地に構築されている。柱穴の規模についてはP6・P7・P9を除き，深さについてはP3とP9を除き，ほぼ規則性が認められる。また，柱間寸法についてもほぼ規則性が認められる。同構造のものは検出していないが，第9・12・17・18・26・27号掘立柱建物跡などの桁行3間，梁行2間の側柱構造の建物跡と比べると，桁行方向にはほぼ一致（±5°）している。時期は，重複している第23号掘立柱建物跡が8世紀後半の住居跡に掘り込まれていること，柱穴を掘り込んでいる土坑が中・近世のものと考えられることから，奈良時代前期から中期（8世紀前葉から中葉）に構築されていた可能性がある。

第23号掘立柱建物跡（第219図）

位置　調査Ⅰ区南部，D6g2区。

重複関係　本跡は，第47号住居跡，第22号掘立柱建物跡，第337A・337B・338号土坑と重複している。第47号住居跡が本跡のP6とP7を，第337A・337B号土坑が本跡のP4を，第338号土坑が本跡のP5を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。なお，第22号掘立柱建物跡との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

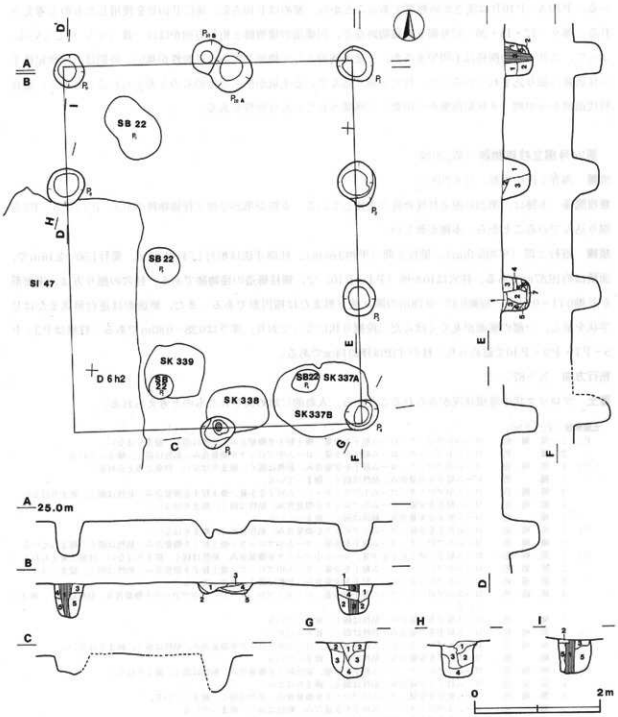
規模　桁行3間（平均5.60m），梁行2間（平均4.60m），柱間寸法は桁行1.84～1.90m，梁行2.10～2.50mで，面積は約25.76m²である。柱穴は9か所（P1～P10B）で，側柱構造の建物跡である。P6とP7は確認していないが，構造上は存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.52～0.68m，短径0.42～0.62mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈しており，深さは0.21～0.60mである。柱痕はP1・P5・P9で認められ，柱の寸法は径9～15cmである。

桁行方向　N－2°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P2	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	7	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P4	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
	2	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。



第219図　第23号掘立柱建物跡実測図

3　黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
5　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　土師器片２点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区南部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。深さについては一定していない。梁行の中間に位置しているＰ5とＰ10Ａ・Ｐ10Ｂが他の柱穴に比べて浅くなって

いる。P10A・P10Bは深さが同程度であることから，初めはP10Aを，後にP10Bを使用したものと考えられる。第9・17・18・26・27号掘立柱建物跡など，同構造の建物跡と桁行方向がほぼ一致（±5°）している。よって，これらとの関係は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，8世紀後半の住居跡に掘り込まれていること，柱穴を掘り込んでいる土坑が中・近世のものと考えられることから，奈良時代前期から中期（8世紀前葉から中葉）に構築されていた可能性がある。

第24号掘立柱建物跡（第220図）

位置　調査Ⅰ区中央部，D6j7区。

重複関係　本跡は，第25号掘立柱建物跡と重複している。本跡が第25号掘立柱建物跡のP2・P3・P5・P7を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

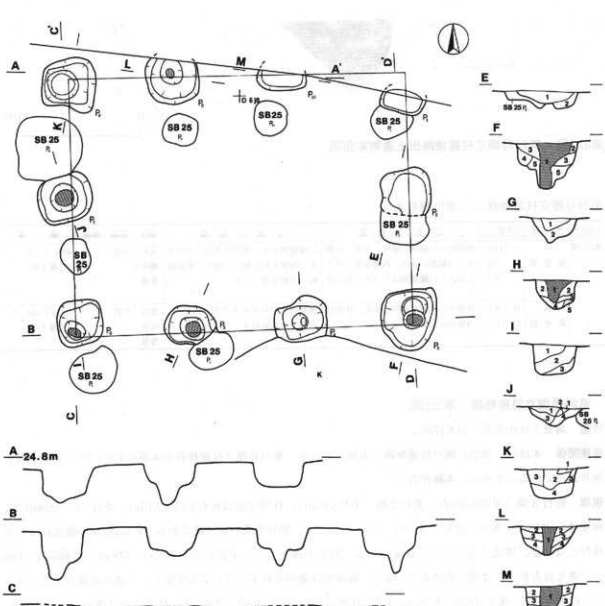
規模　桁行3間（平均5.46m），梁行2間（平均3.64m），柱間寸法は桁行1.74～1.91m，梁行1.50～2.16mで，面積は約19.87㎡である。柱穴は10か所（P1～P10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.71～0.91m，短軸0.43～0.78mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部の底面が丸くくぼんだ二段掘り状になっており，深さは0.28～0.80mである。柱痕はP3・P5～P7・P9・P10で認められ，柱の寸法は径約14cmである。

桁行方向　N－87°－E

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説（P2～P10）

P2	1	黒	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗	褐 色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	黒	褐 色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒	褐 色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	暗	褐 色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐 色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒	褐 色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8	1	褐	色	ロームを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	黒	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・黒褐色土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗	褐 色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	黒	褐 色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒	褐 色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗	褐 色	ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。



第220図　第24号掘立柱建物跡実測図

遺物　土師器片41点，須恵器片42点，礫４点が出土している。第221図１の須恵器坏がＰ8の覆土中から，２の須恵器鉢がＰ3の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　Ⅰ区中央部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。深さについては一定していない。他の掘立柱建物跡との桁行方向をみてみると，隣接する第２・３号掘立柱建物跡とほぼ同方向に並んでいる。よって，その関連は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性は高く，第１・２・３号掘立柱建物跡と同時期に構築されていたと思われる。時期は，出土遺物から奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。また，本跡は第25号掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。

第221図　第24号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第24号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第221図 1	坏 須恵器	A [13.6] B 3.4 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石　砂粒 褐灰色 普通	40% P532 P8覆土中
2	鉢 須恵器	B (8.1) C [16.0]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行タタキ，下位ヘラ削り。内面アテ具痕有り。	雲母　砂粒 灰色 普通	10% P533 P3覆土中

第25号掘立柱建物跡（第222図）

位置　調査Ⅰ区中央部，D 6 j7区。

重複関係　本跡は，第24号掘立柱建物跡と重複している。第24号掘立柱建物跡が本跡のP2・P3・P5・P7を掘り込んでいることから，本跡が古い。

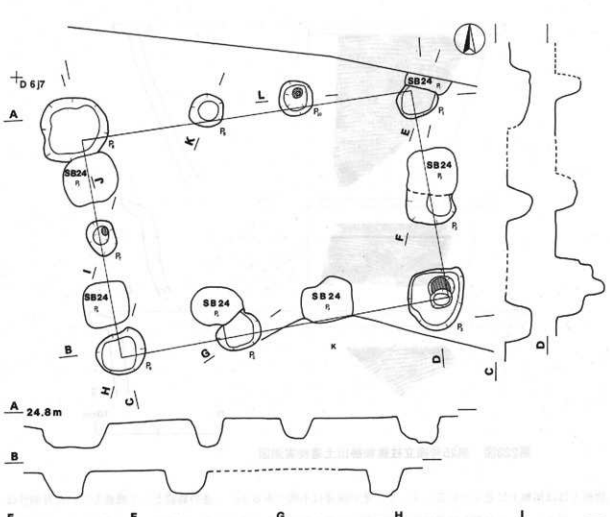
規模　桁行３間（平均5.39m），梁行２間（平均3.55m），柱間寸法は桁行1.43～2.15m，梁行1.57～2.00mで，面積は約19.13m²である。柱穴は９か所（P1～P10）で，側柱構造の建物跡である。P4は後世の攪乱によって残存しないが，構造上存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.53～1.06m，短軸0.44～1.00mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部の底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.32～0.76mである。柱痕はP3・P7・P10で認められ，柱の寸法は径10～16cmである。

桁行方向　N－87°－E

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐	色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まりはない。
	5	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	6	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	褐		色	ローム粒子・褐色土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	褐		色	ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P6	1	褐		色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐		色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P7	1	黒	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐		色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

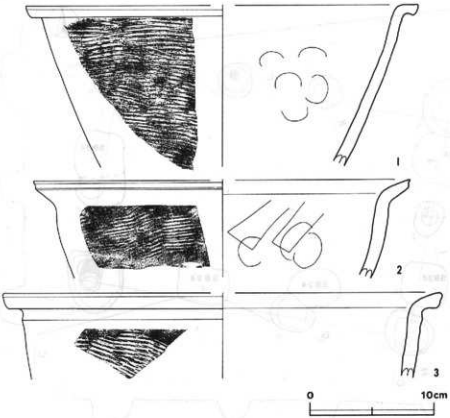


第222図　第25号掘立柱建物跡実測図

P8	1	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，ローム大ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	黒	褐	色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐		色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P10	1	暗	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	灰	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片77点，須恵器片43点，炭化物が出土している。第223図１の須恵器鉢がＰ8の覆土中から，２の須恵器鉢がＰ8の覆土中から，３の須恵器甑がＰ1の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　Ｉ区中央部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。深さについては一定していない。他の掘立柱建物跡との桁行方向をみてみると，隣接する第２・３号掘立柱建



第223図　第25号掘立柱建物跡出土遺物実測図

物跡とほぼ同軸上に並んでいる。よって，その関連は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性は高く，第1・2・3号掘立柱建物跡と同時期に構築されていたと思われる。時期は，出土遺物から，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と考えられるが，いつ第24号掘立柱建物跡に建て替えたかは不明である。

第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第223図 1	鉢 須恵器	A [31.6] B (13.0)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，内面アテ具痕有り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	20%　P534 P8覆土中
2	鉢 須恵器	A [30.4] B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部はつまみ上げられている。口唇部に棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，内面ヘラナデ，アテ具痕有り。	雲母　砂粒 灰白色 普通	10%　P535 P8覆土中
3	甕 須恵器	A [35.6] B (6.9)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまげられている。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ。	砂粒 黄灰色 普通	10%　P536 P1覆土中

第26号掘立柱建物跡（第224図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｄ６c6区。

重複関係　本跡は，第50号住居跡，第138・344～347・352・353号土坑と重複している。第50号住居跡が本跡のＰ2を，第138号土坑が本跡のＰ3を，第353号土坑が本跡のＰ1を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。なお，第344～347・352号土坑との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行３間（平均6.35m），梁行２間（平均4.61m），柱間寸法は桁行1.75～2.50m，梁行2.15～2.57mで，面積は約29.27㎡である。柱穴は９か所（Ｐ2・Ｐ4～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。Ｐ1とＰ3は住居跡と土坑によって掘り込まれており，確認できなかったが，構造上は存在したと推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.37～0.88m，短軸0.34～0.80mの隅丸長方形または楕円形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈しており，深さは0.33～0.88mである。柱痕はＰ2・Ｐ6・Ｐ8・Ｐ9で認められ，柱の寸法は径11～18cmである。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｗ

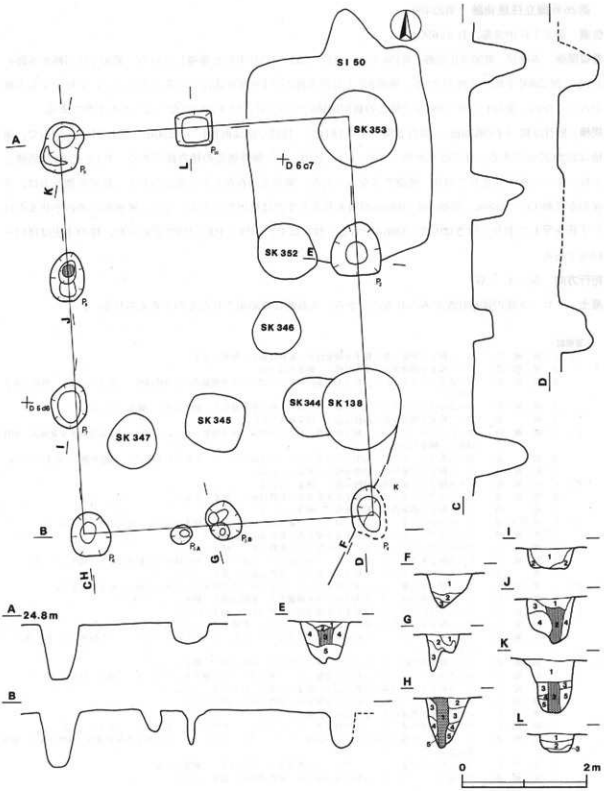
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ2	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	4	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	褐　　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
Ｐ4	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロック・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐　　色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5Ａ	1	灰　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐　　色	ローム粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ6	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ7	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ8	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ9	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ10	1	暗　褐　色	ローム粒子・黒褐色土を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片２点，須恵器片７点が出土している。いずれも細片のため，図示できなかった。

所見　Ⅰ区中央部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間寸法については，Ｐ2を除き，規則性が認められる。深さについては一定していないが，四隅に位置する柱穴は深くなる傾向がある。梁行の中間に位置しているＰ5AとＰ5Bは深さが同程度であることから，Ｐ5Bの補助穴としてＰ5Aを使用したと考えられる。第９・17・18・23・27号掘立柱建物跡など，同構造の建物跡と桁行方向はほぼ一致（±５°）している。また，隣接



第224図　第26号掘立柱建物跡実測図

する第６号掘立柱建物跡とも桁行方向が近いことから，一連の施設として機能していた可能性も考えられる。時期は，重複している第50号住居跡が９世紀前葉，第138・353号土坑が９世紀中葉のものと考えられることから，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）に構築されていたと思われる。

第27号掘立柱建物跡（第225図）

位置　調査Ⅰ区南西部，Ｄ５f4区。

重複関係　本跡は，第35・36号住居跡，第29号掘立柱建物跡，第248・252Ｂ号土坑と重複している。第35号住居跡が本跡のＰ9とＰ10を，第36号住居跡が本跡のＰ1を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。なお，第29号掘立柱建物跡と第248・252Ｂ号土坑との新旧関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行３間（平均6.53m），梁行２間（平均4.14m），柱間寸法は桁行2.03～2.35m，梁行1.89～2.27mで，面積は約27.03㎡である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.58～0.89m，短径0.55～0.79mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはＵ字状を呈しており，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.32～0.48mである。柱痕はＰ2・Ｐ4・Ｐ6～Ｐ8で認められ，柱の寸法は径約17cmである。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｗ

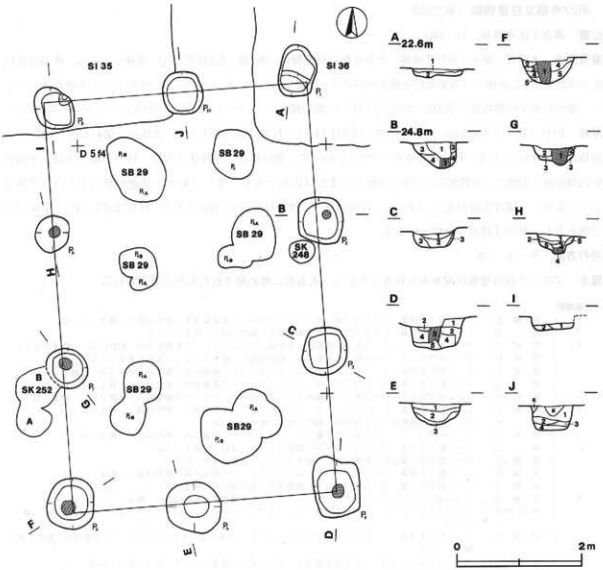
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

Ｐ1	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ2	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ3	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	褐　　色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ4	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	灰　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	灰　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ5	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ6	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ7	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ8	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	5	褐　　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
Ｐ9	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
Ｐ10	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロックを少量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。

遺物　土師器片９点，須恵器片５点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　Ⅰ区南西部の平坦地に構築されている。柱穴の規模，柱間寸法，深さについては，規則性が認められる。第９・17・18・23・26号掘立柱建物跡など，同構造の建物跡と桁行方向はほぼ一致（±５°）している。また，



第225図　第27号掘立柱建物跡実測図

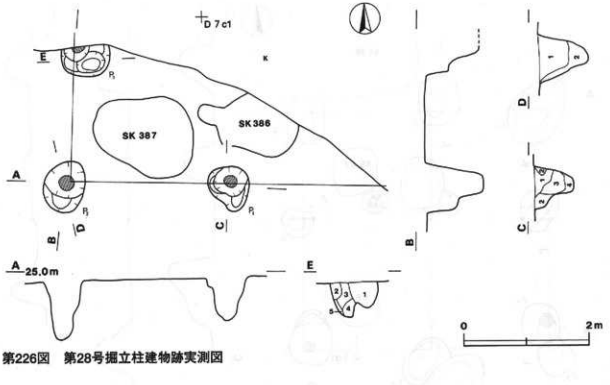
重複する第29号掘立柱建物跡，隣接する第30号掘立柱建物跡とも桁行方向が近いことから，関係は不明であるが，一連の施設として機能していた可能性も考えられる。時期は，重複している第35・36号住居跡が8世紀後葉と考えられることから，奈良時代前期から中期（8世紀前葉から中葉）に構築されていたと思われる。

第28号掘立柱建物跡（第226図）

位置　調査Ⅰ区東部，D 6 c0区。

重複関係　本跡は，第386・387A・387B号土坑と重複しているが，切り合いがないことから新旧関係は不明である。

規模　北部・東部で攪乱を受けていることから，全体の規模は不明である。残存している部分は，桁行1間（2.20m），梁行1間（2.60m）である。柱穴は3か所（P1～P3）で，側柱構造の建物跡と推定される。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.70～0.82m，短径0.55～0.64mの楕円形または円形である。また，断面形はU字状を呈し，一部の底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.60～0.94mである。柱痕はすべての柱穴で認められ，柱の寸法は径21～24cmである。



第226図　第28号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　不明

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片29点，須恵器片14点が出土している。細片のため図示できなかった。

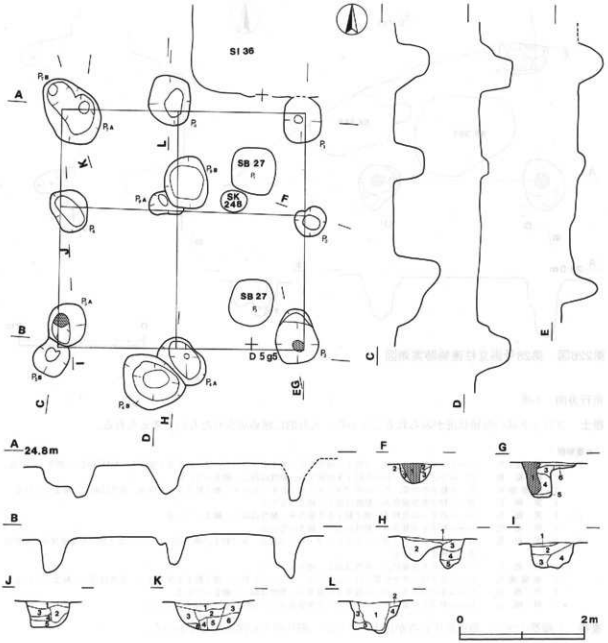
所見　Ⅰ区東部の平坦地に構築されている。ほとんどが撹乱を受けているため，正確な構造や規模は不明である。底面の掘り方がしっかりとして，柱痕と思われるくぼみが確認されたことから，掘立柱建物跡と判断した。時期は，出土遺物から，奈良時代中期（8世紀中葉）と考えられ，他の掘立柱建物跡との関係は不明であるが，第1・2・3・9・24・25号掘立柱建物跡と同時期に構築され，一連の施設として機能していた可能性は高い。

第29号掘立柱建物跡（第227図）

位置　調査Ⅰ区南西部，D5f区。

重複関係　本跡は，第36号住居跡，第27号掘立柱建物跡，第248号土坑と重複している。第36号住居跡が本跡のP1を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，第27号掘立柱建物跡，第248号土坑との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行2間（平均3.75m），梁行2間（平均3.78m），柱間寸法は桁行1.50～2.50m，梁行1.65～2.02mで，



第227図　第29号掘立柱建物跡実測図

面積は約14.18m²である。柱穴は13か所（P1～P9B）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.50～1.15m，短径0.45～0.81mの楕円形，円形または不定形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.16～0.73mである。柱痕はP2・P3・P5Aで認められ，柱の寸法は径14～21cmである。

桁行方向　N－3°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

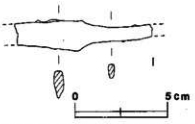
P2　1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。

　　2　暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

	3	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P3	1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。
P4（A・B）			
	1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5A	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量，炭化粒子・焼土中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を少量，炭化物・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
P7（A・B）			
	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，焼土粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
	6	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P8	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　土師器片22点，須恵器片26点，鉄製品１点（刀子）が出土している。第228図１の刀子がP1の覆土中から出土している。

所見　Ⅰ区南西部の平坦地に位置している。柱穴の規模は，中央の桁列は小さい傾向があるが，深さ，断面形ともにP2・P9A・P9Bを除いてほぼ規則性が認められる。柱間寸法については，中央の桁列が北側の桁列に寄り気味で，特にP9A・P9Bは極端に寄っている。第１・4A・4B・５・13・30号掘立柱建物跡など，桁行２間，梁行２間の総柱構造の建物跡と桁行方向はほぼ一致（±４°）している。また，別構造の第12・27号掘立柱建物跡などの隣接している建物跡ともほぼ一致（±１°）している。よって，これらの掘立柱建物跡と同時期に，一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土遺物と重複している住居跡が８世紀後葉と考えられることから，奈良時代前期から中期（８世紀前葉から中葉）と思われる。



第228図　第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第228図1	刀子	(7.4)	1.6	0.5	(12)	P1覆土中	M60

第30号掘立柱建物跡（第229図）

位置　調査Ⅰ区西部，D5d3区。

重複関係　本跡は，第31・35号住居跡，第16号掘立柱建物跡，第230・234号土坑と重複している。第31号住居跡が本跡のP1・P7・P8を，第35号住居跡が本跡のP3・P4・P5を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が古い。また，本跡が第16号掘立柱建物跡のP2とP8を掘り込んでいることから，本跡が新しい。第230・234号土坑との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

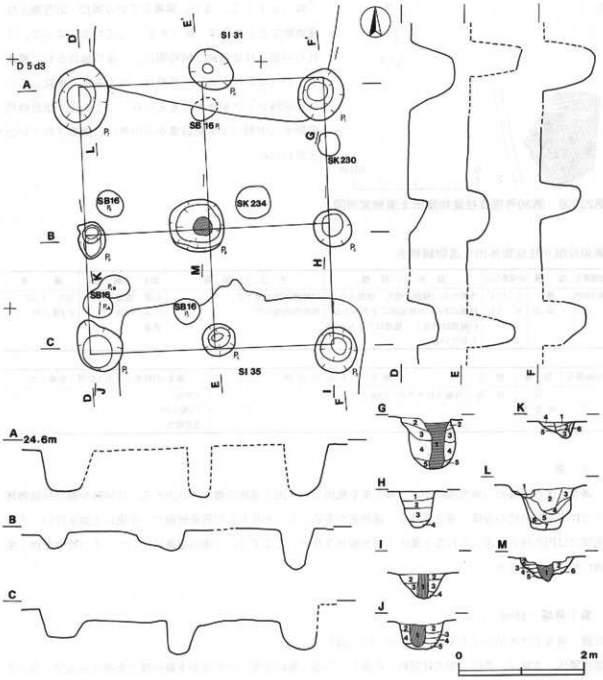
規模　桁行2間（平均4.18m），梁行2間（平均3.90m），柱間寸法は桁行1.80～2.50m，梁行1.75～2.15mで，面積は約16.30㎡である。柱穴は9か所（P1～P9）で，総柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.52～1.10m，短径0.44～0.86mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは0.27～0.87mである。柱痕はP1・P3～P5・P9で認められ，柱の寸法は径16～30cmである。

桁行方向　N－3°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

P1	1	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	灰褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
P3	1	黒褐色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗褐色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
	2	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P6	1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。
P7	1	暗褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗褐色	ローム粒子・砂を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	灰褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	灰褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P9	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗褐色	ローム粒子・褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

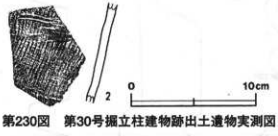


第229図　第30号掘立柱建物跡実測図

3	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	褐	色	ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
5	暗褐	色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
6	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片15点，須恵器片９点が出土している。第230図１の土師器甕がＰ1の覆土中から，２の須恵器鉢がＰ5の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　Ⅰ区西部の平坦地に位置している。柱穴の規模は，深さ，断面形ともにＰ6を除いてほぼ規則性が認められる。柱間寸法については，中央の桁列が南側の桁列に若干寄り気味であるが，ほぼ規則性が認められる。第１・4A・4B・５・13・29号掘立柱建物跡など，桁行２間，梁行２間の総柱構造の建物跡と桁行方向はほぼ



第230図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図

一致（±4°）し，また，隣接している第12・27号掘立柱建物跡などともほぼ一致（±3°）している。よって，これらの掘立柱建物跡と同時期に，一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土遺物と重複している住居跡が8世紀後葉と考えられることから，奈良時代前期から中期（8世紀前葉から中葉）に構築されていたと思われる。

第30号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第230図 1	甕 土師器	A〔17.4〕 B〔5.1〕	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面横ナデ。 体部内外面ナデ。	石英　雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	10%　P537 P1覆土中

図版番号	器　種	部　分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
2	鉢 須恵器	体　部	外面平行タタキ。内面ナデ。	TP35 P5覆土中 浅黄橙色

(3)　堀

調査Ⅰ区の東部から南東部にかけて堀1条を検出した。出土遺物や覆土の状況から，住居跡や掘立柱建物跡等に伴う奈良時代の遺構と考えられる。遺物量が多く，しっかりとした箱薬研堀で，中央に土橋を伴い，その東側には門の柱穴と考えられる3基の土坑が検出された。ここでは，一連の遺構について，その特徴や出土遺物について記載する。

第1号堀（付図2）

位置　調査Ⅰ区東部から南東部，C7i2～D7j3区。

重複関係　本跡は，第67号竪穴住居跡と重複している。第67号竪穴住居跡が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と平面形　本跡は，調査Ⅰ区東部から南に向かって直線的に延びている。一部攪乱を受けていること，また，南東部で区域外に至ることから，全体の規模は不明である。確認された長さは44.80m で，上幅1.24～1.80m，下幅0.75～1.25m，深さ0.67～0.78m，土橋部分は長さ3.30m である。断面形は箱薬研を呈する。

方向　N－5°－W

覆土　A断面は12層，C断面は13層，D断面は5層，F断面7層に分層され，ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

A断面　1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　2　灰　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
　　3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

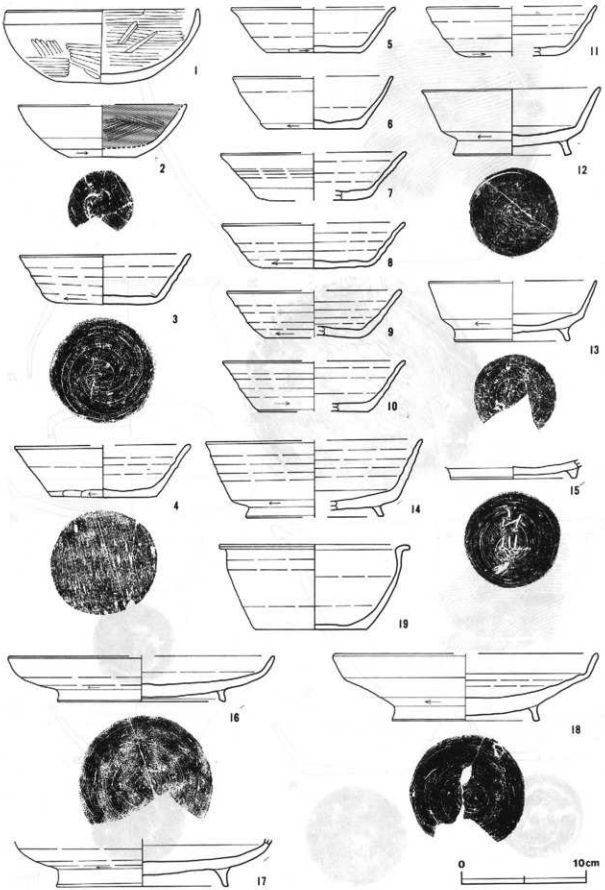
	4	灰　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	5	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	褐　灰　色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　灰　色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂・黒褐色土を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	8	褐　灰　色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	9	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	10	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	11	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	12	暗　褐　色	ローム粒子を少量，砂を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
C断面	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，焼土粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	極暗褐色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子・灰褐色土を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	6	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	極暗褐色	黒褐色土を少量，ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	8	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・黒褐色土を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
	9	暗　褐　色	ローム粒子・褐色土を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	10	灰　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	11	灰　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	12	褐　灰　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	13	灰　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
D断面	1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子を中量，焼土中ブロック・焼土小ブロックを少量，炭化物・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・焼土中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	褐　　色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
F断面	1	黒　褐　色	焼土粒子を中量，ローム粒子・焼土小ブロックを少量，ローム小ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
	2	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	5	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	6	褐　　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	7	褐　　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片1538点，須恵器片1561点，土製品１点（不明土製品），石器１点（砥石），瓦１点，椀状滓２点，礫12点，自然遺物２点（山モモの種子）が出土している。遺物は，土橋を挟んで堀の北側（A区）と南側（B区）から多量に出土しているが，その割合はA区から43.4％（土師器片592点，須恵器片761点，礫11点，椀状滓２点），B区から56.6％（土師器片946点，須恵器片800点，土製品１点，瓦１点，砥石１点，礫１点，山桃の種子２点）である。それぞれの区の北部に遺物が集中している。また，遺物の出土層位は，覆土上層から出土したものが56.3％，覆土中層から出土したものが23.6％，覆土下層または底面直上から出土したものが13.8％，その他が6.3％で，ほとんど覆土上層から覆土中層にかけて出土している。これらの遺物は，堀が廃絶され，人為的に埋め戻された時に投棄されたものと思われる。A区から出土しているものは，第231図１の土師器坏が南部の底面直上から，３・４の須恵器坏，12の須恵器高台付坏，19の須恵器小形鉢，第232図24の須恵器長頸瓶が北部の覆土中層から，第231図８の須恵器坏が南部の覆土下層から，13・15の須恵器高台付坏（15は底部外面に刻書「山川」），第235図44・45の椀状滓が北部の覆土上層からそれぞれ出土している。また，B区から出土しているものは，第232図26の須恵器坏が南部の覆土中層から，27の須恵器坏が北部の覆土上層から覆土中層にかけて，28の須恵器坏，第235図46の軒丸瓦が北部の覆土上層から，第233図34の須恵器高盤が南部の覆土上層から，35の土師器椀が北部の覆土下層から，第234図43の須恵器甑が北部から中央部の覆土上層から覆土中層にかけてそれぞれ出土している。また，山モモの種子２点はB区の覆土上層から出土している。

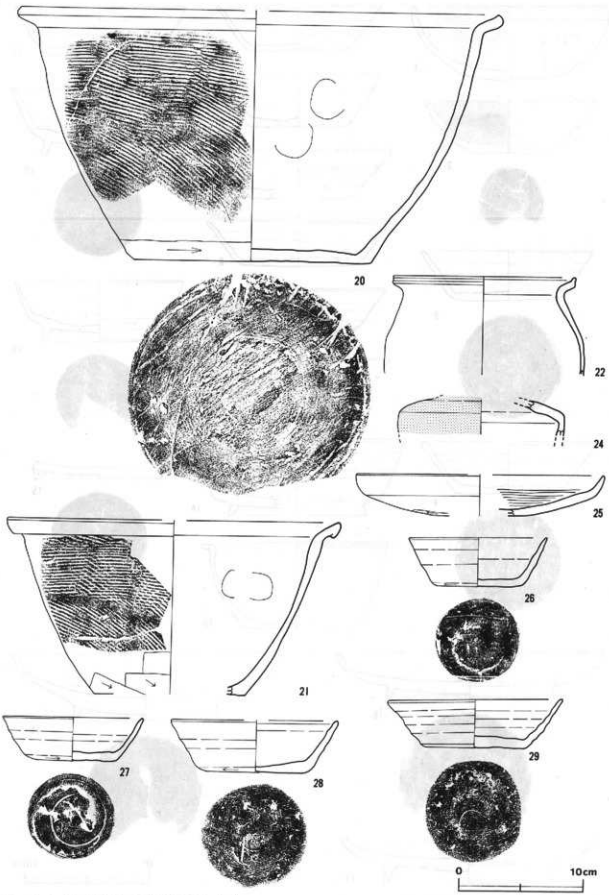
所見　本跡は調査Ⅰ区の東部から南東部に延び，その西側に第1・2・3・8・24・25号掘立柱建物跡が一列に並んでいる。そして，それらの桁行方向は堀と直交している。また，堀の北端から北側には奈良時代の掘立柱建物跡は構築されていない。よって，堀は集落施設を区画するために機能していたと思われる。時期は，重複している第67号住居跡が9世紀後葉と考えられることや出土遺物，遺構の配置状況から，奈良時代前期（8世紀前葉）に構築され，後期（8世紀後葉）に廃絶されたと考えられる。

第1号堀出土遺物観察表

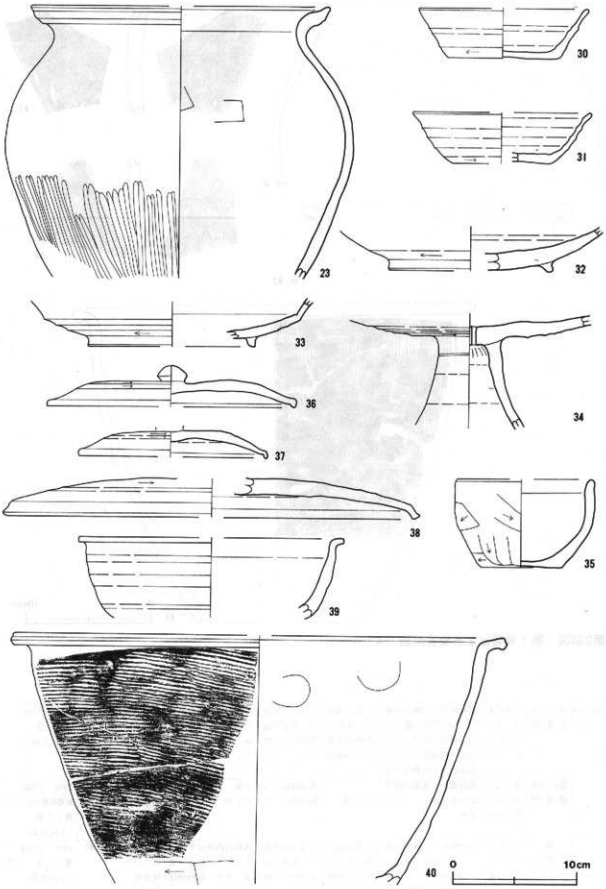
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	坏 土師器	A 15.5 B 6.2 C 7.6	体部と口縁部の一部欠損。 平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部は丸立する。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ後，底部にかけヘラ磨き。	石英　雲母　砂粒 スコリア 橙色 普通	90%　P503 底面直上 (A区南部)
2	坏 土師器	A [13.6] B 4.3 C 5.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。内面から底部内面にかけヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，一方向の手持ちヘラ削り。	雲母　スコリア 砂粒 内面　黒色 外面　明黄色 普通	30%　P538 内面黒色処理 底部外面黒炭 内面一部剥離 覆土上層(A区北部)
3	坏 須恵器	A 13.7 B 4.1 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	60%　P539 覆土中層 (A区北部)
4	坏 須恵器	A [14.3] B 4.1 C 8.5	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，一方向の手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰黄色 普通	60%　P540 覆土中層 (A区北部)
5	坏 須恵器	A [13.2] B 3.7 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	40%　P541 覆土上層 (A区北部)
6	坏 須恵器	A [13.0] B 4.2 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	40%　P542 覆土中層 (A区南部)
7	坏 須恵器	A [14.8] B 3.8 C [9.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	石英　雲母　砂粒 灰色 普通	30%　P543 覆土中層 (A区北部)
8	坏 須恵器	A [14.6] B 3.6 C 8.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，手持ちヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	40%　P544 覆土下層 (A区南部)
9	坏 須恵器	A [14.0] B 3.8 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒 黄色 普通	40%　P545 覆土中層
10	坏 須恵器	A [14.6] B 4.1 C 8.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石　石英　砂粒 褐色 普通	20%　P546 覆土上層 (A区北部)
11	坏 須恵器	A [13.6] B 4.0 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	20%　P547 覆土下層 (A区北部)
12	高台付坏 須恵器	A 14.5 B 5.5 D 9.6 E 1.2	高台部・体部・口縁部の一部欠損。高台部は長く，「八」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	雲母　砂粒 内面　黄灰色 外面　黒色 普通	80%　P549 覆土中層 (A区北部)
13	高台付坏 須恵器	A [13.6] B 4.9 D 9.4 E 1.1	底部から口縁部の破片。高台部は長く，「八」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，直線的に立ち上がる。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 灰黄色 普通	60%　P550 覆土上層 (A区北部)



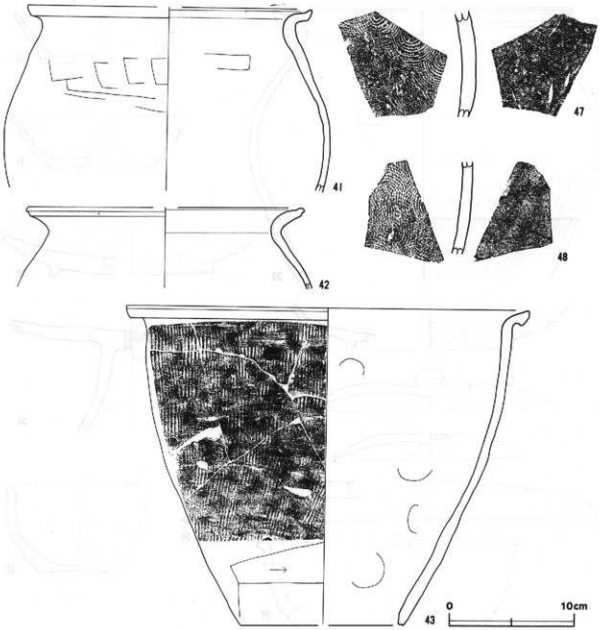
第231図　第１号堀出土遺物実測図（１）



第232図　第１号堀出土遺物実測図（２）

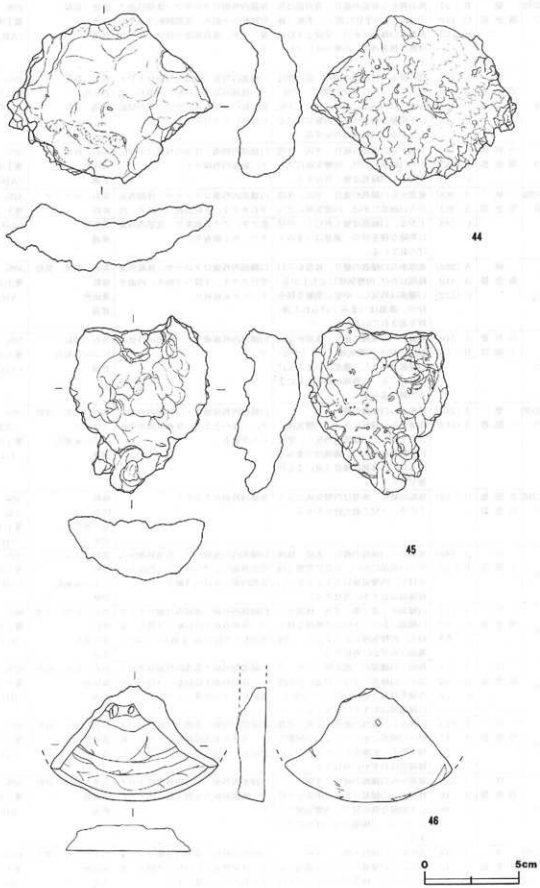


第233図　第１号堀出土遺物実測図（３）



第234図　第１号堀出土遺物実測図（４）

第231図 14	高台付坏 須恵器	A［17.4］ B　6.2 D［11.2］ E　1.0	高台部から口縁部の破片。高台部は「ハ」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石　砂粒 黄灰色 普通	30%　P551 覆土上層 （A区北部）
15	高台付坏 須恵器	B（1.4） D　10.2 E　0.9	高台部から底部の破片。 高台部は短く，「ハ」の字状に開く。平底。	底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石　雲母　砂粒 黄灰色 普通	10%　P553 底部外面屑部「山川」 覆土上層 （A区北部）
16	盤 須恵器	A［21.4］ B　3.7 D　13.4 E　1.0	高台部から口縁部の破片。高台部は「ハ」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部は外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 スコリア 灰黄色 普通	40%　P554 覆土上層～中層 （A区南部）



第235図　第１号堀出土遺物実測図（５）

第231図 17	壺 須恵器	B (3.7) D 14.0 E 1.5	高台部から体部の破片。高台部は長く，「八」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	雲母　砂粒 灰色 普通	40%　P555 覆土中層 (A区北部)
18	壺 須恵器	A [21.2] B 5.4 D 11.8 E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台部は長く，「八」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に不明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石　砂粒 黄灰色 普通	40%　P556 覆土中層 (A区北部)
19	小形鉢 須恵器	A 15.4 B 6.7 C 9.7	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。底部内外面ナデ。	長石　砂粒 青灰色 普通	50%　P560 覆土中層 (A区北部)
第232図 20	鉢 須恵器	A [38.6] B 20.1 C 19.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，下位回転ヘラ削り。内面ナデ，アテ具痕有り。底部内外面ナデ，モミ痕有り。	長石　スコリア 砂粒 黄灰色 普通	40%　P561 覆土上層～中層 (A区北部)
21	鉢 須恵器	A [26.8] B 14.0 C [12.2]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられた後，折り返されている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，下位ヘラ削り。内面ナデ，アテ具痕有り。	長石　石英　雲母 砂粒 黄灰色 普通	30%　P562 覆土上層～中層 (A区北部)
22	小形壺 土師器	A 14.6 B (7.9)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。口唇部に棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ。	長石　砂粒 にぶい赤褐色 普通	20%　P563 覆土上層～中層 (A区北部)
第233図 23	甕 土師器	A [24.0] B (21.8)	体部から口縁部の破片。 体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられ，口唇部に棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面中位からヘラ磨き。	長石　石英　砂粒 スコリア にぶい赤褐色 普通	30%　P564 二次焼成 覆土中層 (A区北部)
第232図 24	長頸瓶 須恵器	B (2.8)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，上位で最大径を有する。	体部内外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 釉　黄色 良好	10%　P559 外面一部自然釉 覆土中層 (A区北部)
25	坏 土師器	A [19.9] B (3.3)	底部から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけ，中位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面横ナデ。体部外面から底部外面にかけヘラ削り。内面から底部内面にかけヘラ磨き。	雲母　スコリア 砂粒 にぶい赤褐色 普通	20%　P565 覆土中層～下層 (B区中央部)
26	坏 須恵器	A 11.2 B 4.0 C 6.9	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，中位に不明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	90%　P566 覆土中層 (B区南部)
27	坏 須恵器	A 11.1 B 3.6 C 7.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，中位に不明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石　石英　砂粒 黄灰色 普通	80%　P567 覆土上層～中層 (B区北部)
28	坏 須恵器	A [13.3] B 4.7 C 7.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，中位に不明瞭な稜を持ち，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 黄灰色 普通	60%　P568 覆土上層 (B区北部)
29	坏 須恵器	A 13.9 B 4.0 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に不明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	50%　P569 覆土中層 (B区南部)
第233図 30	坏 須恵器	A [13.4] B 4.0 C 9.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	石英　雲母　砂粒 黄灰色 普通	40%　P570 覆土上層 (B区北部)

第233図 31	坏 須恵器	A [14.2] B 4.1 C [7.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 黄灰色 普通	30%　P571 覆土上層 (B区北部)
32	盤 須恵器	B (3.6) D [13.2] E 0.9	高台部から体部の破片。高台部は短く，「八」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 灰黄色 普通	30%　P572 覆土上層～中層 (B区南部)
33	盤 須恵器	B (3.9) D [13.3] E 0.8	高台部から口縁部の破片。高台部は短く，「八」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，中位と下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石　雲母　砂粒 灰黄色 普通	30%　P573 覆土上層～中層 (B区北部)
34	高　盤 須恵器	B (9.2) E (7.2)	脚部から体部の破片。脚部はラッパ状に広がる。底部は平底で，中心に小孔を有する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ，外面下位回転ヘラ削り。脚部貼り付け，内外面ロクロナデ。内面一部ヘラナデ。	石英　雲母　砂粒 黄灰色 普通	30%　P574 覆土上層 (B区南部)
35	椀 土師器	A [10.9] B 7.1 C 6.6	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面ナデ。底部外面ヘラナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	70%　P575 覆土下層 (B区北部)
36	壺 須恵器	A [20.1] B 3.3 F 2.4 G 1.2	つまみから口縁部の破片。宝珠状のつまみが付く。天井部は平坦で，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	つまみ・天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰白色 普通	30%　P576 覆土上層 (B区)
37	壺 須恵器	A [15.2] B (2.1)	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦で，内彎気味に開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	40%　P577 覆土上層 (B区北部)
38	壺 須恵器	A [33.6] B (3.2)	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦で，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して外反する。	天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰白色 普通	30%　P578 覆土上層 (B区北部)
39	小形鉢 須恵器	A [21.3] B (6.4)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	30%　P580 覆土上層～中層 (B区北部)
40	鉢 須恵器	A [39.6] B (19.9)	体部から口縁部の破片。 体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，下位ヘラ削り。内面ナデ，アテ具痕有り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	20%　P579 覆土中層 (B区北部)
第234図 41	甕 土師器	A [22.8] B (14.7)	体部から口縁部の破片。 体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部はつまみ上げられている。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ，一部ヘラナデ。	石英　雲母　砂粒 スコリア にぶい褐色 普通	20%　P581 二次焼成 覆土中層 (B区北部)
42	甕 土師器	A [22.0] B (6.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。口巻部に棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内外面横ナデ。体部内外面ナデ。	長石　石英　砂粒 にぶい赤褐色 普通	10%　P582 覆土上層～中層 (B区北部)
43	甑 須恵器	A 32.6 B 25.4 C [13.3]	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部は折り返されている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面上位平行タタキ，下位ヘラ削り。内面ナデ，アテ具痕有り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰褐色 普通	50%　P583 覆土上層～中層 (B区北部 ～中央部)

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第235図44	椀状滓	8.9	10.9	3.0	385	覆土上層（A区北部）	M61A
45	椀状滓	7.5	7.4	3.5	284	覆土上層（A区北部）	M61B

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第235図 46	軒丸瓦	(6.1)	(9.0)	(1.5)	(69)	瓦当面剥離。底面ヘラナデ。	T12 覆土上層（B区北部） 灰色

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
第234図 47	甕 須恵器	体部	外面同心円状のタタキ。内面ナデ，アナ具痕有り。	TP36 覆土下層(A区) 内面　灰色，外面　暗青灰色
48	甕 須恵器	体部	外面同心円状のタタキ。内面ナデ，アナ具痕有り。	TP37 覆土中層(A区) 灰黄色

第407号土坑（付図２）

位置　調査Ⅰ区南東部，Ｄ７e3区。

規模と形状　平面形は，径0.27mほどの円形で，深さ26cmである。底面は皿状で，円形を呈している。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　極暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗　褐　色　　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

所見　第１号堀の東側，土橋の幅とほぼ同じ間隔で，第408号土坑と対称的に配置されている。時期は，第１号堀と同時期と考えられることから，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と思われる。

第408号土坑（付図２）

位置　調査Ⅰ区南東部，Ｄ７f3区。

規模と形状　平面形は，径0.26mほどの円形で，深さ21cmである。底面は丸くくぼんだ二段掘り状で，楕円形を呈している。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，ローム粒子が多く堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

所見　第１号堀の東側，土橋の幅とほぼ同じ間隔で，第407号土坑と対称的に配置されている。時期は，第１号堀と同時期と考えられることから，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と思われる。

第409号土坑（付図２）

位置　調査Ⅰ区南東部，Ｄ７f3区。

規模と形状　平面形は，長径0.48m，短径0.43mの楕円形で，深さ26cmである。底面は皿状で，円形を呈している。壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　2層からなり，ローム粒子が多く堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

出土遺物　出土していない。

所見　第1号堀の東側，第408号土坑の脇に配置されている。時期は，第1号堀と同時期と考えられることから，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と思われる。

(4)　土坑

当遺跡からは，土坑341基を検出した。性格や時期の違いについて検討した結果，次のように分類した。

ア　柱穴（柵列）のような土坑…51基

イ　奈良・平安時代の土坑…19基

ウ　第1号堀に伴う門の柱穴である可能性が高い土坑…3基（第1号堀と一連の遺構として扱う。）

エ　箱掘りのような方形土坑（長方形または方形で，中・近世の可能性が高い土坑）…39基

オ　その他の土坑…229基

以下に，奈良・平安時代と考えられるアとイについて，主なものは文章で掲載し，その他のものは一覧表で記載することとする。ウについては「(3)堀」で，エとオについては「4　その他の遺構と遺物」で掲載した。

ア　柱穴（柵列）のような土坑…51基（第236図～第246図）

ここでは，掘り方と覆土の堆積状況から柱痕が確認された土坑，遺構の位置や配列などから柵列の可能性が高い土坑を取り上げる。特に，柵列の可能性が高い土坑は3基または4基を1組とし，住居跡や掘立柱建物跡と並列するように構築されている。このことから，これらの中には，住居跡・掘立柱建物跡との関連性が強いと推定されるものもが数多くあり，その時期は奈良・平安時代の可能性が高いと思われる。ここでは遺物を伴う土坑，柵列の可能性がある土坑（A群～H群）について記述する。

A群（第186～190・216号土坑）（第236図）

第186号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，C5j5区。

規模と形状　平面形は，径1.01mほどの円形で，深さ42cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

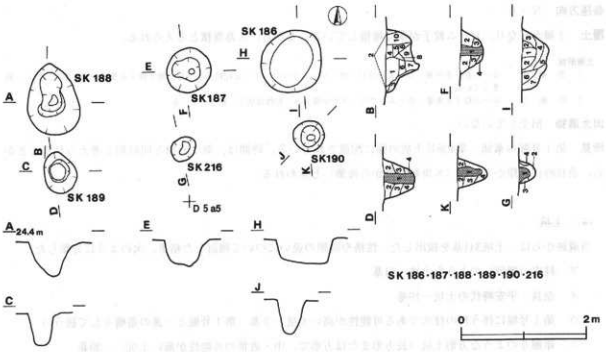
長径方向　N－20°－E

覆土　7層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	黒褐色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
6	褐色	ローム粒子を中量，暗褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
7	褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロック・暗褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。



第236図 A群（第186～190・216号土坑）実測図

第187号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，C 5 j4区。

規模と形状　平面形は，径0.71mほどの円形で，深さ41cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。柱痕と考えられる。
2　黒　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　黒　褐　色　ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　褐　　色　ローム粒子を多量，黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

第188号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，C 5 j4区。

規模と形状　平面形は，長径1.14m，短径0.84mの楕円形で，深さ57cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－10°－W

覆土　10層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　黒　褐　色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　褐　　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
6　黒　褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
7　極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
8　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
9　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
10　極暗褐色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片１点が出土している。

第189号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｃ５j4区。

規模と形状　平面形は，長径0.66m，短径0.54mの楕円形で，深さ52cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－22°－Ｗ

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片１点が出土している。

第190号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｃ５j5区。

規模と形状　平面形は，径0.50mの円形で，深さ57cmである。底面は皿状で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2　褐　　色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

第216号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｃ５j4区。

規模と形状　平面形は，長径0.42m，短径0.38mの楕円形で，深さ28cmである。底面は皿状で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－27°－Ｅ

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　褐　　色　ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　褐　　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

A群所見　北側に大きな第186～188号土坑，南側に小さな第189・190・216号土坑が，それぞれ対になって確認された。土坑間の距離は，東西間2.03m，南北間1.26mで，深さは，後列中間の第216号土坑を除いて，40cm以上ある。第187～189・216号土坑で柱痕が確認されていることから，6基の土坑は柵列のような一連の施設と考えられる。調査Ⅰ区の中央部において，本群北側列から第1～3・24・25号掘立柱建物跡，第1号堀の北端までの範囲をみてみると，南側には遺構が多く配置されているが，北側20m位は極端に遺構が少なくなっている。よって，ここが集落の境界に当たる部分であると思われ，本群は特別な役割を持った，柵列である可能性が高い。時期は，掘立柱建物跡群，堀と同時期であると判断できるため，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と考えられる。

B群（第191・192・194号土坑）（第237図）

第191号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，C5j5区。

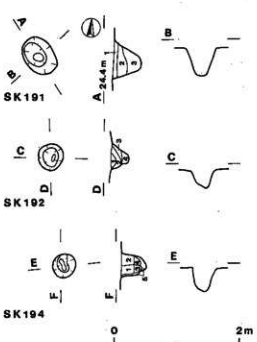
規模と形状　平面形は，長径0.64m，短径0.46mの楕円形で，深さ47cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－37°－W

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3　暗　褐　色　ローム粒を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。



第237図
B群（第191・192・194号土坑）実測図

第192号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，D5a5区。

規模と形状　平面形は，径0.42mほどの円形で，深さ30cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗　褐　色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　褐　　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

第194号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，D5a5区。

規模と形状　平面形は，径0.38mの円形で，深さ40cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　褐　　色　　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
4　極暗褐色　　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
5　褐　　色　　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　須恵器片3点が出土している。

B群所見　A群の東側脇に南北に連なっている。土坑間の距離は約1.7mで，深さは一定ではないが，30cm以上である。柱痕は確認されなかったが，A群の第186・190号土坑の脇から南に一直線に並んでおり，A群との関連性も考えられる。時期は，位置と配列からA群と同時期で，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と思われる。

C群（第193・195・196号土坑）（第238図）

第193号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，D5a5区。

規模と形状　平面形は，長径0.42m，短径0.36mの楕円形で，深さ45cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－15°－W

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　極暗褐色　　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

第195号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，D5a5区。

規模と形状　平面形は，長径0.46m，短径0.40mの楕円形で，深さ52cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

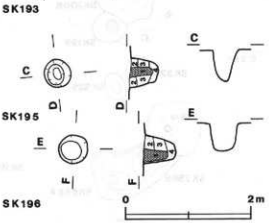
長径方向　N－15°－W

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　極暗褐色　　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
4　黒　褐　色　　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。



第238図
C群（第193・195・196号土坑）実測図

第196号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５a5区。

規模と形状　平面形は，径0.46mの円形で，深さ47cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	褐　　色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。

Ｃ群所見　Ａ群の第190号土坑の南側から，南北に一列で連なっている。土坑間の距離は約1.5mで，深さは45cm以上である。第193・195・196号土坑で柱痕が確認されていることから，３基の土坑は柵列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配列からＡ群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

Ｄ群（第199・200A・256A・325号土坑）（第239図）

第199号土坑

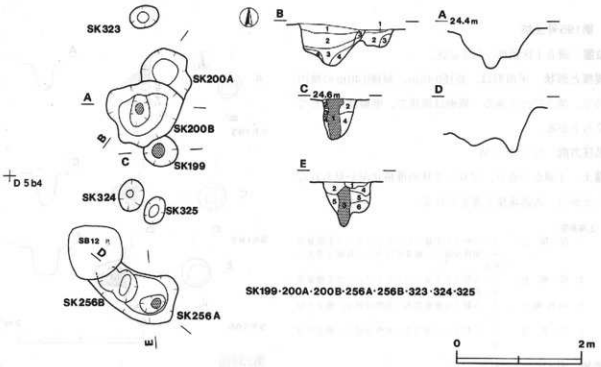
位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５a4区。

重複関係　本跡は第12号掘立柱建物跡，第200Ｂ号土坑と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，径0.50mほどの円形で，深さ64cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－０°

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



第239図　Ｄ群（第199・200Ａ・256Ａ・325号土坑）・Ｅ群（第200Ｂ・256Ｂ・323・324号土坑）実測図

土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
4 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物 出土していない。

第200A号土坑

位置 調査Ⅰ区西部，D5a4区。

重複関係 本跡は第12号掘立柱建物跡，第200B号土坑と重複している。第200B号土坑が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。第12号掘立柱建物跡との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模と形状 平面形は，長径0.85m，短径（0.54）mの不整楕円形と推定され，深さ28cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向 N－50°－W

覆土 3層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 極暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。

遺物 土師器片8点，須恵器片10点が出土している（第200B号土坑との合計）。細片のため図示できなかった。

第256A号土坑

位置 調査Ⅰ区西部，D5b4区。

重複関係 本跡は第256B号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は，長軸0.85m，短軸（0.32）mの不整方形で，深さ72cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

長軸方向 N－29°－E

覆土 6層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
4 極暗褐色 ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
5 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
6 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物 土師器片5点，須恵器片14点が出土している（第256B号土坑との合計）。細片のため図示できなかった。

第325号土坑

位置 調査Ⅰ区西部，D5b4区。

重複関係 本跡は第12号掘立柱建物跡と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は，長径0.43m，短径0.33mの楕円形で，深さ20cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向 N－25°－E

覆土 不明である。

遺物　須恵器片１点が出土している。細片のため図示できなかった。

Ｄ群所見　Ａ群の第189号土坑の南側から，Ｅ群と並び，南北に一列に連なっている。約５ｍ東側にはＢ・Ｃ・Ｆ群が平行して存在している。土坑間の距離は約1.22ｍで，深さは一定ではない。第199・256Ａ号土坑で柱痕が確認されていることから，４基の土坑は構列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配置からＡ群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

Ｅ群（第200Ｂ・256Ｂ・323・324号土坑）（第239図）

第200Ｂ号土坑

位置　調査Ｉ区西部，Ｄ５a4区。

重複関係　本跡は第12号掘立柱建物跡，第199，200Ａ号土坑と重複している。本跡が第200Ａ号土坑を掘り込んでいることから，本跡が新しい。第12号掘立柱建物跡，第199号土坑との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模と形状　平面形は，径1.14ｍの不定形で，深さ65cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	褐　　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片８点，須恵器片10点が出土している（第200Ａ号土坑との合計）。細片のため図示できなかった。

第256Ｂ号土坑

位置　調査Ｉ区西部，Ｄ５b4区。

重複関係　本跡は第12号掘立柱建物跡，第256Ａ号土坑と重複している。第12号掘立柱建物跡が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。第256Ａ号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，長径（0.64）ｍ，短径0.61ｍの不定形で，深さ62cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－10°－Ｅ

覆土　不明である。

遺物　土師器片５点，須恵器片14点が出土している（第256Ａ号土坑との合計）。細片のため図示できなかった。

第323号土坑

位置　調査Ｉ区西部，Ｄ５a4区。

重複関係　本跡は第12号掘立柱建物跡と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，長径0.48ｍ，短径0.35ｍの楕円形で，深さ20cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－70°－Ｅ

覆土　不明である。

遺物　土師器片２点，須恵器片７点が出土している。細片のため図示できなかった。

第324号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b4区。

重複関係　本跡は第12号掘立柱建物跡と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，長径0.52m，短径0.40mの楕円形で，深さ40cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－17°－E

覆土　不明である。

遺物　出土していない。

Ｅ群所見　Ａ群の第189号土坑の南側から，Ｄ群と並び，南北に一列に連なっている。約５m東隅にはＢ・Ｃ・Ｆ群が平行して並んでいる。土坑間の距離は約1.41mで，深さは一定ではない。第200Ｂ号土坑で柱痕が確認されていることから，４基の土坑は構列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配列からＡ群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

Ｆ群（第217・218・220号土坑）（第240図）

第217号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b5区。

規模と形状　平面形は，長径0.54m，短径0.40mの楕円形で，深さ16cmである。底面は皿状で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　N－6°－W

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。

第218号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b5区。

規模と形状　平面形は，長径0.38m，短径0.30mの楕円形で，深さ27cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

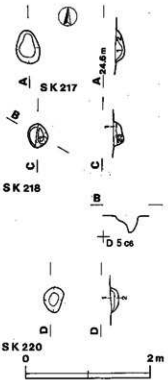
長径方向　N－4°－E

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2	暗　褐　色	暗褐色土を少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	極暗褐色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。



第240図
Ｆ群（第217・218・220号土坑）実測図

第220号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５c5区。

規模と形状　平面形は，長径0.40m，短径0.28mの楕円形で，深さ15cmである。底面は皿状で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　Ｎ－14°－Ｅ

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

Ｆ群所見　Ｃ群の第196号土坑の南側から，南北に一列で連なっている。第217号土坑と第218号土坑の距離は約1.4m，第218号土坑と第220号土坑の距離は約2.6mである。深さは27cm以下で，全体的に浅い。柱痕は確認されていないが，Ｃ群とほぼ一直線に連なっていることから，３基の土坑は柵列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配列からＣ群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。

Ｇ群（第223・238・239号土坑）（第241図）

第223号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５c3区。

規模と形状　平面形は，長径0.56m，短径0.50mの楕円形で，深さ33cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－０°

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　黒褐褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗　褐　色　　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　出土していない。

第238号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b2区。

規模と形状　平面形は，長径0.66m，短径0.52mの楕円形で，深さ30cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－30°－Ｅ

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　暗　褐　色　　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。

第239号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５b2区。

規模と形状　平面形は，長径0.55m，短径0.41mの楕円形で，深さ20cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－15°－Ｗ

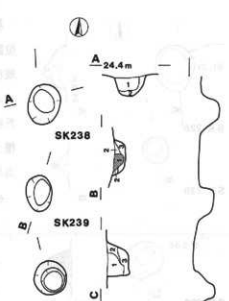
覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	暗　褐　色	ローム粒子・褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

Ｇ群所見　第13号掘立柱建物跡の西側から，南北に一列で連なっている。土坑間の距離は約1.43mである。深さは33cm以下で，全体的に浅い。第239号土坑で柱痕が確認されている。第13号掘立柱建物跡を挟んでＤ・Ｅ群と東西に平行して位置していることから，３基の土坑は柵列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配置からＤ・Ｅ群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（８世紀前葉から後葉）と考えられる。



第241図
Ｇ群（第223・238・239号土坑）実測図

Ｈ群（第225・228・229・231・232号土坑）（第242図）

第225号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５c4区。

重複関係　本跡は第31号住居跡と重複している。第31号住居跡が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と形状　平面形は，長径0.74m，短径0.62mの楕円形で，深さ26cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－０°

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まりはない。

遺物　土師器片１点，須恵器片１点が出土している。細片のため図示できなかった。

第228号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５c4区。

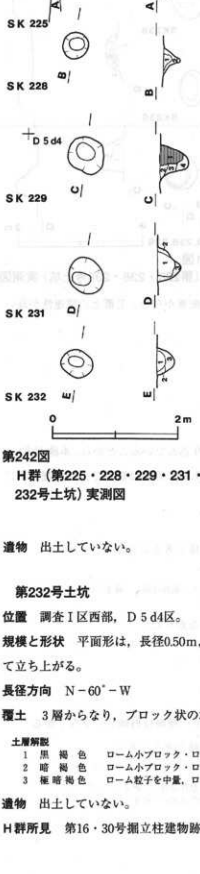
規模と形状　平面形は，径0.42mの円形で，深さ33cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗　褐　色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。



第242図
H群（第225・228・229・231・232号土坑）実測図

第229号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５d4区。

規模と形状　平面形は，長径0.64m，短径0.56mの楕円形で，深さ54cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－41°－Ｗ

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2	暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	極暗褐色	ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　出土していない。

第231号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５d4区。

規模と形状　平面形は，長径0.60m，短径0.53mの楕円形で，深さ36cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－30°－Ｅ

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗褐色	ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　出土していない。

第232号土坑

位置　調査Ⅰ区西部，Ｄ５d4区。

規模と形状　平面形は，長径0.50m，短径0.41mの楕円形で，深さ32cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－60°－Ｗ

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

Ｈ群所見　第16・30号掘立柱建物跡の東側を，南北に一列で連なっている。土坑間の距離は約1.60mである。

深さは，第229号土坑を除いて26～36cmで，全体的に浅い。第229号土坑で柱痕が確認されている。D・E群とほぼ同じ方向で並んでいることから，5基の土坑は欄列のような一連の施設と考えられる。時期は，位置と配列からD・E群との関連性が高いと思われ，奈良時代前期から後期（8世紀前葉から後葉）と考えられる。

第234号土坑（第243図）

位置　調査Ⅰ区西部，D5d4区。

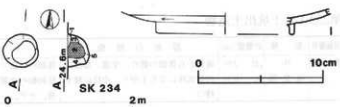
重複関係　本跡は第30号掘立柱建物跡と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，径0.56mの円形で，深さ34cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
5	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。



第243図　第234号土坑・出土遺物実測図

遺物　須恵器片2点が出土している。第243図1の須恵器椀が覆土中から出土している。

所見　第30号掘立柱建物跡のP9の脇に構築されている。時期は，出土遺物から，奈良時代前期から中期（8世紀前葉から中葉）と思われる。第30号掘立柱建物跡と同時期であり，何らかの関係があった可能性が高い。

第234号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種		計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	椀 須恵器	B	(2.1)	高台部から体部の破片。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰オリーブ色 普通	5% P594 覆土中
		D	[11.0]	高台部は「ハ」の字状に開く。平底。			
		E	1.0	体部は内彎気味に立ち上がる。			

第252A号土坑（第244図）

位置　調査Ⅰ区南西部，D5g3区。

重複関係　本跡は第252B号土坑と重複している。切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，長径0.57m，短径0.48mの楕円形で，深さ27cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

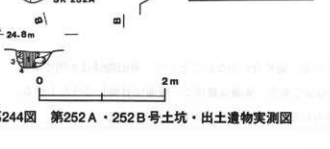
長径方向　N－57°－W

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	極暗褐色	ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
4	黒褐色	ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

遺物　土師器片3点，須恵器片3点が出土している。第244図1の須恵器坏が覆土中から出土している。



所見　第27号掘立柱建物跡との関係は不明であるが，周辺に掘立柱建物跡群があること，柱痕が確認されたことから，掘立柱建物跡の柱穴の可能性もある。ただし，遺構の西側が調査区域外のため確認できなかった。時期は，出土遺物から，奈良時代後期（8世紀後葉）と考えられる。

第244図　第252A・252B号土坑・出土遺物実測図

第252A号土坑出土遺物

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第244図 1	坏 須恵器	B (2.9) C [6.3]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，中位に稜を持つ。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐灰色 普通	10% P595 覆土中

第252B号土坑（第244図）

位置　調査Ⅰ区南西部，D5f3区。

重複関係　本跡は第27号掘立柱建物跡，第252A号土坑と重複している。いずれとも切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は，径0.64mほどの円形で，深さ62cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－55°－E

覆土　不明である。

遺物　土師器片3点，須恵器片8点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　第27号掘立柱建物跡と関係は不明であるが，周辺に掘立柱建物跡群があること，柱穴のようなしっかりとした掘り方であることから，掘立柱建物跡の柱穴の可能性もある。ただし，遺構の西側が調査区域外のため確認できなかった。時期は，重複関係と出土遺物から，奈良時代（8世紀）と考えられる。

第384号土坑（第245図）

位置　調査Ⅰ区東部，D7d1区。

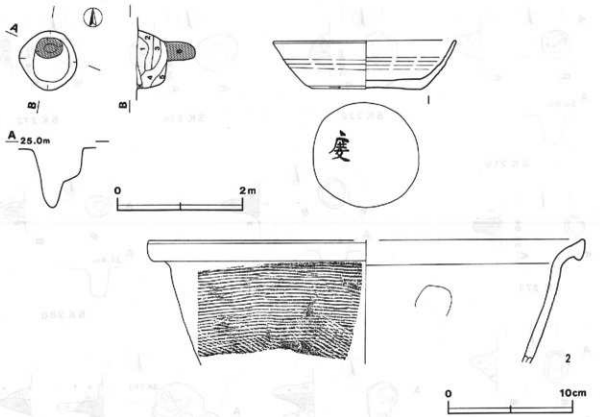
規模と形状　平面形は，径0.95mの円形で，深さ93cmである。底面は皿状で，二段掘り状になっている。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　6層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
6　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。

遺物　土師器片18点，須恵器片14点が出土している。第245図1の須恵器坏（墨書「度」），2の須恵器鉢が覆土中層からそれぞれ出土している。

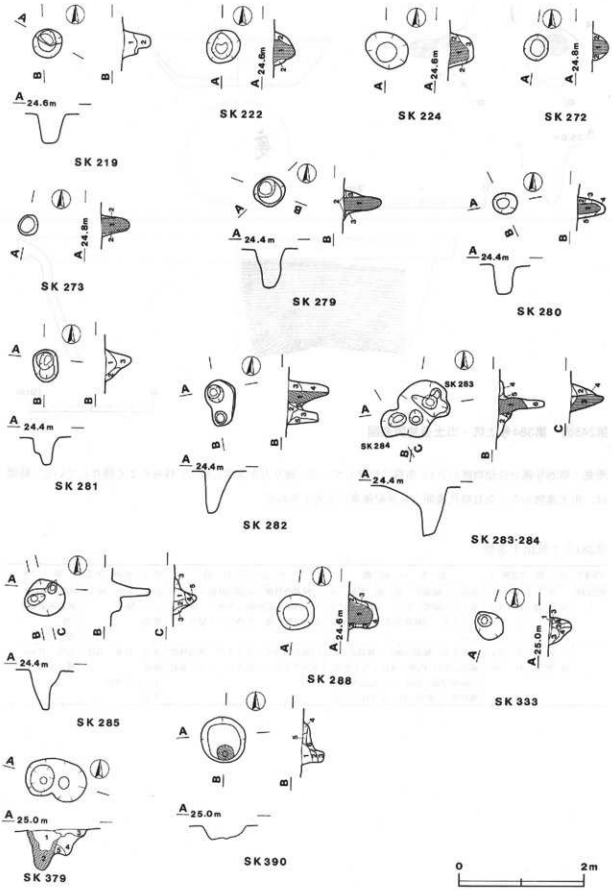


第245図　第384号土坑・出土遺物実測図

所見　第28号掘立柱建物跡のP1の南側に位置している。掘り方が非常に深く，柱痕がよく残存している。時期は，出土遺物から，奈良時代後期（8世紀後葉）と考えられる。

第384号土坑出土遺物

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第245図 1	坏 須恵器	A 14.6 B 4.0 C 8.8	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，手持ちヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	90%　P604 底部外面墨書「度」 覆土中層
2	鉢 須恵器	A〔35.0〕 B（9.9）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部は折り返されている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ，内面ナデ，アテ具痕有り。	長石　石英　雲母 砂粒 オリーブ黒色 普通	10%　P605 覆土中層



第246図　柱穴のような土坑実測図

第219号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを中量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み、粘性は弱く、締まっている。

第222号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

第224号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 極暗褐色 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを中量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み、粘性を帯び、締まっている。

第272号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、炭化物を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

第273号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

第279号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

3 黒 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

第280号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第281号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

第282号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

4 極暗褐色 ローム粒子を少量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

第283号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

6 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第284号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 褐 色 ローム粒子を少量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第285号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

4 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

第288号土坑土層解説

1 黒 褐 色 炭化粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム小ブロックを少量、炭化粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム小ブロックを少量、ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム小ブロックを中量、ローム粒子を微量含み、粘性を帯び、締まりはない。

第333号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性を帯び、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム小ブロックを中量、ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロック・炭化物を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロックを中量、ローム大ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第379号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロック・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第390号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

5 極暗褐色 ローム粒子を中量、炭化粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

6 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

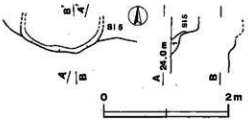
イ　奈良・平安時代の土坑…19基（第247図～第265図）

ここでは，出土遺物や重複関係から，時期が奈良・平安時代と考えられる土坑について記述する。

第２号土坑（第247図）

位置　調査Ⅰ区北西部，Ｂ４j0区。

重複関係　本跡は第５号住居跡と重複している。第５号住居跡が本跡の底面を掘り込んでいることから，本跡が古い。



第247図　第２号土坑実測図

規模と形状　平面形は，長径（1.20）m，短径（0.26）mで，楕円形と推定される。深さ(26)cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　N－88°－W

覆土　単一層で，自然堆積である。

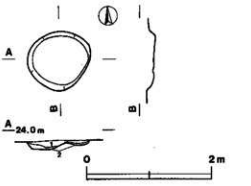
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子を中量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

所見　時期は，重複している第５号住居跡が９世紀中葉と考えられるので，平安時代前期（９世紀前葉）以前と考えられる。

第11号土坑（第248図）

位置　調査Ⅰ区北西部，Ｂ４i7区。



第248図　第11号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　平面形は，長径1.02m，短径0.90mの楕円形で，深さ10cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　N－45°－E

覆土　２層からなり，ロームブロックを多量に含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　須恵器片１点が出土している。第248図１の須恵器蓋が底面直上から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良時代中期（８世紀中葉）と考えられる。

第11号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 1	蓋 須恵器	A [16.2] B（1.8）	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦で，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	砂粒 黄灰色 普通	20% P585 底面直上

第90号土坑（第249図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｂ５i4区。

規模と形状　平面形は，長径1.34m，短径0.90mの不整楕円形で，深さ15cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

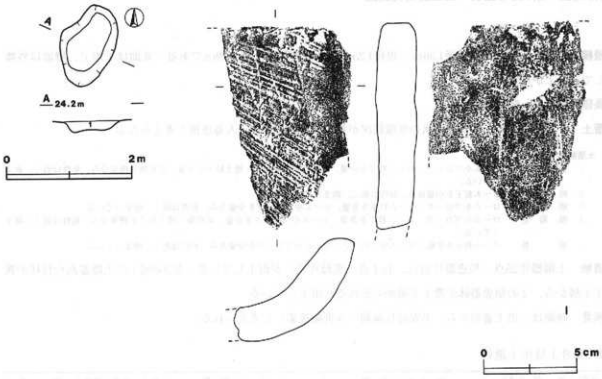
長径方向　Ｎ－10°－Ｅ

覆土　単一層で，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　須恵器片２点，平瓦１点が出土している。第249図１の平瓦が底面直上から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良・平安時代（８・９世紀）と考えられる。



第249図　第90号土坑・出土遺物実測図

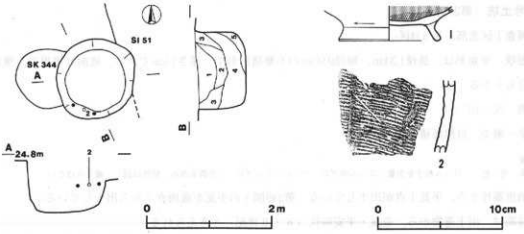
第90号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第249図 1	平瓦	(11.0)	7.0	2.2	(221)	緩やかに湾曲している。凸面へラ削り。凹面布目痕。	T13 底面直上 明黄橙色

第138号土坑（第250図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｄ６d7区。

重複関係　本跡は第51号住居跡，第26号掘立柱建物跡，第344号土坑と重複している。本跡が第51号住居跡の床面を，第26号掘立柱建物跡のＰ3を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が新しい。第344号土坑との新旧関係は不明である。



第250図　第138号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　平面形は，長径1.36m，短径1.25mのほぼ円形で，深さ79cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－50°－E

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・焼土粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗褐色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
5　褐色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片25点，須恵器片31点，石1点（雲母片岩）が出土している。第250図1の土師器高台付坏が覆土上層から，2の須恵器鉢が覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀後葉）と考えられる。

第138号土坑出土遺物

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 1	高台付坏 土師器	B (2.8) D 8.2 E 1.4	高台部から体部の破片。高台部は長く，「ハ」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。内面から底部内面にかけヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 内面　黒色 外面　暗灰黄色 普通	40%　P587 内面黒色処理 覆土上層

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
2	鉢 須恵器	体部	体部外面平行タタキ。	TP39 覆土下層 赤橙色

第139号土坑（第251図）

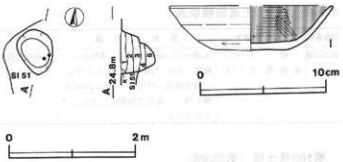
位置　調査Ⅰ区中央部，D 6 c7区。

重複関係　本跡は第51号住居跡と重複している。本跡が第51号住居跡の床面を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は，長径0.65m，短径0.52mの楕円形で，深さ54cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－40°－W

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



第251図　第139号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・灰褐色粘土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・灰褐色粘土粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片9点，須恵器片6点が出土している。第251図1の土師器坏が覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀中葉）と考えられる。

第139号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	坏 土師器	A 13.0 B 3.5 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，中位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り，内面から底部内面にかけヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	雲母　砂粒 スコリア 内面　黒色 外面　にぶい橙色 普通	20%　P589 内面黒色処理 覆土中

第156号土坑（第252図）

位置　調査Ⅰ区北西部，C5c4区。

規模と形状　平面形は，径0.95mほどの円形で，深さ29cmである。底面は凹凸で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

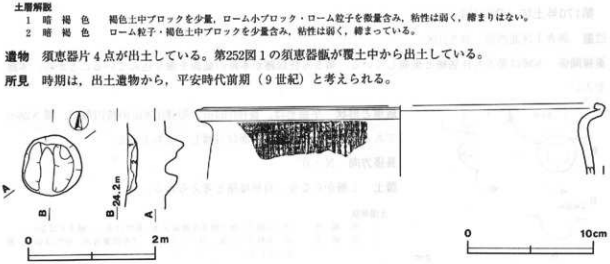
覆土　2層からなり，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　褐色土中ブロックを少量，ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　暗　褐　色　ローム粒子・褐色土中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　須恵器片4点が出土している。第252図1の須恵器甑が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀）と考えられる。



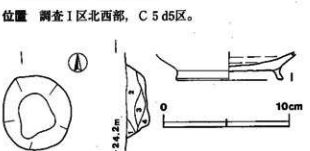
第252図　第156号土坑・出土遺物実測図

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第252図 1	甕 須恵器	A [32.8] B (5.6)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部は内側につまみ上げられている。	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面平行タタキ。	石英　雲母　砂粒 灰白色 普通	10%　P592 覆土中

第163号土坑（第253図）

位置　調査Ⅰ区北西部，C 5 d5区。



第253図　第163号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　平面形は，長径1.18m，短径1.06mの楕円形で，深さ34cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　黒　褐　色　ローム粒子・褐色土を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
4　暗　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片4点，須恵器片6点が出土している。第253図1の須恵器高台付坏が覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀前葉）と考えられる。

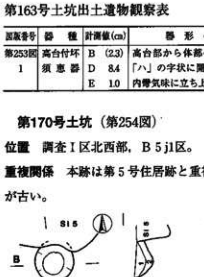
第163号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第253図 1	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 8.4 E 1.0	高台部から体部の破片。高台部は「ハ」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 にぶい黄色 普通	30%　P593 覆土中層

第170号土坑（第254図）

位置　調査Ⅰ区北西部，B 5 j1区。

重複関係　本跡は第5号住居跡と重複している。第5号住居跡が本跡の底面を掘り込んでいることから，本跡が古い。



第254図
第170号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　平面形は，長径0.64m，短径0.58mの楕円形で，深さ28cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　2層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　黒　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片8点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　時期は，重複している第５号住居跡が９世紀中葉と考えられることから，平安時代前期（９世紀前葉）以前と思われる。

第275号土坑（第255図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｄ５c8区。

規模と形状　平面形は，長径1.44m，短径1.02mの楕円形で，深さ18cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－14°－Ｗ

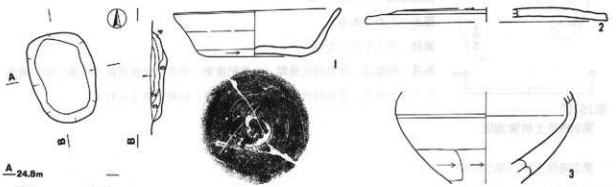
覆土　５層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2	黒　褐　色	焼土粒子を中量，ローム粒子・暗褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
5	暗　褐　色	ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片44点，須恵器片22点が出土している。第255図１の須恵器坏，２の須恵器蓋，３の須恵器平瓶が覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良時代中期（８世紀中葉）と考えられる。



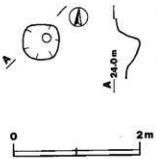
第255図　第275号土坑・出土遺物実測図

第275号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図 1	坏 須恵器	A 13.3 B 3.8 C 7.7	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 橙色 普通	50%　P596 覆土中
2	壺 須恵器	A [19.4] B (1.1)	天井部から口縁部の破片。天井部から口縁部にかけて平坦に開く。	天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 黄灰色 普通	40%　P598 覆土中
3	平瓶 須恵器	B (8.3)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。体部外面下位ヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 黄褐色 普通	20%　P597 覆土中

第294号土坑（第256図）

位置　調査Ⅰ区南西部，Ｄ５c3区。



第256図
第294号土坑実測図

重複関係　本跡は第31号住居跡と重複している。第31号住居跡が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と形状　平面形は，径0.64mの円形で，深さ37cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　不明である。

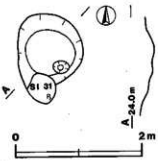
遺物　出土していない。

所見　時期は，奈良時代後期（８世紀後葉）の第31号住居跡の床面下から検出したことから，奈良時代中期（８世紀中葉）以前と考えられる。

第295号土坑（第257図）

位置　調査Ⅰ区南西部，Ｄ５c3区。

重複関係　本跡は第31号住居跡と重複している。第31号住居跡が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。



第257図
第295号土坑実測図

規模と形状　平面形は，長径1.14m，短径1.08mの楕円形で，深さ20cmである。底面は凹凸で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　Ｎ－34°－Ｗ

覆土　不明である。

遺物　出土していない。

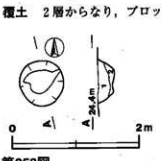
所見　時期は，奈良時代後期（８世紀後葉）の第31号住居跡の床面下から検出したことから，奈良時代中期（８世紀中葉）以前と考えられる。

第298号土坑（第258図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｃ６b3区。

規模と形状　平面形は，径0.70mの円形で，深さ38cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



第258図
第298号土坑実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　黒　褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　土師器片８点，須恵器片３点，灰釉陶器（皿）１点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。灰釉陶器皿は猿投窯産井ヶ谷78号窯式のものである。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（９世紀前葉から中葉）と考えられる。

第309号土坑（第259図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｃ６e5区。

規模と形状　平面形は，径0.92mほどの円形で，深さ23cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，

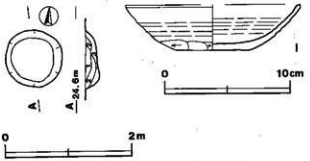
立ち上がる。

長径方向　N－55°－W

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗赤褐色	焼土粒子を中量，焼土小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗赤褐色	焼土粒子を中量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
3	暗赤褐色	焼土粒子を少量，ローム粒子・焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。



第259図　第309号土坑・出土遺物実測図

遺物　土師器片14点，須恵器片36点が出土している。第259図1の須恵器坏が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀前葉）と考えられる。

第309号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 1	坏 須恵器	A [13.8] B 3.6 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石　スコリア　砂粒　にぶい黄橙色　普通	30%　P600　覆土中

第328号土坑（第260図）

位置　調査Ⅰ区中央部，D 6 c5区。

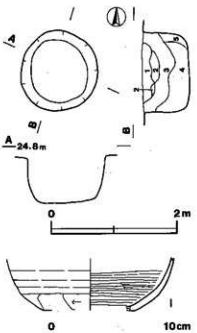
規模と形状　平面形は，径1.25mほどの円形で，深さ75cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－0°

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を中量，炭化粒子・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3	黒褐色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
4	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。



第260図
第328号土坑・出土遺物実測図

遺物　土師器片68点，須恵器片49点が出土している。第260図1の土師器椀が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀中葉から後葉）と考えられる。

第328号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第260図 1	椀 土師器	B (4.1) C [7.5]	底部から体部の破片。平底。体部は中位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。外面下位手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	雲母　砂粒　にぶい橙色　普通	20%　P601　覆土中

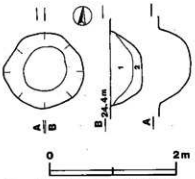
第353号土坑（第261図）

位置　調査Ⅰ区中央部，D 6 b7区。

重複関係　本跡は第50号住居跡，第26号掘立柱建物跡と重複している。第50号住居跡が本跡の覆土上層を掘り込んでいることから，本跡が古い。また，本跡が第26号掘立柱建物跡のP1を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は，径1.23mほどの円形で，深さ53cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　N－0°



第261図　第353号土坑実測図

覆土　2層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片8点，須恵器片17点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　時期は，重複している第50号住居跡が9世紀前葉，第26号掘立柱建物跡が8世紀前葉から後葉と考えられることから，平安時代前期（9世紀前葉）と思われる。

第378号土坑（第262図）

位置　調査Ⅰ区東部，C 7 i1区。

規模と形状　平面形は，長径0.49m，短径0.40mの楕円形で，深さ48cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－40°－E

覆土　2層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

第262図　第378号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片3点，須恵器片8点が出土している。第262図1の須恵器坏が覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良時代後期（8世紀後葉）と考えられる。

第378号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 須恵器	A [13.8] B 3.7 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石　砂粒 灰色 普通	10%　P602 覆土下層

第382号土坑（第263図）

位置　調査Ⅰ区東部，C 6 i0区。

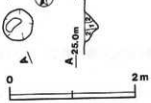
規模と形状　平面形は，径0.49mの円形で，深さ24cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

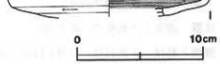
覆土　2層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。





第263図　第382号土坑・出土遺物実測図

遺物　土師器片4点が出土している。第263図1の土師器坏が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良時代前期（8世紀前葉）と考えられる。

第382号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第263図 1	坏 土師器	A [17.6] B（2.4）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，上位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面横ナデ。体部外面回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	雲母　スコリア 砂粒 内面　黒色 外面　橙色 普通	5%　P603 内外面黒色処理 覆土中

第386号土坑（第264図）

位置　調査Ⅰ区東部，D 7 c1区。

規模と形状　北部に攪乱を受けていることから，平面形は，長径1.30m，短径（0.77）mの不整楕円形と推定される。深さは20cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向　N－51°－W

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

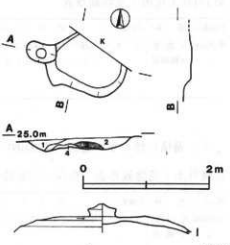
土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子を多量，焼土中ブロック・灰褐色粘土粒子を中量，ローム粒子・炭化粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。竈材や焼土を投棄した層と考えられる。

4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。



第264図　第386号土坑・出土遺物実測図

遺物　土師器片16点，須恵器片21点が出土している。第264図1の須恵器壺が覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から，奈良時代中期（8世紀中葉）と考えられる。

第386号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	蓋 須恵器	B (2.3) F 2.2 G 1.0	つまみから口縁部の破片。扁平な宝珠鬘状のつまみが付く。天井部は平坦で，緩やかに開く。	つまみ・天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰黄色 普通	20% P606 覆土下層

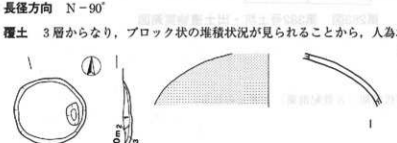
第394号土坑（第265図）

位置 調査Ⅰ区北東部，B 7 j3区。

規模と形状 平面形は，長径1.14m，短径1.03mの楕円形で，深さ13cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して，立ち上がる。

長径方向 N－90°

覆土 3層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 灰褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第265図 第394号土坑・出土遺物実測図

遺物 灰釉陶器1点が出土している。

第265図1の灰釉陶器長頸瓶が覆土下層から出土している。猿投窯産黒笹14号窯式と考えられる。

所見 時期は，出土遺物から，平安時代前期（9世紀中葉）と思われる。

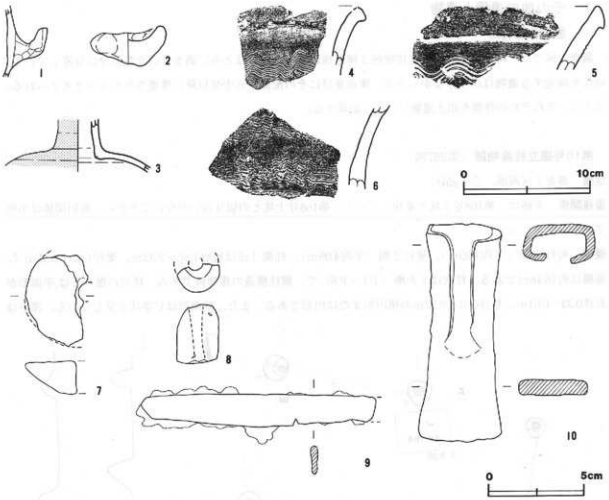
第394号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.2)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，上位で最大径を有する。	体部内外面ロクロナデ。釉刷毛塗り。	長石 砂粒 内面 暗灰黄色 外面 灰オリーブ色 良好	10% P609 覆土下層 猿投窯産 (黒笹14号窯式)

(5) 遺構に伴わない遺物（第266図）

遺構外出土遺物観察表（奈良・平安時代）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第266図 1	把手付鍋 土師器	B (5.6)	体部の破片。把手は上方に直立する。	体部内外面ナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい黄褐色 普通	5% P615 Ⅰ区表土
2	手捏土器 土師器	A 4.3 B 3.1	底部から口縁部の一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内外面・体部内外面指ナデ。	雲母 スコリア 砂粒 橙色 普通	80% P630 Ⅰ区表土
3	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.1)	体部から頸部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部は直立する。	頸部内外面・体部内外面ロクロナデ。釉刷毛塗り。	砂粒 内面 暗灰黄色 外面 灰オリーブ色 良好	10% P622 Ⅰ区表土 猿投窯産 (黒笹14号窯式)



第266図　遺構外出土遺物実測図（奈良・平安時代）

第266図 4	奈 須恵器	口縁部	口縁端部はつまみ上げられている。外面に10本櫛歯による横走波状文が施されている。	TP41 Ⅰ区表土 灰色・黒褐色（釉）
5	奈 須恵器	口縁部	口縁端部は折り返されている。内外面ロクロナデ。外面に5本櫛歯による横走波状文が施されている。	TP42 Ⅰ区表採 内面　黄灰色，外面　灰黄色
6	奈 須恵器	頸部	外面に10本単位の櫛歯による横走波状文が施されている。	TP43 Ⅰ区表採 灰色

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	紡錘車	(4.9)	(3.2)	1.9	(0.4)	(21)	Ⅰ区表土	DP11
8	土錘	3.2	2.3	～	(0.7)	(8)	Ⅰ区表土	DP12

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀子	(12.7)	1.8	0.3	(27)	Ⅰ区表土	M65
10	鉄斧	11.6	4.3	2.1	183	Ⅰ区表土	M74

4　その他の遺構と遺物

(1)　掘立柱建物跡

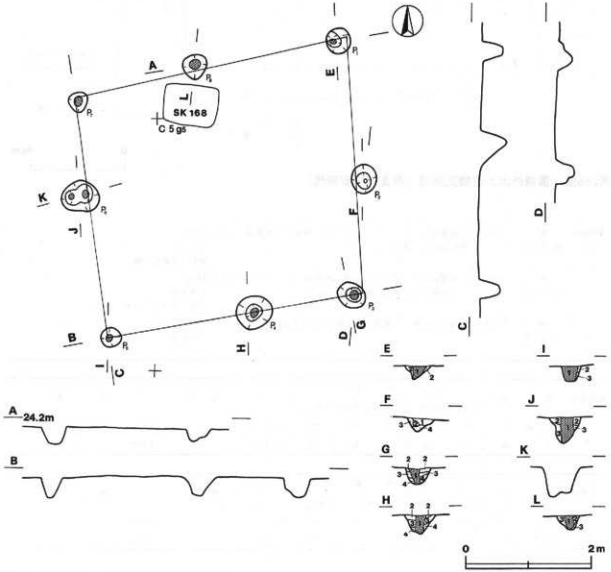
調査Ⅰ区では，時期不明の掘立柱建物跡３棟を検出した。３棟はともに調査区の北側部分に位置している。時代を確定する遺物は出土しなかったが，構造並びにその配置から中世以降に構築されたものと考えられる。以下に，それぞれの特徴や出土遺物について記載する。

第10号掘立柱建物跡（第267図）

位置　調査Ⅰ区西部，Ｃ５g5区。

重複関係　本跡は，第168号土坑と重複している。第168号土坑との切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　桁行２間（平均3.95m），梁行２間（平均4.09m），柱間寸法は桁行1.50～2.33m，梁行1.62～2.35mで，面積は約16.16㎡である。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は,平面形が長径0.33～0.61m，短径0.31～0.52mの楕円形または円形である。また，断面形はＵ字状を呈している。深さは



第267図　第10号掘立柱建物跡実測図

0.21～0.49mである。柱痕はP2以外の柱穴で確認することができた。柱の寸法は径11～14cmである。

桁行方向　N－10°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説　(P1～P6，P8)

P1	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子・黒色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2	1	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	灰褐色土を少量，ローム粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	灰　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	灰　褐　色	ローム粒子・灰褐色土を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐　　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	暗　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	褐色土を少量，ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P8	1	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
	2	暗　褐　色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器1点が出土しているが，混入と考えられる。

所見　Ⅰ区西部の平坦部に構築されている。柱穴の規模は，柱間寸法と深さが不ぞろいであるが，断面形はほぼ規則性が認められる。他の掘柱構造の掘立柱建物跡と比べて，掘り方は小さく，規模も小さい。よって，同時期に構築された関連施設とは言い難く，その関連は不明である。時期は中世以降と考えられる。

第20号掘立柱建物跡（第268図）

位置　調査Ⅰ区北西部，B5j1区。

重複関係　本跡は，第5号住居跡，第21号掘立柱建物跡，第67・72・73・75号土坑と重複している。本跡が第5号住居跡の南東コーナー部よりの覆土を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，その他については，柱穴同士の切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

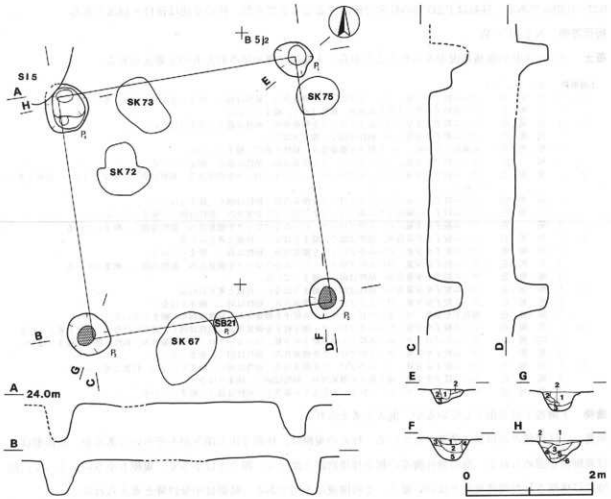
規模　桁行1間（平均3.70m），梁行1間（平均3.75m），柱間寸法は桁行3.60～3.80m，梁行3.70～3.80mで，面積は約13.88㎡である。柱穴は4か所（P1～P4）で，掘柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.55～0.75m，短径0.50～0.70mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈している。深さは0.50～0.65mである。柱痕は確認することができなかった。柱の寸法は不明である。

桁行方向　N－6°－W

覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

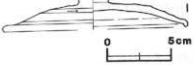
土層解説

P1	1	極暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	黒　褐　色	ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗　褐　色	ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
P2	1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	黒　褐　色	ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	極暗褐色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	4	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第268図　第20号掘立柱建物跡実測図

	5	黒	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P3	1	黒	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	2	褐		色	ローム小ブロックを中量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	3	黒	褐	色	ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4	1	黒	褐	色	ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
	2	暗	褐	色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	3	暗	褐	色	ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
	4	褐		色	ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	5	褐		色	ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
	6	褐		色	ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。



第269図
第20号掘立柱建物跡
出土遺物実測図

遺物　第269図1の須恵器蓋を含み，土師器6点，須恵器2点が出土しているが，混入と考えられる。

所見　Ⅰ区北西部の平坦部に構築されている。柱穴の規模は，P1を除いて深さはほぼ統一されている。柱間寸法と断面形にはほぼ規則性が認められる。他の側柱構造の掘立柱建物跡と比べると，柱間寸法が長く，規模が異なる。よって，奈良・平安時代に構築された関連施設とは言い難い。時期は中世以降と考えられる。

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	壺 須恵器	A [14.0] B 3.4 F 2.7 G 0.9	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は平坦で，緩やかに開く。口縁端部は屈曲して垂下する。	つまみ・天井部内外面・口縁部内外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 灰色 普通	50%　P531 P1覆土中

第21号掘立柱建物跡（第270図）

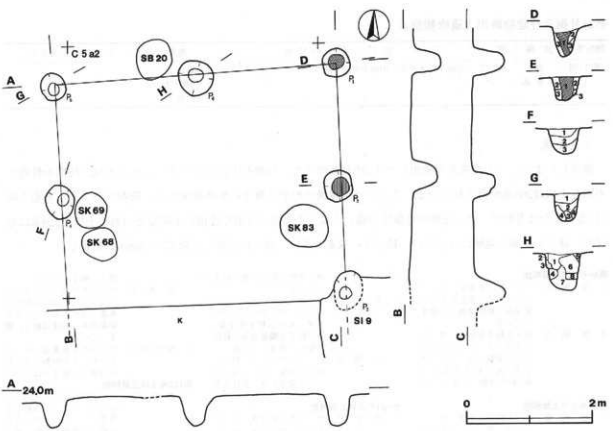
位置　調査Ⅰ区北西部，C 5 a2区。

重複関係　本跡は，第９号住居跡，第20号掘立柱建物跡，第68・69・83号土坑と重複している。本跡が第９号住居跡の北壁の覆土上層を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第20号掘立柱建物跡，第68・69・83号土坑については切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　桁行２間（平均3.51m），梁行２間（平均4.50m），柱間寸法は桁行1.60～1.95m，梁行2.25mで，面積は（15.80）m^2以上である。遺構の南部に攪乱を受けているため，全体の規模は不明である。柱穴は６か所（P1～P6）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.44～0.55m，短径0.37～0.54mの楕円形または円形である。また，断面形は逆台形状またはU字状を呈している。深さは0.38～0.50mである。柱痕はP1・P2で確認することができた。柱の寸法は径17～27cmである。

桁行方向　N－3°－W

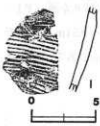
覆土　ブロック状の堆積状況がみられることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。



第270図　第21号掘立柱建物跡実測図

土層解説　（P3を除く）

P1　1　黒　褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
　　2　暗　褐　色　ローム粒子・黒色土を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　3　灰　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P2　1　黒　褐　色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。柱痕と考えられる。
　　2　褐　　色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
　　3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P4　1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　2　褐　　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　3　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，黒色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
P5　1　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　3　黒　褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　4　褐　　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
P6　1　黒　褐　色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　2　褐　　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　3　暗　褐　色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　4　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
　　5　褐　　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　6　明　褐　色　ローム粒子を中量，黒色土中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
　　7　極暗褐色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
　　8　灰　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。



遺物　第271図１の須恵器鉢１点が，Ｐ3覆土中から出土してるが，混入と考えられる。

所見　Ｉ区北西部の平坦部に構築されている。柱穴の規模は，深さが不揃いであるが，柱間寸法と断面形にはほぼ規則性が認められる。他の側柱構造の掘立柱建物跡と比べて規模が異なる。よって，奈良・平安時代に構築された関連施設とは言い難い。時期は中世以降と考えられる。

第271図　第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第271図 1	鉢 須恵器	体部	外面平行タタキ。内面ナデ，一部ヘラナデ。	TP34 P3覆土中 灰白色

(2)　土坑

前述したように，当遺跡から検出した土坑341基のうち，時期が中世以降と考えられる土坑，時期や性格が不明な土坑は268基検出されている。ここでは，遺構の形態と覆土の堆積状況から，箱掘りのような方形土坑（長方形または方形で，中・近世の可能性が高い土坑）を39基，時期や性格が不明なその他の土坑を229基に分けて，詳しい位置や規模については一括して一覧表（表17・18）に記述し，第272～288図に掲載した。

第46号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　黒　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，ローム大ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第47号土坑土層解説

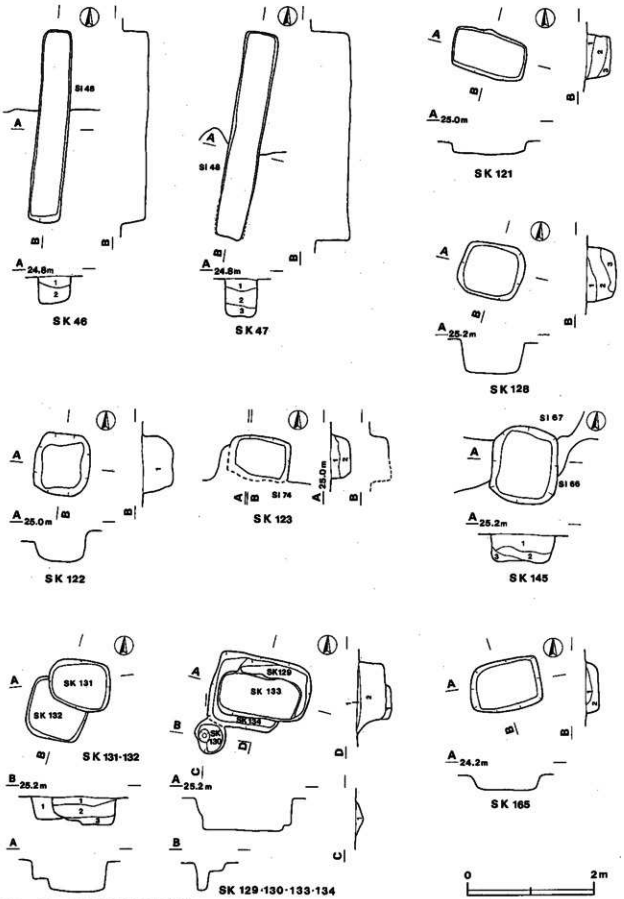
1　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，ローム大ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
2　暗　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まりはない。

第121号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3　極暗褐色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第122号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロックを中量，炭化物を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。



第272図　方形土坑実測図（1）

第123号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・焼土中ブロックを少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

2　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第128号土坑土層解説

1　暗　褐　色　褐色土中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第129号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第130号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第131号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・白色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3　暗　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第132号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第133号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第145号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック中量，炭化物・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第165号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第167号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第168号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第169号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第201号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第207号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。

第210号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　暗　褐　色　ローム粒子・褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第213A号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロックを多量，ローム中ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第213B号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第215A号土坑土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第215B号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第267号土坑土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第271号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第292号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，堅く締まっている。

2　褐　色　ローム粒子を多量，焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第312号土坑土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　黒　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第313号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第329号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック少量含み，粘性は弱く，締まっている。

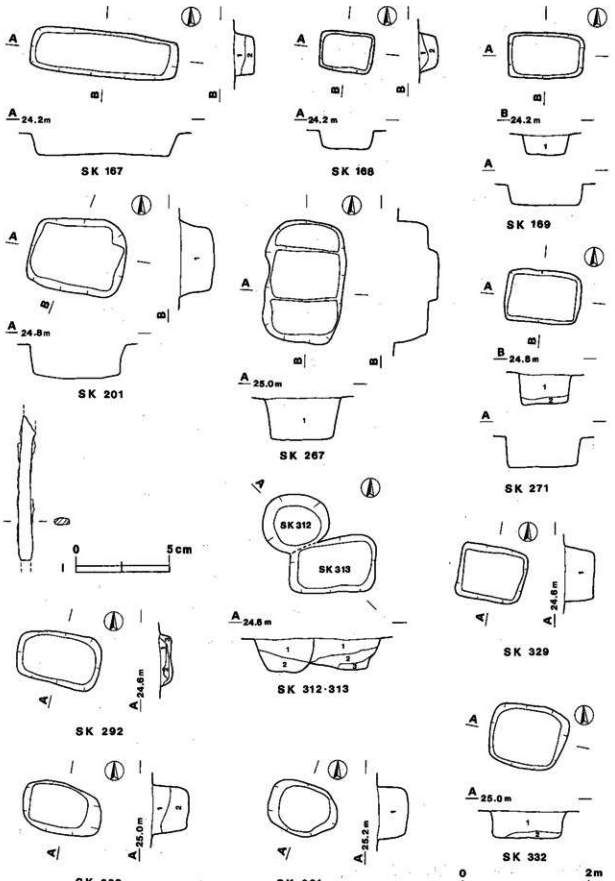
第330号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

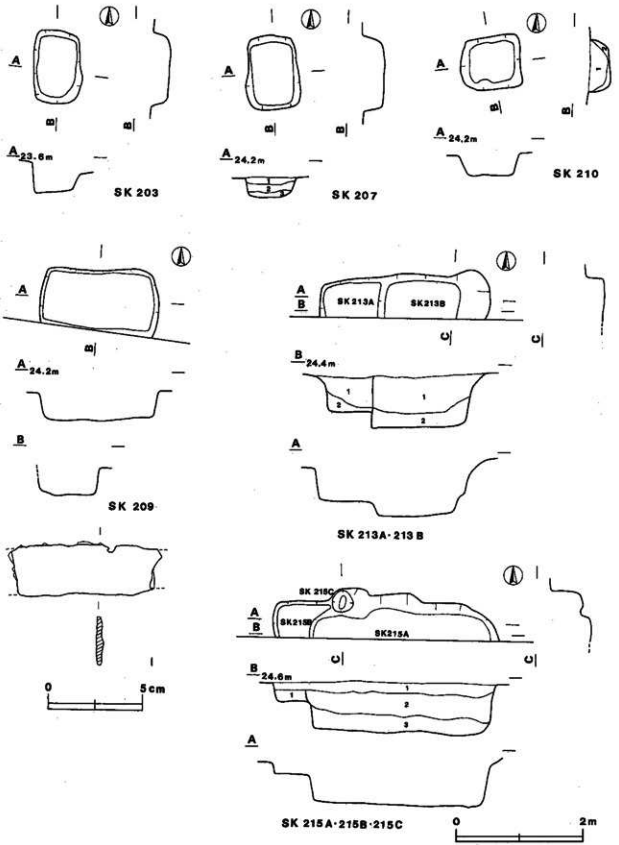
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第331号土坑土層解説

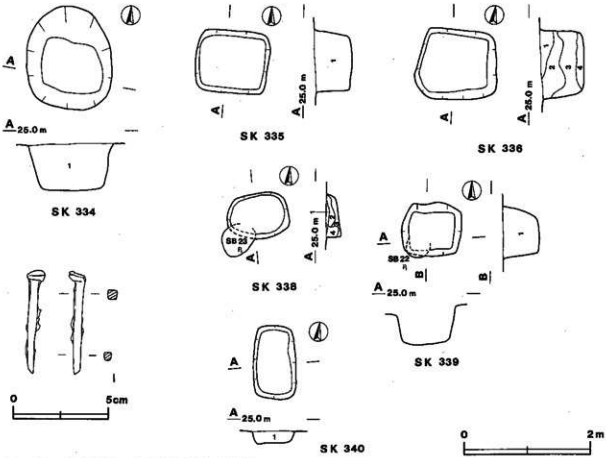
1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・炭化物を少量含み，粘性は



第273図　方形土坑・出土遺物実測図（2）



第274図　方形土坑・出土遺物実測図（3）



第275図　方形土坑・出土遺物実測図（4）

弱く，締まっている。

第332号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第334号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第335号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子を多量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを中量，炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第336号土坑土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

4　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第338号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，締まっている。

4　極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第339号土坑土層解説

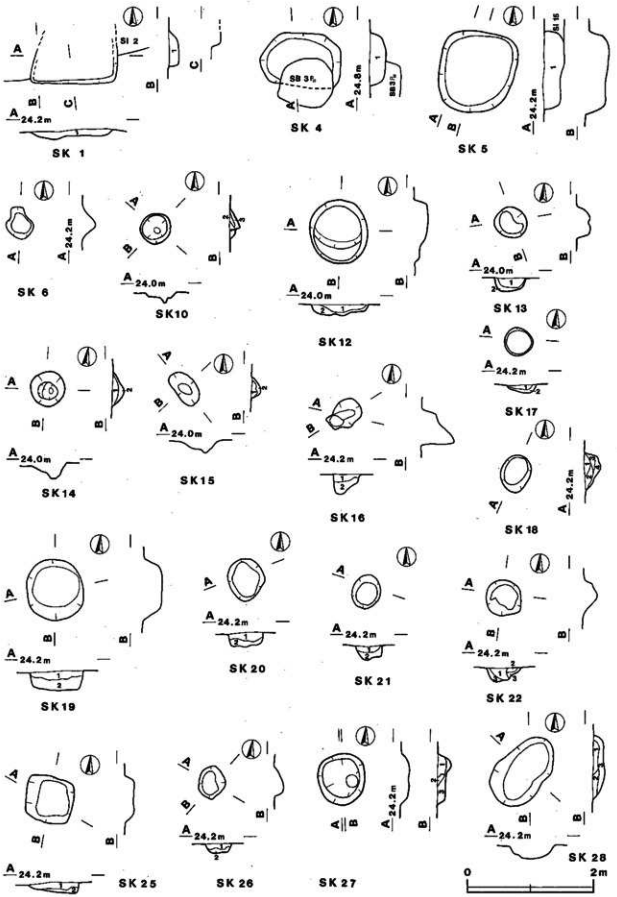
1　極暗褐色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第340号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第201・209・334号土坑出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第273図1	不明鉄製品	(7.6)	0.8	0.4	7.25	覆土中	M62
第274図1	手　鎖	(8.0)	3.0	0.5	15.0	覆土中	M63
第275図1	釘	5.4	0.9	0.5	5.4	覆土中	M64



第276図　その他の土坑実測図（1）

第1号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第4号土坑土層解説
1 極 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第5号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第10号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。

第12号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性は弱く，締まっている。

第13号土坑土層解説
1 明 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第14号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム粒子を中量，黒色土ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第15号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第16号土坑土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第17号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第18号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 暗 褐 色 ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第19号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第20号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子・黒褐色小ブロックを中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第21号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第22号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐 色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第25号土坑土層解説
1 褐 色 ローム小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第26号土坑土層解説
1 褐 色 ローム小・中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム粒子を中量，焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第27号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロックを少量，ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。
3 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

第28号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第29号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第31号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 極暗褐色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第32号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 極暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第33号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

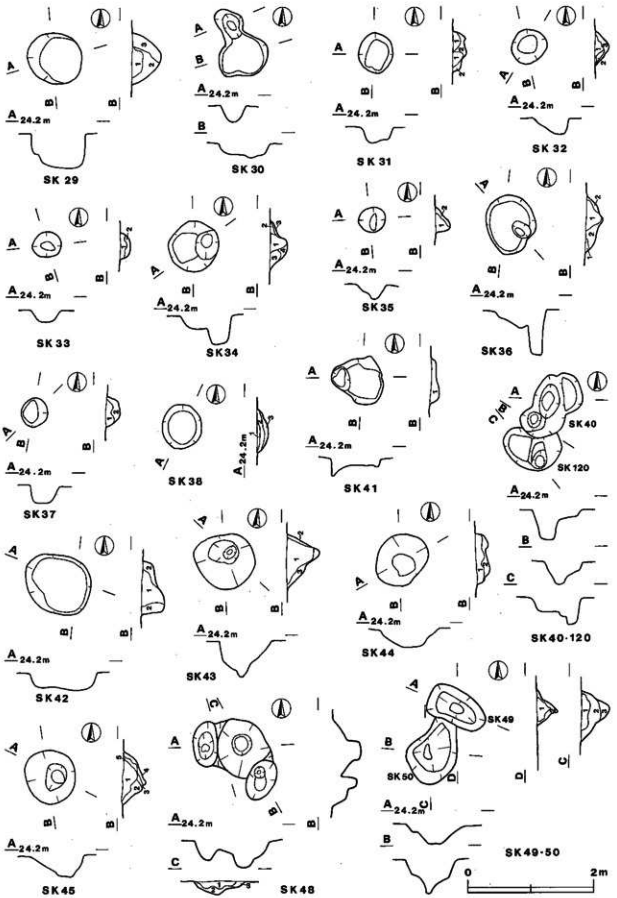
第34号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第35号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第36号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐 色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第37号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐 色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第38号土坑土層解説
1 極暗褐色 ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐 色 黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第277図　その他の土坑実測図（2）

第39号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

2 褐 色 ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第41号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量、ローム大ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第42号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロックを少量、ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第43号土坑土層解説

1 暗 赤 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

2 褐 色 ローム中ブロックを中量、ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 極 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

第44号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量、ローム大ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

第45号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 極 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量、ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

5 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第48号土坑土層解説

1 極 暗 褐 色 ローム小ブロックを少量、ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を少量、ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム中ブロックを少量、ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

第49号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

第50号土坑土層解説

1 極 暗 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム大ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まりはない。

第51号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

第52号土坑土層解説

1 極 暗 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性を帯び、締まっている。

2 褐 色 粘性を帯び、硬く締まっている。

第53号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 極 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

第54号土坑土層解説

1 極 暗 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、締まっている。

3 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

第55号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量、ローム大ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性を帯び、締まっている。

第56号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム中ブロック・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まりはない。

第57号土坑土層解説

1 極 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量、ローム大ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

2 明 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まりはない。

第58号土坑土層解説

1 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量、炭化物・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

第59号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第60号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第61号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 黒 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

第62号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第63号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第64号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

4 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第65号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

第67号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

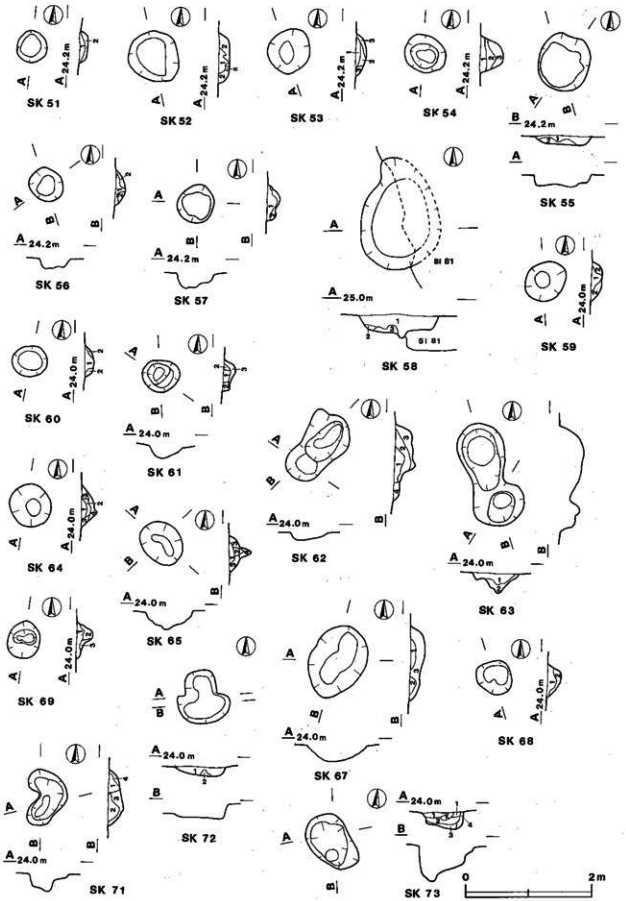
2 暗 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第68号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘



第278図　その他の土坑実測図（3）

性は弱く，締まりはない。

第69号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第71号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

4 暗 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第72号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第73号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

4 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第75号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第76号土坑土層解説

1 褐 色 白色粒子を中量，ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量，白色スコリアを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第80号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・白色粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第81号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色 ローム粒子・白色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 黒 褐 色 ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第82号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・白色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐 色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

4 極暗褐色 ローム粒子・白色粘土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

5 黒 褐 色 ローム小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

6 褐 色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

7 褐 色 ローム粒子を中量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第83号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 褐色土ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第85号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 褐色土小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子・褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

4 褐 色 褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第86号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第87号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第88号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第89号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 褐 色 ローム粒子・暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第91号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第92号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第93号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を少量，焼土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子を少量，炭化物を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

5 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。

第94号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子・暗褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第95号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第96号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量，砂を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第97号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

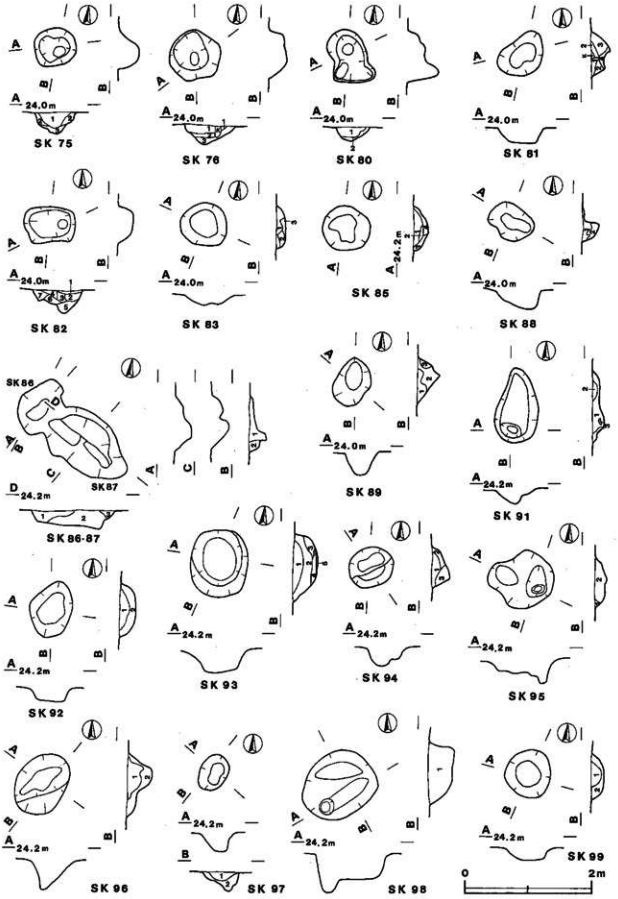
2 褐 色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第98号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第99号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。



第279図　その他土坑実測図（4）

2 褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第100号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第101号土坑土層解説

1 暗 褐 色　褐色土小ブロックを中量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　砂を少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第102号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第103号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第104号土坑土層解説

1 暗 褐 色　褐色土小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　褐色土小ブロックを中量，ローム粒子・褐色土大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第105号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第106号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第107号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第108号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第109号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第117号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・灰褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐　色　ローム粒子・暗褐色土を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 暗 褐 色　ローム粒子・暗褐色土を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第118A号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第119号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色　褐色土小ブロック・黒褐色土小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第135号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 褐　色　ローム粒子を少量，暗褐色土小ブロックを微量含み，粘性を帯び，締まっている。

第146号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　黒褐色土小ブロックを少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第147号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第148号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 黒 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第149号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第150号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第151号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第152号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第153号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗 褐 色　褐色土小ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第154号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　暗褐色土小ブロックを含み，粘性は弱く，締まりはない。

第155号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子・褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第157号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第158号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第159号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第160号土坑土層解説

1 暗 褐 色　褐色土小ブロックを中量，ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第161号土坑土層解説

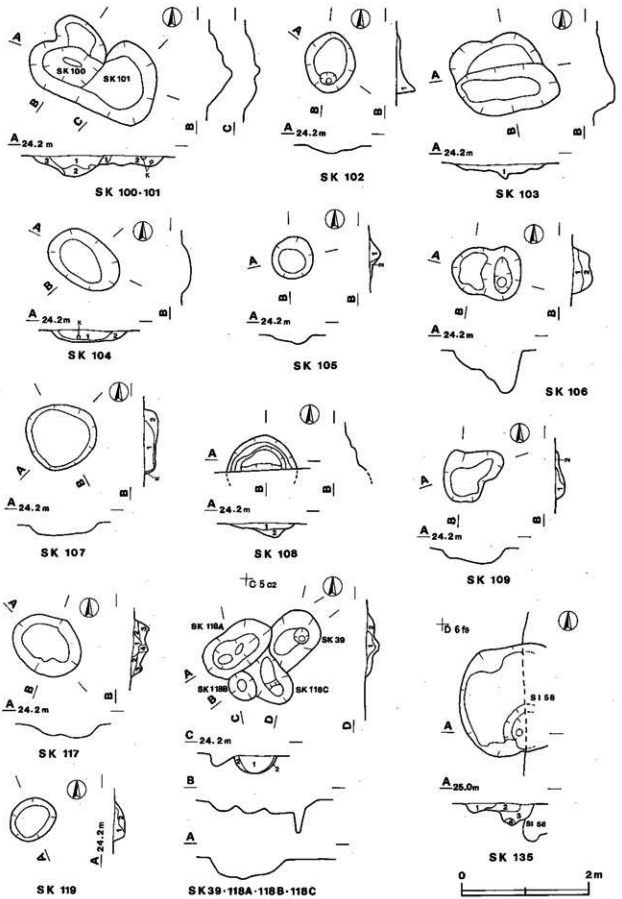
1 黒 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第162号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，粘性は弱く，締まっている。



第280図　その他の土坑実測図（5）

第164号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 黒褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第166号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 黒褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 黒褐色 ローム粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。

第173号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 黒褐色 ローム粒子・褐色土小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第174号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第175号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第176号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 灰褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第177号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第178号土坑土層解説
1 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第179号土坑土層解説
1 灰褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第180号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第181号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第183号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第185号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第197号土坑土層解説
1 暗褐色 焼土粒子を少量，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第198号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第202号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第204号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
3 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第205号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第206A号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第206B号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第208号土坑土層解説
1 極暗褐色 ローム中ブロックを中量，ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。
2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。
3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。
4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。

第211号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 褐色 ローム粒子・黒褐色土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。
3 褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

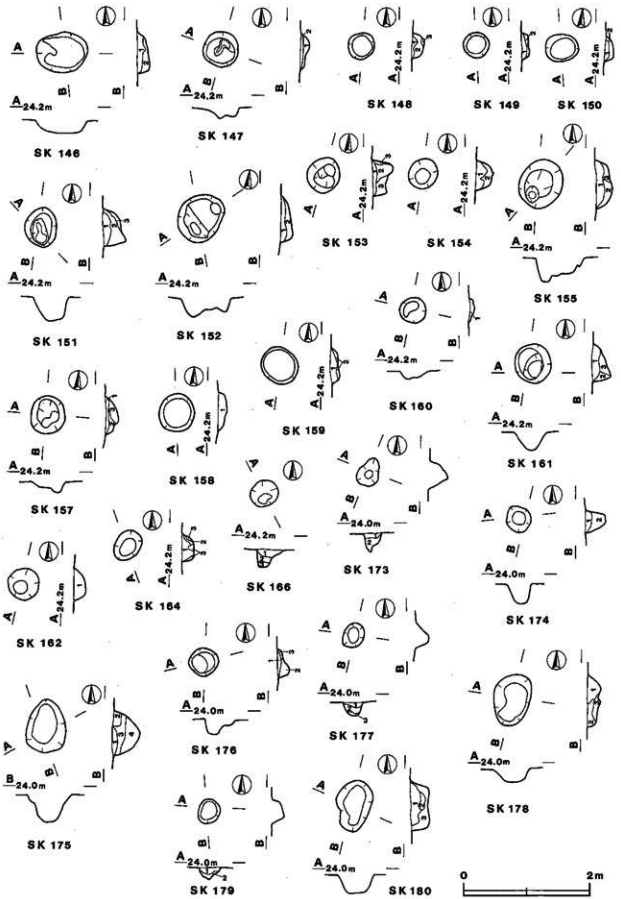
第212号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。
2 暗褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第221号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第226号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第227号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

第230号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。
2 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。



第281図　その他の土坑実測図（6）

第237号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第242号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 黒 褐 色 炭化粒子を中量、ローム粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 褐 色 ローム粒子・炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子を中量、ローム小ブロック・炭化粒子を少量含み、粘性を帯び、締まっている。

第243号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量、炭化粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性を帯び、締まっている。

第248号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を少量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第259号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

2 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

第264号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを中量、ローム大ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロックを多量、ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

6 黒 褐 色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

7 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を多量含み、粘性を帯び、締まっている。

第265号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 黒 褐 色 褐色土小ブロックを少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

4 暗 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第266A号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第266B号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを中量、ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第268号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量、ローム中ブロックを中量、ローム大ブロックを少量、炭化物・焼土小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第269号土坑土層解説

1 極暗褐色 焼土粒子を多量、ローム粒子・炭化物・焼土中ブロック・焼土小ブロックを中量、ローム小ブロック・炭化粒子を少量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

2 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、炭化物・焼土小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 極暗褐色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第270号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、締まっている。

2 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み、粘性を帯び、締まっている。

3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性を帯び、締まっている。

第274号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりはない。

3 暗 褐 色 ローム粒子・褐色土小ブロックを少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第286号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム中ブロック・炭化粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量、ローム中ブロックを微量含み、粘性を帯び、締まりはない。

第287号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含み、粘性を帯び、締まりはない。

2 黒 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第289号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロック・炭化物を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

第290号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

3 褐 色 ローム粒子・炭化粒子を微量含み、粘性は弱く、硬く締まっている。

4 灰 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

第293号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を少量、ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

3 褐 色 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第297号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 暗 褐 色 ローム粒子を中量、ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

第299号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まっている。

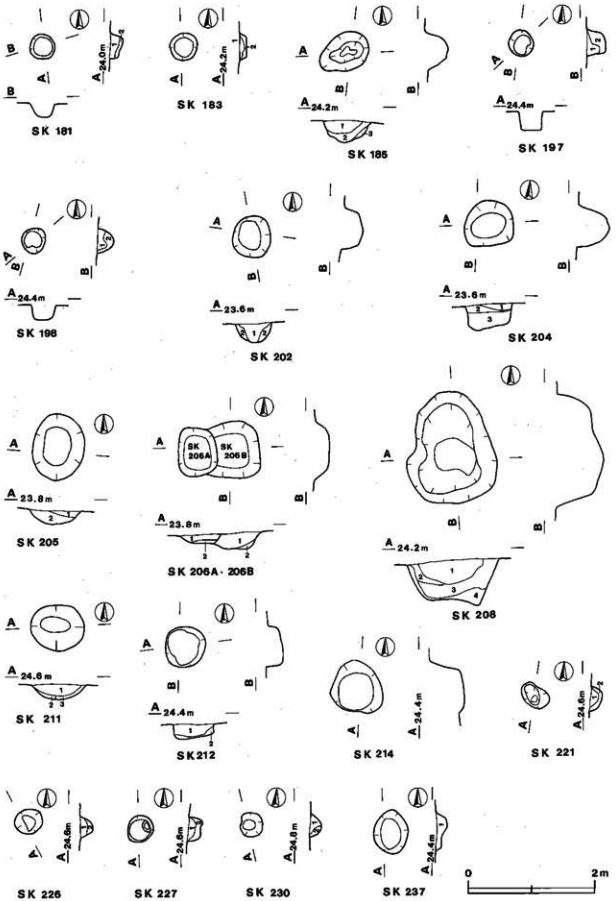
2 黒 褐 色 ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりはない。

第300号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・灰褐色粘土粒子を少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。

2 黒 褐 色 灰褐色粘土粒子を中量、焼土粒子を少量含み、粘性を帯び、硬く締まっている。

3 黒 褐 色 ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含み、粘性は弱く、締まっている。



第282図　その他の土坑実測図（7）

4 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第301号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 褐色 ローム粒子を中量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第302号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

3 褐色 ローム中ブロックを多量含み，粘性を帯び，締まっている。

第303号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒褐色 ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

3 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

第306号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第307号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第310号土坑土層解説

1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒褐色 焼土粒子を中量，焼土小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐色 ローム小ブロックを中量，ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第311号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 黒褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第314号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第315号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第316号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化物・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第317号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第318号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第321号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 極暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第322号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第327号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第337A号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロック・炭化物を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第337B号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第341号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐色 ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

第342号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第344号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第345号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を多量，ローム中ブロックを中量，ローム大ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第348号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第347号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 黒褐色 ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第349号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐色 ローム粒子を少量，ローム大ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第352号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，硬まりはない。

2 暗褐色 ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第365号土坑土層解説

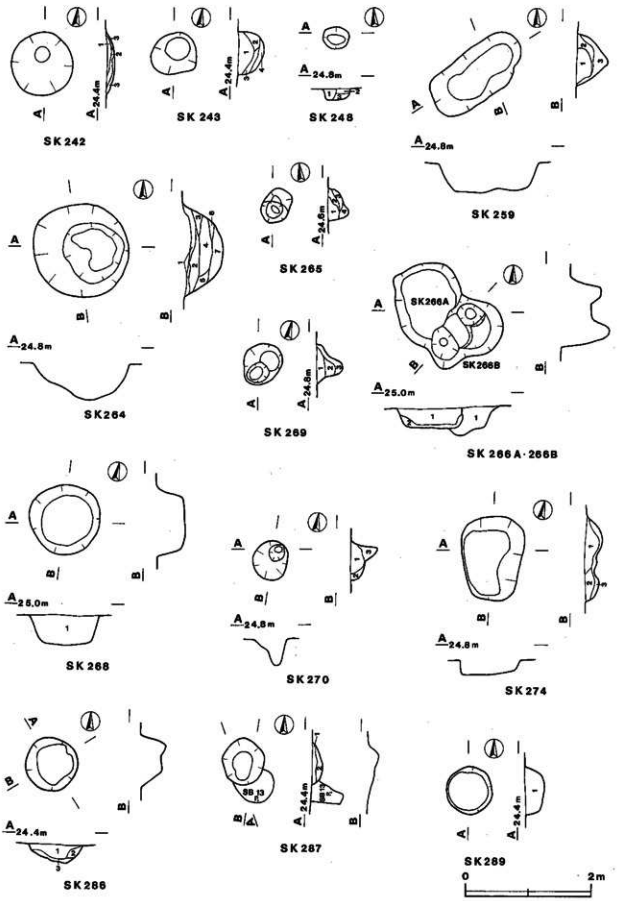
1 暗褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 灰褐色 ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

第366号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐色 ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。



第283図　その他の土坑実測図（8）

第367号土坑土層解説

1 褐　色　ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第368号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・褐色土小ブロックを少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第369号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 褐　色　ローム粒子・暗褐色土小ブロックを少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第370号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロック・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 灰 褐 色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第371号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第372号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を少量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 褐　色　ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第373号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第374号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第375号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第376号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，硬く締まっている。

3 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第377号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第380号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 黒 褐 色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第381号土坑土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 暗 褐 色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第383号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第387A号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第387B号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を中量，焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第391号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第392号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

3 暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第393号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。1層から2層は，8世紀中葉から後葉の土坑。

3 暗 褐 色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。

4 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

5 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第395号土坑土層解説

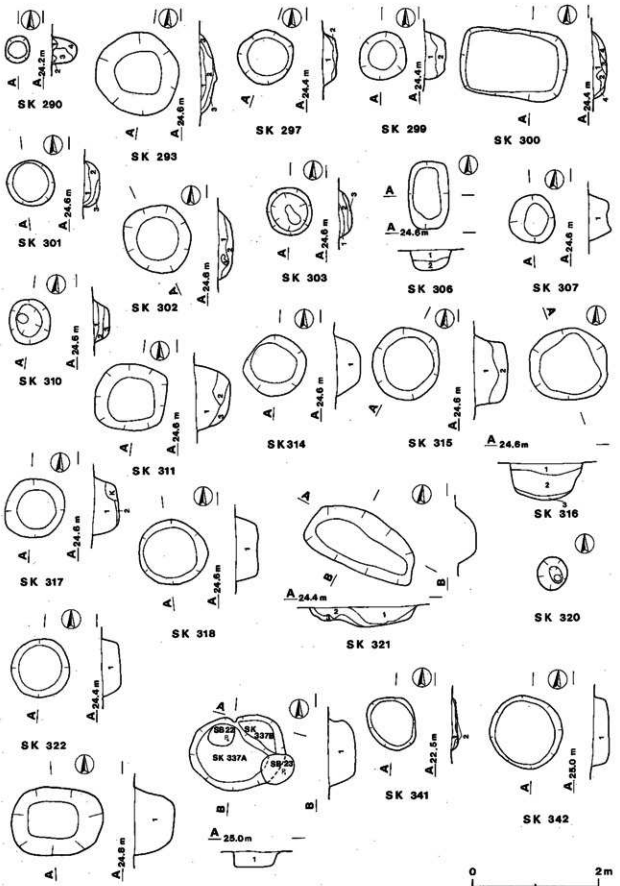
1 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム中ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

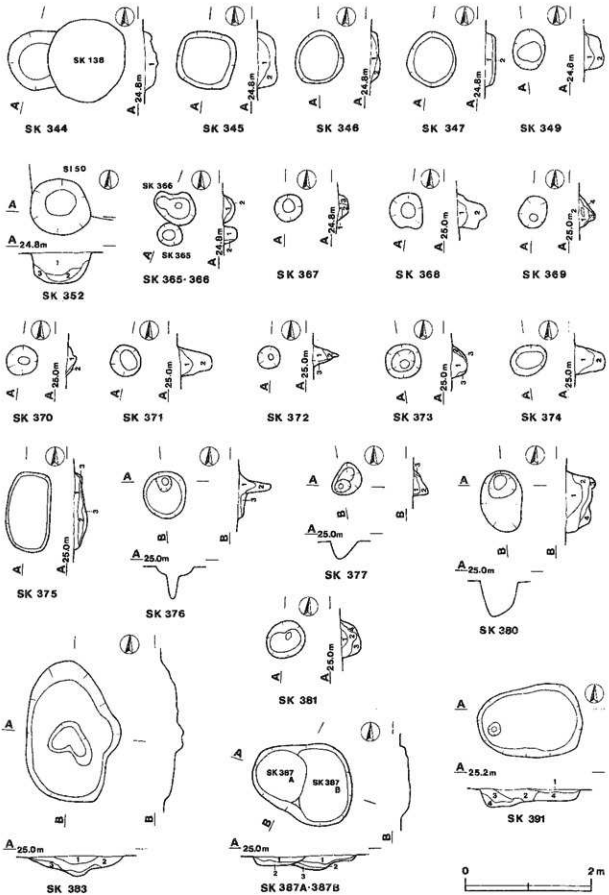
第396号土坑土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子・灰褐色土小ブロック・焼土粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

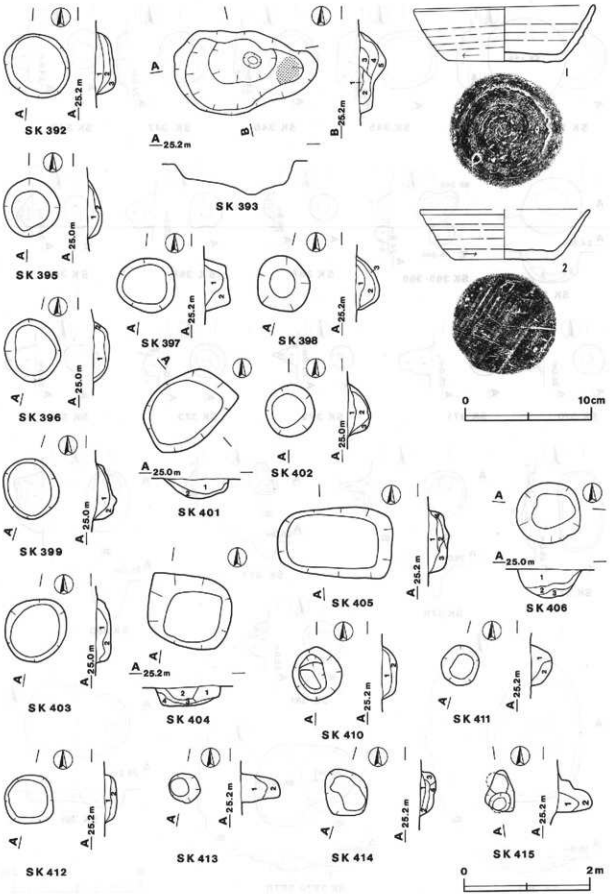
2 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，ローム大ブロ



第284図　その他の土坑実測図（9）



第285図　その他の土坑実測図（10）



第286図　その他の土坑・出土遺物実測図（11）

ックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第397号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第398号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム粒子・炭化物を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 褐　　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第399号土坑土層解説

1 暗　褐　色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 褐　　色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第401号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第402号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

第403号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第404号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子を少量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

3 暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性を帯び，締まっている。

4 褐　　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

第405号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，締まっている。

第406号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まりはない。

3 暗　褐　色　ローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含み，粘性は弱く，締まっている。

第410号土坑土層解説

1 暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性を帯び，締まっている。

第411号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第412号土坑土層解説

1 極暗褐色　ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第413号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含み，粘性は弱く，締まっている。

第414号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子を中量含み，粘性は弱く，締まっている。

3 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

4 褐　　色　ローム粒子を多量，ローム中ブロック・ローム小ブロックを中量含み，粘性を帯び，硬く締まっている。

第415号土坑土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含み，粘性は弱く，締まっている。

2 極暗褐色　ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

第393号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第286図 1	坏 須恵器	A 14.3 B 4.5 C 9.0	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石　石英　砂粒 灰黄色 普通	90%　P607 第1～2層覆土中
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.0 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，手持ちヘラ削り。	長石　砂粒 灰白色 普通	20%　P608 第1～2層覆土中

(3) 溝

調査Ⅰ区の北部と北西部に溝3条，調査ⅡA区の中央部に溝1条を検出した。ここでは，その特徴について簡単に記載する。

第1号溝（付図1，第287図）

位置　調査Ⅰ区北西部，B4i9～B4j9，C4b9～C4e9区。

重複関係　本跡は，第2・3号竪穴住居跡，第1号土坑と重複している。本跡が第2・3号竪穴住居跡の覆土上層を掘り込んでいることから，いずれよりも本跡が新しい。また，第1号土坑が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と平面形　本跡は，北西部を南に向かって直線的に延びている。一部攪乱を受けていること，北端と南端はともに区域外に至ることから，全体の規模は不明である。確認された長さは22.20mで，上幅0.26～0.60m，下幅0.17～0.34m，深さ0.04～0.12mである。壁面は緩やかに立ち上がり，断面形はU字状を呈している。

方向　N－2°－E

覆土　A・B断面ともに1層で，いずれも自然堆積である。

土層解説
A・B断面　1　黒　褐　色　　ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　土師器片10点，須恵器片11点が出土しているが，混入と考えられる。

所見　浅い粗末な掘り方であることから，中世または近世の区画を目的とした溝と考えられる。

第2号溝（付図1）

位置　調査Ⅰ区北西部，B4i0～B5i1区。

重複関係　本跡は，第5号竪穴住居跡と重複している。本跡が第5号竪穴住居跡の覆土上層を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と平面形　本跡は，調査区北西部を東に向かって直線的に延びている。長さは［6.53］mで，上幅0.35～0.54m，下幅0.14～0.29m，深さ0.20mである。壁面は緩やかに立ち上がり，断面形はU字状を呈している。

方向　N－84°－W

覆土　自然堆積である。黒褐色で，ローム粒子を微量含み，粘性は弱く，締まっている。

遺物　出土していない。

所見　浅い粗末な掘り方であることから，中世または近世の区画を目的とした溝と考えられる。

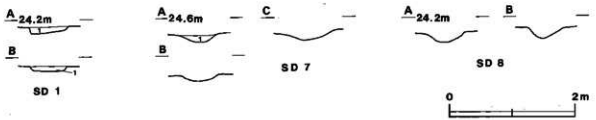
第7号溝（付図1，第287図）

位置　調査Ⅰ区北部，C6a3～C6d4区。

重複関係　本跡は，第24号竪穴住居跡と重複している。本跡が第24号竪穴住居跡の覆土上層を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と平面形　本跡は，調査区北部を初め東に向かい，次第に曲がりながら南に向かって延びている。確認された長さは14.90mで，上幅0.56～0.82m，下幅0.21～0.61m，深さ0.10～0.12mである。壁面は緩やかに立ち上がり，断面形はU字状を呈している。

方向　N－55°－W，N－10°－W，N－0°



第287図　第1・7・8号溝土層断面図

覆土　自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含み，粘性は弱く，締まりはない。

遺物　出土していない。

所見　浅い粗末な掘り方であることから，中世または近世の区画を目的とした溝と考えられる。

第8号溝（付図1，第287図）

位置　調査ⅡA区中央部，D4h1～D4h3区。

規模と平面形　本跡は，調査ⅡA区中央部を東に向かって直線的に延びている。長さは7.68mで，上幅0.36～0.60m，下幅0.13～0.21m，深さ0.15～0.20mである。壁面は緩やかに立ち上がり，断面形はU字状を呈している。

方向　N－90°

遺物　出土していない。

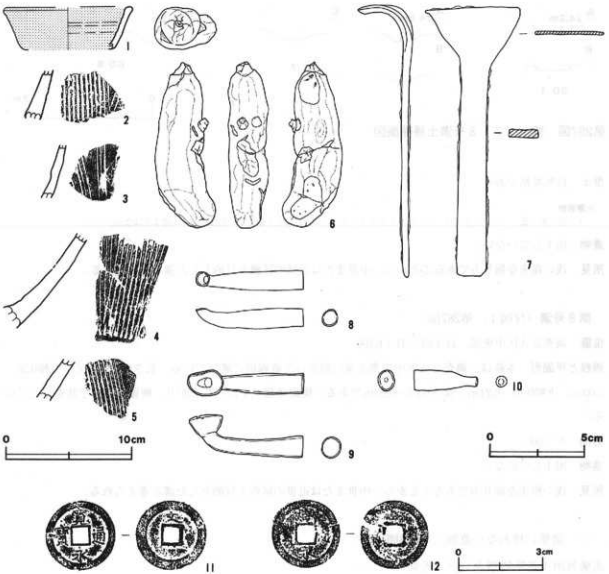
所見　浅い粗末な掘り方であることから，中世または近世の区画を目的とした溝と考えられる。

(4)　遺構に伴わない遺物（第288図）

遺構外出土遺物観察表（中・近世）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第288図 1	香　炉 陶　器	A［10.2］ B　3.3 C［7.4］	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内外面・体部内外面ロクロナデ。水挽き成形。釉刷毛塗り。	砂粒 明黄褐色 普通	10%　P586 Ⅰ区表土

図版番号	器　種	部　分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
2	擂　鉢 陶　器	体　部	内面に14本の櫛目が施されている。水挽きロクロ成形。	TP38　瀬戸・美濃系 Ⅰ区表土 灰褐色，褐　黒褐色
3	擂　鉢 土師器	体　部	内面に3本単位の櫛目が施されている。	TP44 Ⅰ区表採 浅黄橙色
4	擂　鉢 土師質土器	体　部	内面に9本単位の櫛目が施されている。	TP46 SI73覆土中 暗赤褐色
5	擂　鉢 陶　器	体　部	内面に9本単位の櫛目が施されている。水挽きロクロ成形。	TP47 SI70覆土中 黒褐色



第288図　遺構外出土遺物実測図（中・近世）

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第288図6	不明土製品	8.8	3.3	2.0	45	I区表土	DP13

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	不明鉄製品	14.2	5.0	0.4	59.00	I区表土	M66
8	煙　管	5.7	1.1	0.9	12.00	I区表土	M67
9	煙　管	6.1	1.1	1.0	9.15	I区表土	M68
10	煙　管	3.3	1.1	0.9	5.45	I区表土	M69

図版番号	銭　名	初鋳年 年号(西暦)	鋳造地名	径 cm	出土地点	備　考
11	寛永通寶	寛文8年(1668)	日　本	2.5	I区表土	M70新寛永「文」銭
12	寛永通寶	不　明	日　本	2.4	I区表土	M71新寛永？

第4節　まとめ

1　はじめに

当遺跡からは，旧石器時代，縄文時代，奈良時代，平安時代，そして中・近世までの遺構が検出され，多くの遺物が出土した。これらは，先人達の生活の一端について，少なからず解明する手がかりになるであろう。ここでは，調査の成果を概観し，旧石器時代の遺物について，また，奈良・平安時代の集落について若干の考察を加えて，まとめとしたい。

2　平成9年度調査成果の概観

平成9年度に調査された各時代の遺構や遺物は，以下の通りである。

旧石器時代では，4か所の石器集中地点が確認され，ナイフ形石器，彫刻刀形石器，抉入石器，剥片など88点が出土した。集中地点以外でも，表面採集や他の時代の遺構へ混入していた石器が多く確認されており，総数114点を確認した。約2万8千年前から，当地で人々の生活が営まれていた一端を示している。

縄文時代では，陥し穴3基が検出された。遺構からは遺物が出土していないため，その時期は不明である。表面採集や他の時代の遺構へ混入していた縄文土器片は，縄文時代前期から後期の土器（浮島Ⅱ式，阿玉台式，加曽利E式，加曽利B式）で，中でも中期から後期の土器が中心になっている。その他，石鏃7点，石鏃の未製品1点，剥片1点が出土している。縄文時代の長い時間にわたり，付近に集落が形成されていた可能性がある。

弥生時代，古墳時代の遺構と遺物は確認されていない。

当遺跡の中心的な時代は，奈良時代と平安時代である。奈良時代の住居跡34軒，平安時代の住居跡40軒，掘立柱建物跡27棟，堀1条，土坑73基が検出され，遺物では土師器（墨書土器），須恵器（墨書土器，刻書土器，円面硯），灰釉・緑釉陶器，瓦，土製品（紡錘車，支脚），石製品（紡錘車，支脚），石器（砥石），鉄製品（鉄鏃，刀子，鉄斧，釘，火打金，金鋺，金床，手鎌，鬥），鍛冶関連遺物（羽口，鉄滓），漆膜と漆紙（曲げ物に詰められていた漆の皮膜と，蓋として使われていた紙）などが出土している。当時の中心的集落として，住居跡や掘立柱建物跡，堀が意図的に配置されている。

中・近世では，掘立柱建物跡3棟，土坑39基，溝4条が検出しされ，土師質土器，陶器片，鉄製品（鎌，釘），銅製品（煙管，古銭）などが出土している。また，時期不明の土坑229基が検出されている。遺構の関連は不明であるが，掘り方のしっかりした方形土坑，直径1m位の円形土坑，区画を目的とした溝なども検出されていることから，墓域として機能していたことも考えられる。

3　旧石器時代の遺物について

今回の調査では，旧石器時代の遺物114点を確認し（表8），4か所の石器集中地点を検出することができた。しかし，具体的な生活跡としての遺構を確認することはできなかった。そこで，ここでは出土した遺物の中でも特徴的なナイフ形石器と出土した石器の石材，各石器集中地点との関連について簡単に述べることとする。

まず，出土したナイフ形石器は14点で，旧石器時代の遺物全体の約12%を占める。石材は，14点中，黒曜石が11点，硬質頁岩，瑪瑙，チャートがそれぞれ1点ずつである。ＡＴ層より古い時期の製作技法をもつものや，瀬戸内型の特徴をもつもの，典型的な基部加工のものなどが確認されている。石器集中地点から出土したナイフ形石器のいくつかはＡＴ層下部より上層から出土するタイプで，時期的に幅を持つものであることから，石

表8　旧石器時代の出土遺物

石材＼器種	石ナイフ器形	石刻刃器形	掻器	石抉器入	石核	剥片	砕片	礫	合計
珪質頁岩						19	1		20
硬質頁岩	1					2			3
瑪瑙	1	1			1	14	2		19
チャート	1				1	4		1	7
黒曜石	11		1	1		28	11		52
安山岩（ガラス質黒色安山岩とトロトロ石を含む）					2	2	2	1	7
雲母片岩						1			1
粘板岩							2		2
花崗岩								1	1
砂岩								1	1
片岩								1	1
合計	14	1	1	1	4	70	18	5	114

器集中地点の時期を特定することは難しかった。また，他の時代の遺構から出土したナイフ形石器2点は南関東では第Ⅴ層下部からの出土例が多いものであり，長野県和田峠産の黒曜石を用いていることが興味深い。これらの年代は，第Ⅴ層下部からの出土例が多いことから，約25,000年から28,000年前に比定できる。

次に，石材は，黒曜石が約46%，珪質頁岩が約18%，瑪瑙が約17%を占めている。産地が不明なものを除き，黒曜石や硬質頁岩などの遠くから搬入された石材が全体の51%あることがわかる。特に，その中心である黒曜石は，その石質の違いから栃木県高原山産や長野県和田峠産のものなど，数か所から産出されたものが確認されている。また，利根川や久慈川の上流など比較的近くで産出される瑪瑙，珪質頁岩，ガラス質黒色安山岩やチャートなどは，全体の49%を占めている。

次に，石器集中地点の性格については，製品が少なく，接合できる資料もなかったことから，詳細は不明である。点数も第4号石器集中地点を除いてそれほど多くはない。しかし，剥片が主体で，石核も含まれていることから，石器製作跡の可能性が考えられる。

年代については，当遺跡の文化層は1層で，ローム層第Ⅴ層上部から中部で多く出土していることから，約25,000年前と考えられる。

4　奈良・平安時代の集落変遷について

今回の調査から，当遺跡は，隣接している旧常陸国河内郡衙推定地や旧河内郡の郡寺とみられる九重廃寺跡（東岡遺跡）との関連が非常に強い遺跡であることが推測できる。まず，遺構についてみてみると，当遺跡の住居跡の時期は，その出土遺物や遺構の形態から，奈良・平安時代（8世紀～10世紀初）に限定されていると考えられる。このことは，つくば市中根地区近隣に位置している他の遺跡（柴崎遺跡，大山遺跡，天神遺跡など）の多くが，古墳時代から続いていることと異なっている。よって，奈良時代の律令成立時期に，計画的な集落として成立したと思われ，郡衙の役人階級との結びつきが予想される。また，奈良時代前期から奈良時代後期（8世紀前葉から後葉）と考えられる掘立柱建物跡の配置は，調査Ⅰ区の中央部に東西に広がる群，中央部から南に広がる群，南西部から調査ⅡA区東部にかけて広がる群の，おおよそ3群に分けることができる。特に，一番北に近く，西から郡衙推定地や郡寺跡のある東に向かって一直線に並んでいる掘立柱建物跡群の北

濠は，調査Ⅰ区東部に位置する奈良時代（８世紀）の堀の北端とほぼ同緯度であり，その北側には掘立柱建物跡は配置されていない。よって，堀は集落を区画する性格があると思われ，この堀の内側に配置された掘立柱建物跡群は，集落の中で計画的・機能的に配置されたと考えられる。このように，規則的，機能的な集落構造を持っていることが理由のひとつである。

次に，特徴的な遺物をあげてみると，愛知県猿投窯産（黒笹90号窯式）の緑釉陶器（椀）が３点，猿投窯産（黒笹14・黒笹90・折戸10・井ヶ谷78号窯式）の長頸瓶・椀・平瓶，二川窯産の長頸瓶などの灰釉陶器が48点，墨書・刻書土器19点，須恵器円面硯２点，漆膜と漆紙，鉄鉢形須恵器鉢，郡寺のものと考えられる瓦３点などがあげられる。また，鉄製品は総数75点を数えるが，その中で一番多いのが刀子33点で，約44％を占め，鉄鏃は少ない。これらは，この集落が，郡衙や郡寺などと強く結びついた集落で，高い文化程度を誇り，仏教信仰が集落内で普及していたことを示している。そして，郡衙で働く役人や仏教信仰に係わる人々の生活をうかがわせる貴重な資料である。

当遺跡は平成９年度からの，３年計画の調査が継続中である。そこで，集落跡としての，全体の性格を把握するにはまだ資料が十分とは言えないが，出土遺物と住居跡の重複関係をもとに，時期が明確なもの71軒を６期に区分し，住居跡と掘立柱建物跡，堀の係わりについて，各期ごとに若干の検討を行い，まとめとしたい。

○Ⅰ期　奈良時代前期（８世紀前葉）…３軒（第289図）

古墳時代の住居跡が確認されていないことから，この時期が集落の形成期と思われる。第44・80・81号住居跡が該当し，第44号住居跡は調査Ⅰ区南西部に，第80・81号住居跡は東部に位置している。第80号住居跡は竈の位置は不明であるが，他は竈を北側に持っている。主軸方向はＮ－７°～21°－Ｗの範囲で，若干の規則性が認められる。平面形は方形または長方形で，規模は第44号住居跡の27.3㎡を最大として，中形と小形の住居跡である。[1] 規模による住居跡の組み合わせは不明である。第44号住居跡には，竈の左脇に棚部が付設されている。

遺物は，土師器（坏・小形甕・甕など），須恵器（坏・盤・鉢・円面硯など），土製品（支脚），石器（砥石），鉄製品（刀子）が出土している。特に，第44号住居跡の床面から出土した須恵器円面硯は，焼成が良好で他地域からの搬入品と考えられる。

○Ⅱ期　奈良時代中期（８世紀中葉）…６軒（第289図）

第２・３・14・41・85・87号住居跡が該当し，調査Ⅰ区の西部と調査ⅡＡ区で，掘立柱建物跡群を囲むかのように位置している。住居跡はすべて北壁に竈を持っている。主軸方向はＮ－25°－Ｗ～Ｎ－４°－Ｅの範囲で，第41号住居跡を除いて，北から西寄りの主軸を持っており，若干の規則性が認められる。平面形は方形または長方形がほとんどで，規模は第41号住居跡の16.8㎡を最大として，すべて小形の住居跡である。前期よりも小形化が進んでいることがわかる。

遺物は，土師器（坏・小形甕・甕など），須恵器（坏・高台付坏・盤・壺・鉢・甕・長頸壺・コップ形土器など），土製品（支脚），石器（砥石），鉄製品（金槌・金床・釘）が出土している。特に，第41号住居跡から出土した須恵器コップ形土器は，奈良時代に国によって規定されていた量（容積，１升＝約0.8ℓ）を計測する枡として平城京などで利用されたものと同形である。国家運営のための単位の標準化が地方まで行き渡っていた可能性を示している。

○Ⅲ期　奈良時代後期（８世紀後葉）…24軒（第290図）

第４・６・７・９・13・17・20・24・31・35・39Ｂ・47・48・54・56・58・65・69・70・73・75・76・79・90号住居跡が該当し，第90号住居跡を除いて，調査Ⅰ区から検出されている。調査Ⅰ区の北部，東部，南部に住居跡が集中していることがわかる。また，掘立柱建物跡群や堀の中まで住居跡が造られるようになっていることから，この時代になって次第に掘立柱建物跡が廃絶され，住居跡が多く作られるようになっていったものと考えられる。第１号堀がこの時期に埋められたことを考えると，集落の範囲がこれまでよりも大きく広がり，調査Ⅰ区の北部に延びているのがわかる。住居跡はすべて北壁に竈を持っている（第70号住居跡は攪乱のため竈が付設されていたかどうか不明である）。主軸方向はＮ－10°－Ｗ～Ｎ－12°－Ｅの範囲で，６軒を除いて西寄りの主軸を持っている。特に，Ｎ－10°－Ｗ～Ｎ－０°の範囲に17軒の住居跡が主軸を持っている。平面形は方形または長方形で，規模は第56号住居跡の41.6m²を最大とするが，他に大形の住居跡が１軒，中形が３軒，小形が19軒で，78%が小形の住居跡である。そのうち，特に規模が小さい10m²以下の住居跡が２軒あることから，前期よりも一層住居の規模の分化が進んでいることがわかる。また，第47号住居跡は竈の両脇に棚部が付設されている。第56号住居跡では竈の上方２か所と袖部脇の２か所に，第54・58号住居跡では竈の袖部脇の２か所にピットが確認されており，共に大形住居跡の共通した形態として注目される。

遺物は，土師器（坏・椀・高台付皿・鉢・小形甕・甕・手捏土器など），須恵器（坏・高台付坏・盤・高盤・蓋・鉢・壺・甕・甑・捏ね鉢・短頸壺・円面硯など），灰釉陶器（長頸瓶・平瓶），土製品（支脚），石製品（紡錘車），石器（砥石），鉄製品（短刀・刀子・鉄鏃・手鎌・釘・火打金・鬥），漆膜と漆紙，炭化種子（モモ），鉄滓が出土している。特に，第６号住居跡の竈西側袖の上から出土した須恵器鉢は，托鉢時に僧侶が使用する仏具である鉄鉢を模倣して作られたもので，集落内で仏教がどのように信仰されていたかを知る手がかりになるだけでなく，隣接している郡寺との強い関連や，国家をあげて仏教を普及させようとした当時の中央政権の力を示すものである。また，第41号住居跡の床面直上から出土している漆膜と漆紙，第58号住居跡の覆土中層から出土している須恵器円面硯は，郡衙の役人との関係を強く感じさせる。この他に，墨書・刻書土器が出土していることも特徴である。[2] 第31号住居跡から墨書「度？」（須恵器坏）が，第47号住居跡から墨書「前」（須恵器坏）が，第48号住居跡から墨書「□山□」（須恵器高台付坏）が，第56号住居跡から刻書「山川」（須恵器坏，第１号堀からも同様の刻書が出土している。）などが出土している。

○Ⅳ期　平安時代前期（９世紀前葉）…13軒（第290図）

第11・28・32・36・38・39Ａ・46・49・50・53・66・68・72・84Ａ・84Ｂ号住居跡が該当し，第84Ａ・84Ｂ号住居跡を除き，調査Ⅰ区から検出されている。特に，調査Ⅰ区の中央部から南側に構築されるようになり，軒数は少ないが，前期よりも掘立柱建物跡群の中に広がりをみせている。掘立柱建物跡がその機能を失っていったのがこの時期であろう。第84Ａ号住居跡は東竈，他はすべて北壁に竈を持っている（第84Ｂ・72号住居跡は竈が付設されていたかどうか不明である）。主軸方向はＮ－18°－Ｗ～Ｎ－89°－Ｅの範囲で，第84Ａ号住居跡を除くと，Ｎ－18°－Ｗ～Ｎ－10°－Ｅの範囲である。特に，Ｎ－18°－Ｅ～Ｎ－０°の範囲に６軒の住居跡が主軸を持っていることから，若干の規則性が認められる。平面形は方形または長方形で，規模は第39Ａ号住居跡の23.7m²を最大とするが，92%が小形の住居跡である。そのうち，特に規模が小さい10m²以下の住居跡が５軒あることから，規模の小形化が進んでいることがわかる。また，第53号住居跡は竈の両脇に棚部が付設されている。

遺物は，土師器（坏・高台付坏・鉢・小形甕・甕など），須恵器（坏・高台付坏・盤・高盤・蓋・鉢・壺・甕・甑など），灰釉陶器（椀・長頸瓶），土製品（支脚），石器（砥石），鉄製品（刀子・鉄鏃・鎌），炭化

米，鉄滓が出土している。土師器が須恵器よりも多く出土する傾向になる。特徴的な遺物としては，第39A号住居跡から出土した灰釉陶器椀で，底部外面に墨書「壬（みぶ）」が施されている。これは猿投窯産黒笹14号窯式のものと思われる。「壬」については，古くは皇室御子の養育係の役職である「壬生部（みぶべ）」に由来し，平安時代に朝廷の官僚の名字として用いられていた（「壬生氏」など）ことから，郡衙に関係した高級官僚の存在をうかがわせるものである。また，そのほとんどが細片であるが，この時期から灰釉陶器（折戸10号窯式，黒笹14号窯式）の出土量が少しずつ増加していることにも注目したい。この時期に出土した墨書土器としては，他に第38号住居跡から墨書「宗（家？）門（仏教に関連した言葉か？）」（須恵器高台付坏）が，第39A号住居跡から墨書「本戸」（土師器坏）が，第72号住居跡から「万」（土師器高台付坏）が出土している。

○Ⅴ期　平安時代前期（9世紀中葉）…14軒（第291図）

第1・5・8・16・21・23・25・27・29・30・51・64・74・82・86号住居跡が該当し，第86号住居跡を除き，調査Ⅰ区から検出されている。また，第51・64号住居跡を除くと，すべて調査Ⅰ区の中央部の掘立柱建物跡群から北側に広がっている。前期，前々期と南側に広がっていた住居跡が，この時期になりほとんど北側に移動している傾向にある。第29号住居跡は東壁に，他はすべて北壁に竈を持っている（第51号住居跡は攪乱のため竈が付設されていたかどうか不明である）。主軸方向はN－15°－W～N－96°－Eの範囲で，第29号住居跡を除くと，N－15°－W～N－20°－Eの範囲である。特に，N－10°－W～N－10°－Eの範囲に11軒の住居跡が主軸を持ち，N－0°にいたっては6軒の住居跡が主軸を持っていることから，若干の規則性が認められる。平面形は方形または長方形で，規模は第16号住居跡の17.6㎡を最大とし，すべてが小形の住居跡である。そのうち，特に規模が小さい10㎡以下の住居跡が7軒あることから，前期よりも規模の小形化はさらに進んでいる。また，第5・8・16号住居跡は竈の両脇に棚部が付設されている。

遺物は，土師器（坏・高台付坏・高台付皿・鉢・小形甕・甕など），須恵器（坏・高台付坏・高台付皿・盤・蓋・鉢・甕・甑・短頸壺・長頸瓶など），緑釉陶器（椀），灰釉陶器（長頸瓶），土製品（支脚・紡錘車・羽口），鉄製品（刀子・釘）が出土している。この時期になると，前期よりも土師器の出土量が増え，緑釉陶器や灰釉陶器といった特別な遺物も出土している。緑釉陶器や灰釉陶器は多くが猿投窯産の物（黒笹14・90号窯式，井ヶ谷78号窯式）であるが，中には二川窯産の長頸瓶など三河地方から搬入されたものもある。この時期の住居跡6軒から出土した緑釉・灰釉陶器は，当遺跡から出土した緑釉・灰釉陶器の46%を占める。また，この時期に出土した墨書土器としては，第16号住居跡から墨書「本井」（土師器坏）が，第27号住居跡から墨書「工？」（須恵器高台付皿）が，第30号住居跡から墨書「永成」（土師器坏）2点が，第74号住居跡から墨書「万坏」（土師器坏）と「冂不」（土師器坏）2点があげられる。第82号住居跡から出土した羽口に関しては，鍛冶炉の確認もなく，鍛冶関連遺物が少量しか出土していない（第1号堀から出土した椀状滓2点といくつかの住居跡から出土した鉄滓など）ことから，使用に関しての詳細は不明である。

○Ⅵ期　平安時代前期（9世紀後葉）…8軒（第291図）

第15・19・22・26・45・63・67・71号住居跡が該当し，すべて調査Ⅰ区から検出されている。特に，第45号住居跡を除き，第15・19・22・26号住居跡は調査Ⅰ区の北部に，第63・67・71号住居跡は南東部に分散しており，調査区域外へ広がっていることも考えられる。住居跡はすべて北壁に竈を持っている（第26号住居跡は調査区域外のため竈が付設されていたかどうか不明である）。主軸方向はN－9°－W～N－17°－Eの範囲，4軒が東寄りの主軸を，3軒が西寄りの主軸を持っていることから，規則性は認められない。平面形は方形ま

たは長方形で，規模は第19号住居跡の15.8㎡を最大とし，すべてが小形の住居跡である。そのうち，特に規模が小さい10㎡以下の住居跡は4軒あり，前期まで続いていた小形化の傾向はここにきて終りを迎えている。また，第19号住居跡は竈の両脇に棚部が付設されており，第22号住居跡は焼失家屋であった。

遺物は，土師器（坏・高台付坏・高台付皿・鉢・小形甕・甕など），須恵器（坏・高台付坏・高台付皿・鉢・甕など），緑釉陶器（椀），灰釉陶器（平瓶），平瓦，土製品（支脚・紡錘車），石製品（紡錘車），鉄製品（釘・鬥），鉄滓が出土している。ほとんどを土師器が占め，緑釉・灰釉陶器・墨書土器の量も減少している。陶器の産地については，緑釉陶器が猿投窯産黒笹90号窯式，灰釉陶器が黒笹14号窯式である。また，この時期に出土した墨書土器は，第19号住居跡から墨書「大山」（土師器坏）が，第67号住居跡から墨書「富？」（土師器坏）が，第71号住居跡から墨書「千」（土師器高台付坏）が出土している。

5　結び

以上のように，当遺跡の集落は，8世紀初めに形成され，8世紀中葉から9世紀中葉の間に，集落規模はピークを迎え，後に減少していく傾向がうかがえる。また，掘立柱建物跡群は8世紀前葉に既に構築され，8世紀後葉になるとその役割を終え，次第に廃絶されていく傾向にある。第1号堀の廃絶が8世紀後葉ということを考えると，当遺跡の集落は8世紀後葉までが掘立柱建物跡を伴う計画的，機能的な集落構造を示している。そして，その後，新しい集落の形成がなされ，次第に範囲が拡大していったものと考えられる。このような流れの中での郡衙や郡寺との関係は不明であるが，一番強い結びつきがあった時期は，8世紀前葉から中葉であることが推測されるのではなかろうか。また，周辺部へどのように集落が拡大していったのか，10世紀前葉以降の集落の移り変わりはどうなっていったのかという問題については，資料が乏しいことから，今後の調査に期待したい。

今回の調査で，具体的な資料の収集と検討がなされることとなったが，中原遺跡の全容については，未だ不明な点が多く，資料の裏付けについても不十分な点が多い。今後の調査の結果や研究資料の増加に期待し，改めて考えていかなければならないと思われる。

註

(1)　竪穴住居跡の大きさを，30㎡以上を大形，30㎡未満20㎡以上を中形，20㎡未満を小形とした。

(2)　墨書・刻書土器の解読に関しては，国立歴史民俗博物館教授の平川南氏から御教示を戴いた。

参考文献

・都内第二遺跡調査会　西台遺跡調査団　「西台後藤田遺跡第1地点発掘調査報告書」　1999年2月26日

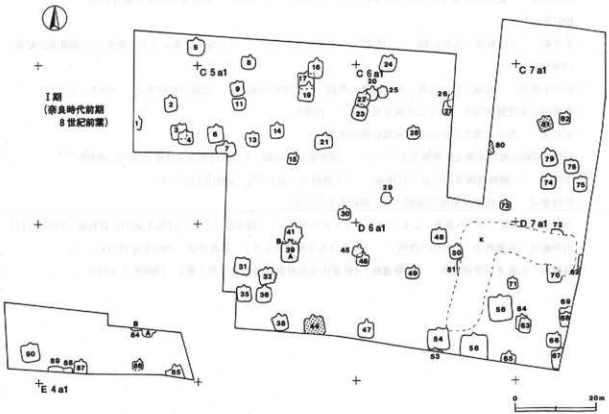
・栃木県教育委員会　財団法人栃木県文化振興事業団　「八幡根東遺跡　一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木県埋蔵文化財調査報告第181集』　1996年3月31日

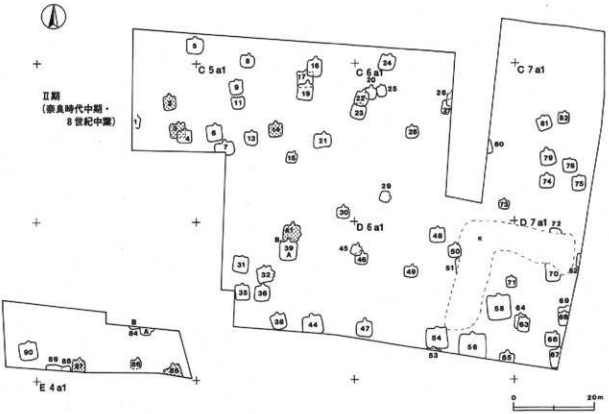
・群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　「後田遺跡（旧石器編）」『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第15集』　1987年3月31日

・赤井博之　「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究(1)～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古　第20号』　1998年5月

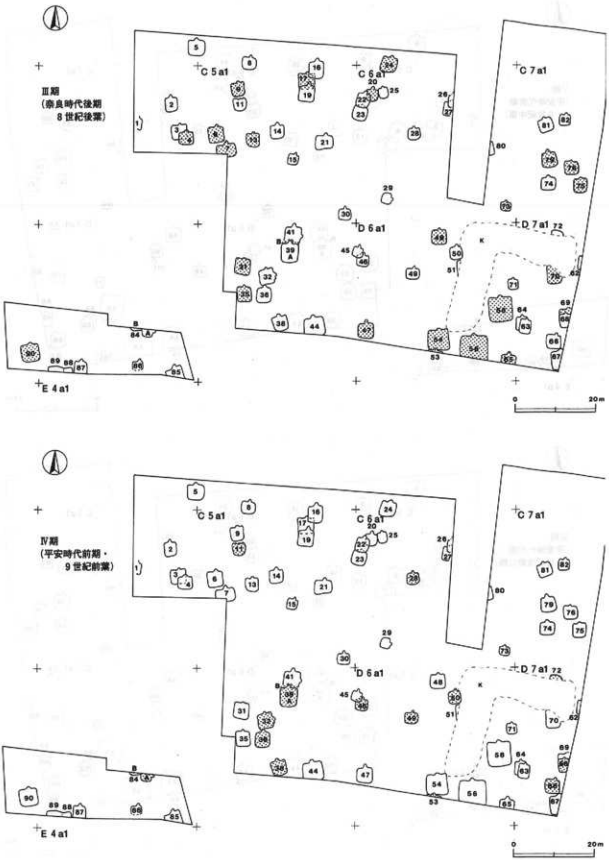
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）柴崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』　1994年9月

・川津法伸　「竈の脇に棚をもつ住居について」　『研究ノート６号』　財団法人茨城県教育財団
1997年６月30日
・笹生衛　「古代集落と仏教信仰　－千葉県内の事例を中心に－」　『上高津貝塚ふるさと歴史の広場講演会紀要』
1998年４月19日
・佐々木義則　「茨城における掘立柱建物跡の概観」　『常総台地14』　常総台地研究会　1998年５月
・奈良国立文化財研究所　「なら平城京展'98」　1998年
・平川南　「郡符木簡などからみた末端行政の実態」
『律令国家の地方末端支配機構をめぐって　－研究集会の記録－』　奈良国立文化財研究所　1998年
・平川南　「八幡林遺跡木簡と地方官衙論」　『木簡研究　第17号』　1995年11月25日
・松村恵司　「古代東国集落の諸相…村と都の暮らしぶり」
『第９回企画展　古代の集落－しもつけのムラとその生活－』　栃木県立しもつけ風土記の丘資料館　1995年11月
・山中敏史　佐藤興治　「古代の役所」　『古代日本を発掘する５』　岩波書店　1985年６月21日
・結城市　山武考古学研究所　「峯崎遺跡」『結城市文化財調査報告書　第７集』　1996年３月15日

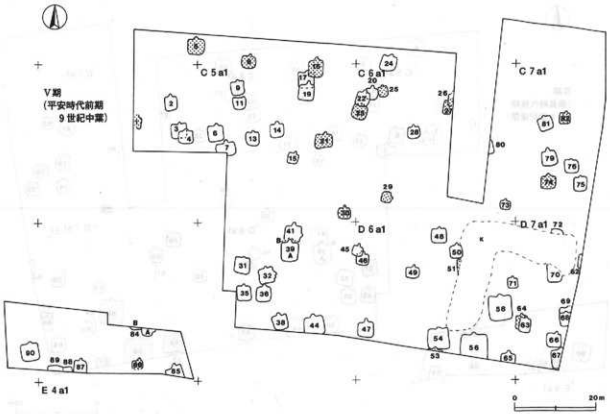


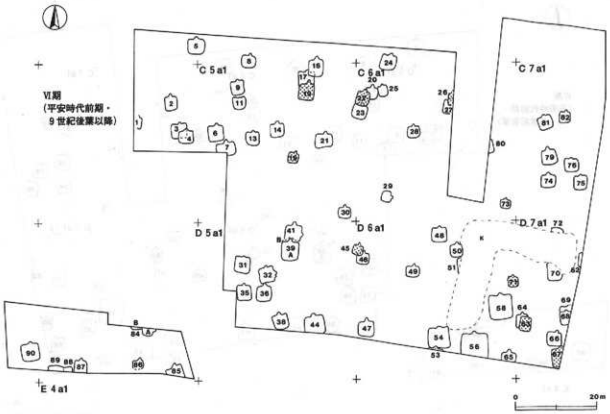


第289図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷（1）



第290図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷（2）





第291図　中原遺跡（Ⅰ・ⅡA区）の集落変遷（3）

中原遺跡遺構一覧表

表9　住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)[illegible]	壁高(cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)、時代、その他
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	棚	炉・竈			
1	C4e7	N-8°-E	長方形または方形	(1.17×3.30)	8～20	平坦	−	−	−	−	−	−	竈	自然	土師器189, 須恵器198, 鉄製品1(不明鉄製品), 石1(雲母片岩を支脚に利用)	9世紀中葉
2	C4c9	N-12°-W	方形	3.50×3.25	60～70	平坦	ほぼ全周	−	−	1	−	−	竈	自然	土師器69, 須恵器27, 土製品1(支脚), 石器1(砥石), 鉄製品2(金槌, 金床)	SI2→SD1, SK1 8世紀中葉
3	C4e9	N-16°-W	長方形	4.14×3.60	56～60	平坦	全周	−	−	2	−	−	竈	人為	土師器66, 須恵器31	SI3→SI4, SD1 8世紀中葉
4	C4e0	N-5°-W	長方形	3.75×3.20	52～55	平坦	ほぼ全周	2	−	−	2	−	竈	人為	土師器81, 須恵器57, 石製品1(紡錘車)	SI3→SI4 8世紀後葉
5	B4i0	N-0°	方形	4.10×4.05	49～59	平坦	全周	4	−	−	1	両棚	竈	人為	土師器528, 須恵器535, 鉄製品1(刀子), 礫2	SK2, 170→SI5→SB20, SD2 9世紀中葉
6	C5e2	N-4°-W	方形	3.92×3.88	48～50	平坦	ほぼ全周	4	−	1	1	−	竈	自然	土師器128, 須恵器124, 鉄製品4(刀子3, 不明鉄製品1), 礫4	8世紀後葉
7	C5f2	N-3°-W	[長方形]	(4.90×2.11)	47～53	平坦	一部	−	−	−	−	−	竈	人為	土師器136, 須恵器209, 炭化種子1(山モモ)	8世紀後葉
8	B5j4	N-5°-E	方形	3.56×3.40	32～43	平坦	全周	−	−	−	1	両棚	竈	人為	土師器501, 須恵器365, 灰釉陶器1(長頸瓶・二川窯産), 緑釉陶器1(椀・黒笹90号), 土製品2(紡錘車, 支脚), 鉄製品2(刀子, 釘)	9世紀中葉
9	C5b3	N-10°-W	長方形	3.66×3.33	21～62	平坦	全周	−	−	−	1	−	竈	自然	土師器68, 須恵器32, 灰釉陶器1(長頸瓶), 石器1(砥石), 礫1	8世紀後葉
11	C5c3	N-8°-W	方形	3.07×2.91	41～51	ほぼ平坦	一部	−	−	1	−	−	竈	自然	土師器105, 須恵器157, 鉄製品1(刀子)	9世紀前葉
13	C5e4	N-6°-W	方形	3.36×3.30	40～45	平坦	全周	4	−	−	1	−	竈	自然	土師器56, 須恵器76, 灰釉陶器1(平瓶・黒笹14号), 石製品1(紡錘車), 鉄製品2(刀子)	8世紀後葉
14	C5e5	N-0°	方形	3.63×3.40	35～68	ほぼ平坦	ほぼ全周	−	−	1	1	−	竈	自然	土師器225, 須恵器268	8世紀中葉
15	C5f6	N-17°-E	方形	2.58×2.46	38～40	平坦	全周	−	−	−	−	−	竈	人為	土師器137, 須恵器67, 土製品1(支脚)	SI15→SK5 9世紀後葉
16	C5a8	N-0°	長方形	4.35×4.05	34～40	平坦	全周	−	−	−	1	両棚	竈	自然	土師器502(坏・墨書1「本井」), 須恵器92, 灰釉陶器3(長頸瓶), 石2(支脚として利用された雲母片岩)	SI17→SI16 9世紀中葉
17	C5a7	N-6°-W	方形	3.72×3.56	64～70	平坦	ほぼ全周	4	−	−	1	−	竈	自然	土師器95, 須恵器37, 鉄滓1, 礫1	SI17→SI16, 19 8世紀後葉
19	C5b7	N-4°-E	[方形]	[4.17×4.01]	54～63	平坦	半周	−	−	−	1	両棚	竈	自然	土師器249(坏・墨書1「大山」), 須恵器94, 土製品1(紡錘車), 石製品1(支脚), 炭化米5	SI17→SI19 9世紀後葉
20	C6b1	N-0°	方形	2.98×2.82	57～60	平坦	半周	−	−	−	−	−	竈	自然	土師器36, 須恵器12	SI20→SI22 8世紀後葉
21	C5e8	N-0°	長方形	4.05×3.49	49～55	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	−	竈	自然	土師器219, 須恵器215, 灰釉陶器12(椀・黒笹14号, 長頸瓶・二川産?), 礫7	9世紀中葉
22	C6b1	N-14°-E	方形	3.55×3.25	22～36	平坦	ほぼ全周	−	−	2	1	−	竈	自然	土師器305, 須恵器122, 緑釉陶器2(椀・黒笹90号), 鉄製品2(刀子), 礫1, 多量の炭化材	SI20, 23→SI22 9世紀後葉 焼失家屋
23	C6c1	N-20°-E	方形	3.70×3.58	48～60	平坦	ほぼ全周	2	−	−	1	−	竈	自然	土師器316, 須恵器101, 灰釉陶器1(長頸瓶・黒笹14号), 鉄製品1(刀子)	SI23→SI22 9世紀中葉
24	B6j2	N-10°-E	方形	3.84×3.44	24～28	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	−	竈	自然	土師器28, 須恵器30, 灰釉陶器1(長頸瓶・黒笹14号または90号)	SI24→SD7 8世紀後葉
25	C6b2	N-15°-W	方形	2.49×2.33	2～8	凸凹	−	−	−	−	−	−	竈	不明	土師器49, 須恵器6, 鉄製品1(釘), 石1(雲母片岩)	9世紀中葉
26	C6c6	不明	長方形または方形	(0.47×2.93)	20～27	平坦	−	−	−	−	−	−	[竈]	自然	土師器3, 須恵器2	SI27→SI26 9世紀後葉
27	C6c6	N-3°-E	長方形または方形	(1.87×3.40)	17～37	平坦	半周	−	−	−	1	−	竈	自然	土師器35, 須恵器13(高台付皿・墨書1「工」), 石1(雲母片岩)	SI27→SI26 9世紀中葉
28	C6e4	N-4°-W	長方形	3.32×2.70	35～42	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	−	竈	人為	土師器86, 須恵器54, 土製品1(支脚)	9世紀前葉
29	C6i2	N-96°-E	方形	2.40×2.20	22～24	平坦	全周	−	−	−	1	−	竈	人為	土師器83, 須恵器76	9世紀中葉
30	C5j0	N-7°-W	方形	2.99×2.75	40～46	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	−	竈	人為	土師器126(坏・墨書2「永成」), 須恵器64	SB1→SI30 9世紀中葉
31	D5c3	N-12°-E	長方形	4.03×3.76	45～56	平坦	全周	4	−	−	1	−	竈	自然	土師器121, 須恵器132(坏・墨書1「皮」), 石器1(砥石), 鉄製品2(手鎌, 釘)	SB6, 10, SK225, 204, 205→SI31→SK208 8世紀後葉
32	D5d5	N-10°-W	方形	3.93×3.72	52～64	平坦	全周	3	−	−	1	−	竈2	自然	土師器676, 須恵器409, 石器1(砥石), 鉄製品4(刀子), 鉄滓1, 礫1, 炭化材2, 炭化米1	9世紀前葉
35	D5e3	N-2°-W	方形	3.88×3.65	35～41	平坦	全周	−	−	−	1	−	竈	人為・自然	土師器79, 須恵器98, 鉄製品1(火打金), 鉄滓2	SB16, 27, 30→SI35→SK242, 243 8世紀後葉
36	D5e5	N-2°-E	方形	3.87×3.67	44～50	平坦	全周	4	−	−	1	−	竈	自然	土師器299, 須恵器271	SB27, 29→SI36 8世紀後葉
38	D5g6	N-18°-W	方形	3.52×3.50	25～31	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	−	竈	人為	土師器168, 須恵器185(高台付坏・墨書1「宗門」), 灰釉陶器1(長頸瓶・折戸10号), 石製品1(砥石), 鉄製品2(刀子, 不明鉄製品)	9世紀前葉
39A	D5b6	N-7°-W	長方形	5.46×4.34	43～54	平坦	全周	4	−	2	1	−	竈	自然	土師器1064(坏・墨書1「本戸」), 須恵器776, 灰釉陶器1(椀・黒笹14号・墨書「壬」), 石製品1(砥石), 鉄製品7(刀子5, 鉄鏃2)	SI41→SI39B→SI39 A9世紀前葉 SI39Bの建て替え
39B	D5b6	N-0°	[長方形]	[5.46×4.34]	43～54	平坦	全周	(4)	−	(2)	(1)	−	竈	不明		SI41→SI39B→SI39A 8世紀後葉
41	D5a6	N-4°-E	方形	4.26×3.94	56～59	平坦	全周	4	−	−	1	−	竈2	自然	土師器604, 須恵器452, 鉄製品1(不明鉄製品), 礫1	SI41→SI39B→SI39A 8世紀中葉

44	D5g9	N－7°－W	[方形]	(5.30×5.16)	54～64	平坦	全周	4	－	－	1	左棚	竈	人為	土師器373, 須恵器286, 土製品1 (支脚), 石器1 (砥石), 鉄製品1 (刀子), 礫5, 石1(雲母片岩), 鉄滓2	8世紀前葉
45	D6b1	N－9°－W	方形	2.47×2.35	9～19	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	竈	人為	土師器104, 須恵器13	SI46→SI45 9世紀後葉
46	D6c1	N－5°－E	長方形	3.16×2.88	30～35	平坦	[全周]	－	－	－	1	－	竈	自然	土師器146, 須恵器47, 土製品1(支脚), 鉄製品2 (鎌)	SB4A, 4B→SI46→SI45 9世紀前葉
47	D6g1	N－3°－E	長方形	4.43×3.69	47～54	平坦	全周	－	－	5	2	両棚	竈	自然	土師器227, 須恵器235, 自然遺物1 (樹膜と漆膜), 礫1, 鉄滓1	8世紀後葉
48	D6a6	N－2°－E	方形	3.73×3.48	42～52	平坦	全周	4	－	－	1	－	竈	自然	土師器373, 須恵器129 (高台付坏・墨書1「□山□」), 石製品1 (紡錘車), 石器2 (砥石)	SI48→SK46, 47 8世紀後葉
49	D6d4	N－0°	長方形	3.32×3.00	12～15	平坦	全周	－	－	－	－	－	竈	不明	土師器40, 須恵器8	SB6→SI49 9世紀前葉
50	D6b7	N－7°－W	長方形	3.09×2.80	32～42	平坦	全周	－	－	－	1	－	竈	自然	土師器172, 須恵器49, 鉄製品1 (鉄鏃の茎部)	SB26, SK352→SI50→SK353 9世紀前葉
51	D6c7	不明	不明	(0.99×1.96)	20～25	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	自然	土師器21, 須恵器2	SI51→SK138, 139 SB26との新旧不明 9世紀中葉
53	D6i5	N－10°－E	長方形または方形	(3.61×1.04)	46～52	平坦	－	－	－	1	－	両棚	竈	人為	土師器107, 須恵器60, 土製品1 (支脚)	SI54→SI53 9世紀前葉
54	D6h6	N－5°－W	長方形または方形	(5.29×5.15)	34～42	平坦	[全周]	4	－	2	1	－	竈	自然	土師器374, 須恵器363, 鉄製品2 (釘, 不明鉄製品)	SI54→SI53 8世紀後葉
56	D6h8	N－0°	[長方形]	(6.94×6.00)	41～51	平坦	[全周]	4	－	4	－	－	竈	人為	土師器1465, 須恵器1351 (坏・墨書1「山川」), 灰釉陶器1 (長頸瓶・黒笹14号または90号), 土製品1 (支脚), 鉄製品7 (鉄刀1, 刀子6), 礫13	8世紀後葉
58	D6f9	N－7°－W	方形	5.96×5.84	44～56	平坦	全周	4	－	2	1	－	竈	自然	土師器1358, 須恵器438, 土製品3 (支脚), 鉄製品1 (刀子), 礫5, 炭化材	SB9→SI58→SK135 8世紀後葉
62	D7c5	不明	長方形または方形	(0.82×3.40)	18～34	平坦	一部	－	－	－	－	－	不明	自然	土師器19, 須恵器6, 鉄製品1 (不明鉄製品)	8世紀
63	D7g1	N－10°－E	長方形	3.36×2.90	8～26	平坦	－	－	－	－	－	－	竈	自然	土師器284, 須恵器100, 灰釉陶器2 (平瓶・黒笹14号), 石製品1 (紡錘車), 鉄製品1 (釘), 礫5	SI64→SI63 9世紀後葉
64	D7g1	N－0°	長方形	3.44×2.77	10～20	平坦	一部	－	－	－	－	－	竈	人為	土師器40, 須恵器20, 土製品1 (支脚)	SB9→SI64→SI63 9世紀中葉
65	D6i0	N－0°	長方形または方形	(3.79×2.58)	37	平坦	一部	－	－	－	－	－	竈	自然	土師器301, 須恵器224, 鉄製品1 (鉄鏃), 鉄滓2	SI65→SK128, 131, 132 8世紀後葉
66	D7i3	N－0°	長方形または方形	(2.47×4.66)	13～20	平坦	半周	2	－	－	－	－	竈	自然	土師器77, 須恵器39	SI66→SK145 9世紀前葉
67	D7h3	N－7°－W	方形	3.44×3.40	10～14	平坦	－	－	－	1	1	－	竈	自然	土師器210 (坏・墨書1「富」), 須恵器105, 丸瓦1, 鉄滓1	SD11→SI67→SK145 9世紀後葉
68	D7g4	N－10°－E	長方形または方形	(2.54×3.42)	26～51	平坦	半周	－	－	1	1	－	竈	自然	土師器175, 須恵器161	SI69→SI68 9世紀前葉 SI69の建て替え
69	D7f4	N－7°－E	長方形または方形	(2.92×4.71)	28～34	平坦	半周	(2)	－	1	－	－	竈	人為	土師器121, 須恵器128	SI69→SI68 8世紀後葉
70	D7d3	不明	長方形または方形	(3.80×4.50)	62～66	平坦	半周	4	－	－	1	－	不明	自然	土師器353, 須恵器300, 石器1 (砥石), 礫2 (雲母片岩, 軽石)	8世紀後葉
71	D6d0	N－2°－W	方形	2.60×2.60	29～31	平坦	全周	－	－	－	－	－	竈	自然・人為	土師器95 (高台付坏・墨書1「千」), 須恵器89, 鉄製品1 (円)	SI71→SK121, 122 9世紀後葉
72	D7a3	不明	長方形または方形	(2.86×1.03)	33～36	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	自然	土師器78, 須恵器32 (高台付坏・墨書1「万」)	9世紀前葉
73	C6i0	N－4°－E	長方形	2.59×2.17	32～35	平坦	－	－	－	－	－	－	竈	自然	土師器139, 須恵器141	8世紀後葉
74	C7h3	N－0°	方形	3.73×3.63	31～35	平坦	全周	4	－	－	3	－	竈	自然	土師器365 (坏・墨書2「万坏」「□不」), 須恵器231, 鉄製品5 (刀子1, 不明鉄製品4)	SI74→SK123 9世紀中葉
75	C7h5	N－0°	長方形	3.80×3.17	33～44	平坦	全周	－	－	－	1	左棚	竈	自然	土師器70, 須恵器80	8世紀後葉
76	C7g4	N－2°－W	方形	3.34×3.23	27～35	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	竈	自然	土師器176, 須恵器104, 鉄滓2, 礫2	8世紀後葉
79	C7f3	N－10°－W	方形	3.62×3.50	53～57	平坦	全周	2	－	3	1	－	竈	人為	土師器137, 須恵器44, 石器1 (砥石), 鉄製品1 (円)	8世紀後葉
80	C6f9	不明	長方形または方形	(1.66×3.48)	24～32	平坦	半周	－	－	－	－	－	不明	人為	土師器13, 須恵器28	8世紀前葉
81	C7d2	N－21°－W	方形	3.52×3.37	51～58	平坦	全周	－	－	3	1	－	竈	人為	土師器82, 須恵器10, 灰釉陶器1 (長頸瓶・黒笹14号)	SI81→SK58 8世紀前葉
82	C7d4	N－2°－W	方形	2.86×2.74	35～47	平坦	全周	－	－	－	1	－	竈	自然	土師器131, 須恵器32, 灰釉陶器3 (長頸瓶・黒笹90号), 土製品1 (羽口), 鉄製品1 (刀子)	9世紀中葉
84A	D4g7	N－89°－E	長方形または方形	(2.92×1.66)	30～34	平坦	一部	2	－	－	－	－	竈	人為	土師器87, 須恵器1	SI84B, SB14→SI84A 9世紀前葉
84B	D4g7	不明	長方形または方形	(2.60×0.64)	42～48	平坦	一部	－	－	－	－	－	不明	人為	土師器11, 須恵器4	SI84B→SI84A 9世紀前葉
85	D4j9	N－25°－W	[長方形]	(3.95×3.34)	36～42	平坦	－	2	－	－	－	－	竈	自然	土師器125, 須恵器35, 土製品1 (支脚)	8世紀中葉
86	D4i7	N－0°	長方形	2.68×1.96	8～13	平坦	－	－	－	－	－	－	竈	自然	土師器69, 須恵器14, 灰釉陶器1 (長頸瓶・井ヶ谷78号), 石1 (支脚として利用された雲母片岩)	9世紀中葉
87	D4i3	N－0°	長方形または方形	(3.36×2.25)	17～22	平坦	[全周]	－	－	1	－	－	竈	自然	土師器94, 須恵器70, 土製品1 (支脚)	8世紀中葉
88	D4i3	不明	長方形または方形	(5.50×0.88)	55～65	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	自然	土師器52, 須恵器19	SI89→SI88 9世紀
89	D4i2	不明	長方形または方形	(3.16×1.20)	55～65	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	自然	土師器42, 須恵器34, 石器1 (砥石)	SI89→SI89 9世紀
90	D3i0	N－8°－W	方形	4.34×4.30	10～17	平坦	全周	4	－	－	1	－	竈	自然	土師器132, 須恵器118	9世紀後葉

表10　掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	規模(長さの単位はすべてm) 桁間	平均距離	桁行柱間	梁間	平均距離	梁行柱間	面積(㎡)	柱穴(長さの単位はすべてcm) 構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	柱寸法	覆土	主な遺物	備考 新旧関係(古→新) 時代，その他
1	C5j0	N－6°－W	2間	3.93	1.63~2.15	2間	4.35	2.00~2.30	17.10	総柱	9	隅丸長方形・楕円形	49~80	36~70	54~77	10~21	人為	土師器10，須恵器18，鉄製品2（刀子，円）	SB1→SI30 8世紀前葉から後葉
2	C6j2	N－87°－E	4間	8.29	1.75~4.12	2間	4.66	2.34~4.45	38.63	側柱	10	楕円形・円形	39~72	37~69	6~40	15~17	人為		8世紀前葉から後葉
3	C6j5	N－84°－E	4間	7.36	1.67~2.04	3間	4.78	1.49~1.64	35.18	側柱	14	隅丸長方形・楕円形	76~94	68~90	55~87	16~21	人為	土師器64，須恵器38	SB3→SK4，47 SB8，SK201との新旧不明 8世紀前葉から後葉
4A	D6c2	N－4°－W	2間	3.21	1.42~1.71	2間	2.83	1.31~1.54	9.08	総柱	9	楕円形・円形	50~79	46~58	19~46	15~18	人為	須恵器3	SB4B→SB4A→SI46 8世紀後葉4Bの建て替え
4B	D6c2	N－0°	2間	2.69	1.50~1.80	2間	3.24	1.26~1.40	8.59	総柱	9	楕円形・円形	50~66	46~60	23~35	12~21	人為		SB4B→SB4A→SI46 8世紀前葉
5	D5e0	N－7°－W	2間	3.58	1.74~1.87	2間	3.28	1.40~1.99	11.74	総柱	11	楕円形・円形	75~89	60~72	39~62	18	人為	土師器1，須恵器2	8世紀前葉から後葉
6	D6c4	N－6°－W	3間	6.39	1.65~2.37	3間	6.56	1.76~2.59	41.92	総柱	18	隅丸長方形・楕円形	56~88	51~84	40~82	10~23	人為	土師器10，須恵器8	SB6→SI49，SK327 8世紀前葉から後葉
7	D6e4	N－78°－E	2間	4.64	2.22~2.39	1間	2.32	2.25~2.40	10.95	側柱	6	楕円形・円形	57~94	57~83	36~80	14~21	人為	土師器6	8世紀前葉から後葉
8	C6j5	N－9°－W	2間	1.98	0.76~1.14	2間	1.96	0.77~1.17	3.88	総柱	8	楕円形・円形	49~70	47~67	7~23	不明	人為		SB8→SK201，SB3との新旧不明 8世紀
9	D7f1	N－4°－W	3間	6.76	2.12~2.33	2間	4.52	2.06~2.08	30.56	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	48~64	41~59	46~73	13~24	人為	土師器45，須恵器10	SB9→SI58，64 8世紀前葉から中葉
10	C5g5	N－10°－W	2間	3.95	1.50~2.33	2間	4.09	1.62~2.35	16.16	側柱	8	楕円形・円形	33~61	31~52	21~49	11~14	人為	土師器1	SK168との新旧不明 中世以降
12	D5a4	N－3°－W	2間	4.08	1.96~2.15	2間	4.10	1.77~2.30	16.73	側柱	8	楕円形・円形・不定形	34~109	30~89	18~44	14~21	人為	土師器1，須恵器4	SB13→SB12，SK256B SK199，200A，200B，323~325との新旧不明 8世紀前葉から後葉
13	D5b3	N－0°	2間	3.30	1.25~2.06	2間	3.21	1.35~1.70	10.59	総柱	9	楕円形・円形・不定形	64~124	53~98	44~74	10~24	人為	土師器11，須恵器10	SB13→SB12，SK287 SK237との新旧不明 8世紀前葉から後葉
14	D4h7	N－9°－W	2間	4.26	2.09~2.25	2間	4.77	2.35~2.42	(20.32)	側柱	7	隅丸長方形・楕円形	90~121	51~91	47~65	14~20	人為	土師器12，須恵器7	SB14→SI84A SI84Bとの新旧不明 8世紀前葉から後葉
15	D4g5	N－7°－W	2間	4.26	2.11~2.15	2間	4.26	2.04~2.22	(18.15)	側柱	5	隅丸長方形・楕円形	74~118	58~87	57~66	16~24	人為	土師器3，須恵器2	8世紀前葉から後葉
16	D5d3	N－4°－E	2間	3.48	1.70~1.80	2間	3.03	1.45~1.55	10.54	総柱	8	楕円形・円形	42~53	36~52	12~37	20	人為	土師器1，須恵器2	SB16→SI31，35，SB30 8世紀前葉から中葉
17	D5d7	N－7°－W	3間	6.03	1.85~2.25	2間	3.43	1.70~1.90	20.68	側柱	11	楕円形・円形	51~85	42~84	34~75	10~25	人為	土師器33，須恵器37	SB17→SB19 SB18との新旧不明 8世紀後葉
18	D5d7	N－6°－W	3間	5.72	1.75~2.14	2間	4.12	1.90~2.24	23.57	側柱	11	楕円形・円形	50~83	45~71	24~73	12~22	人為	土師器30，須恵器30	SB17，19との新旧不明 8世紀後葉
19	D5e7	N－11°－W	2間	3.99	1.94~2.05	2間	4.03	1.97~2.07	16.08	側柱	16	楕円形・円形	26~70	26~62	26~93	14~19	人為	土師器15，須恵器23	SB17→SB19 SB18との新旧不明 9世紀前葉
20	B5j1	N－6°－W	1間	3.70	3.60~3.80	1間	3.75	3.70~3.80	13.88	側柱	4	楕円形・円形	55~75	50~70	50~65	不明	人為	土師器6，須恵器2	SI5→SB20 SB21，SK67，72，73，75との新旧不明 中世以降
21	C5a2	N－3°－W	2間	3.51	1.60~1.95	2間	4.50	2.25	(15.80)	側柱	6	楕円形・円形	44~55	37~54	38~50	17~27	人為	須恵器1	SI9→SB21 SB20，SK68，69との新旧不明 中世以降
22	D6f2	N－8°－W	4間	7.74	1.80~2.07	2間	4.73	2.27~2.50	36.61	側柱	12	楕円形・円形	47~106	37~65	43~70	13~18	人為	土師器2	SB22→SK337A，337B，339 SB23，SK320との新旧不明 8世紀前葉から中葉
23	D6g2	N－2°－W	3間	5.60	1.84~1.90	2間	4.60	2.10~2.50	25.76	側柱	9	楕円形・円形	52~68	46~62	21~60	9~15	人為	土師器2	SB23→SI47，SK337A，337B，338 SB22との新旧不明 8世紀前葉から中葉
24	D6j7	N－87°－E	3間	5.46	1.74~1.91	2間	3.64	1.50~2.16	19.87	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	71~91	43~78	28~80	14	人為	土師器41，須恵器42，礫4	SB25→SB24 8世紀前葉から後葉
25	D6j7	N－87°－E	3間	5.39	1.43~2.15	2間	3.55	1.57~2.00	19.13	側柱	9	隅丸長方形・楕円形	53~106	44~100	32~76	10~16	人為	土師器77，須恵器43，炭化物1	SB25→SB24 8世紀前葉から後葉
26	D6c6	N－4°－W	3間	6.35	1.75~2.50	2間	4.61	2.15~2.57	29.27	側柱	9	隅丸長方形・楕円形	37~88	34~80	33~88	11~18	人為	土師器2，須恵器7	SB26→SI50，SK138，353 SK344~347，352との新旧不明 8世紀前葉から後葉
27	D5f4	N－4°－W	3間	6.53	2.03~2.35	2間	4.14	1.89~2.27	27.03	側柱	10	楕円形・円形	58~89	55~79	32~48	17	人為	土師器9，須恵器5	SB27→SI35，36 SB29，SK248，252Bとの新旧不明 8世紀前葉から中葉
28	D6c0	不明	1間	2.20	－	1間	2.60	－	不明	[側柱]	3	楕円形・円形	70~82	55~64	60~94	21~24	人為	土師器29，須恵器14	SK386，387A，387Bとの新旧不明 8世紀中葉
29	D5f4	N－3°－W	2間	3.75	1.50~2.50	2間	3.78	1.65~2.02	14.18	総柱	13	楕円形・円形・不定形	50~115	45~81	16~73	14~21	人為	土師器22，須恵器25，鉄製品1（刀子）	SB29→SI36 SB27，SK248との新旧不明 8世紀前葉から中葉
30	D5d3	N－3°－W	2間	4.18	1.80~2.50	2間	3.90	1.75~2.15	16.30	総柱	9	楕円形・円形	52~110	44~86	27~87	16~30	人為	土師器15，須恵器9	SB16→SB30→SI31，35 SK230，234との新旧不明 8世紀前葉から中葉

表11　堀一覧表

堀番号	中心位置	主軸方向	規模 長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新）時代、その他
1	C7u, C7p, D7u2, D7u2, D7u2, D7u, D7u, D7p5, D7u3, D7u, D7p	N－5°－W	(44.80) 土壌部分 3.30	1.24 ～ 1.80	0.75 ～ 1.25	0.67 ～ 0.78	外傾	箱薬研	人為	土師器1538, 須恵器1561(高台付不・蓋)[1点図], 土錘器1, (不明土錘品), 石器4 (砥石, 有光石), 鉄釘1, 電1点, 自然遺物2 (油モモの種子)	S213→SD87 8世紀後葉～後葉（堀道）門柱のような土坑3基を伴う

表12　堀に伴う土坑一覧表

堀に伴う土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）時代、その他
407	D 7 u3	－	円形	0.27 × 0.27	26	外傾	皿状	人為		堀の門柱として機能か? 8世紀前葉～後葉
408	D 7 t3	－	円形	0.26 × 0.26	21	外傾	凹凸	人為		堀の門柱として機能か? 8世紀前葉～後葉
409	D 7 t3	N－0°	楕円形	0.48 × 0.43	26	外傾	皿状	人為		堀の門柱として機能か? 8世紀前葉～後葉

表13　溝一覧表

溝番号	中心位置	主軸方向	規模 長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）時代、その他
1	B4i9, B4j9, C4i9, C4c9, C4e9, C4e9	N－2°－E	(22.20)	0.26～0.60	0.17～0.34	0.04～0.12	緩斜	U字状	自然	土師器10, 須恵器11	SI2, SI3→SD1→SK1 中・近世の区画溝
2	B4i6, B5i1	N－84°－W	[5.53]	0.35～0.54	0.14～0.29	0.20	緩斜	U字状	自然		SI5→SD2 中・近世の区画溝
7	C6a3, C6a4, C6b4 C6c4, C6d4	N－55°－W N－10°－W N－0°	(14.90)	0.56～0.82	0.21～0.61	0.10～0.12	緩斜	U字状	自然		SI24→SD7 中・近世の区画溝
8	D4h1, D4h2, D4h3	N－90°	7.68	0.36～0.60	0.13～0.21	0.15～0.20	緩斜	U字状	不明		中・近世の区画溝

表14　陥し穴一覧表（3基）（第16図～第18図）◎は本文中に文章で記載してあります。

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）時代、その他
◎ 84	C 5 h3	N－64°－E	楕円形	2.26 × 1.38	92	垂直・崩壊	平坦	自然・人為		縄文時代の陥し穴
◎278	D 5 e9	N－10°－W	楕円形	2.10 × 1.40	95	垂直・崩壊	平坦	自然		縄文時代の陥し穴
◎400	C 6 a0	N－0°	楕円形	1.62 × 1.24	64	垂直	平坦	人為		縄文時代の陥し穴

表15　柱穴（柵列）のような土坑一覧表（51基）（第236図～第246図）◎は本文中に文章で記載してあります。

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）、時代、その他
◎186	C 5 j5	N－20°－E	円形	1.04 × 0.98	42	外傾	平坦	人為		8世紀前葉～後葉　A群
◎187	C 5 j4	N－0°	円形	0.72 × 0.70	41	緩斜	平坦	人為		8世紀前葉～後葉　A群
◎188	C 5 j4	N－10°－W	楕円形	1.14 × 0.84	57	外傾	皿状	人為	土師器1	8世紀前葉～後葉　A群
◎189	C 5 j4	N－22°－W	楕円形	0.66 × 0.54	52	外傾	平坦	人為	土師器1	8世紀前葉～後葉　A群
◎190	C 5 j5	－	円形	0.50 × 0.50	57	緩斜	皿状	人為		8世紀前葉～後葉　A群
◎191	C 5 j5	N－37°－W	楕円形	0.64 × 0.46	47	外傾	平坦	人為		8世紀前葉～後葉　B群
◎192	D 5 a5	N－0°	円形	0.44 × 0.40	30	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉　B群

○193	D5a5	N−15°−W	楕円形	0.42 × 0.36	45	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 C群
○194	D5a5	−	円形	0.38 × 0.38	40	外傾	皿状	人為	須恵器3	8世紀前葉～後葉 B群
○195	D5a5	N−15°−W	楕円形	0.46 × 0.40	52	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 C群
○196	D5a5	−	円形	0.46 × 0.46	47	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 C群
○199	D5a4	N− 0°	円形	0.52 × 0.48	64	外傾	皿状	人為		SB12, SK200Bとの新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 D群
○200A	D5a4	N−50°−W	[不整楕円形]	0.85 × (0.54)	28	外傾	平坦	人為	土師器8, 須恵器10	SK200A→SK200B SB12との新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 D群
○200B	D5a4	−	不定形	1.14 × 1.14	65	外傾	皿状	人為		SK200A→SK200B SB12, SK199との新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 E群
○216	C5j4	N−27°−E	楕円形	0.42 × 0.38	28	緩斜	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 A群
○217	D5b6	N− 6°−W	楕円形	0.54 × 0.40	16	緩斜	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 F群
○218	D5b5	N− 4°−E	楕円形	0.38 × 0.30	27	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 F群
219	D5b5	N− 0°	円形	0.50 × 0.48	46	外傾	平坦	人為		8世紀
○220	D5e5	N−14°−E	楕円形	0.40 × 0.28	15	緩斜	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 F群
222	D5c3	N−41°−E	楕円形	0.56 × 0.50	41	外傾	皿状	人為	土師器3	8世紀
○223	D5c3	N− 0°	楕円形	0.56 × 0.50	33	外傾	平坦	人為		8世紀前葉～後葉 G群
224	D5c3	N−62°−W	楕円形	0.70 × 0.55	43	外傾	平坦	人為	土師器3	8世紀
○225	D5c4	N− 0°	楕円形	0.74 × 0.62	26	外傾	皿状	人為	土師器1, 須恵器1	SK225→SI31 8世紀前葉～後葉 H群
○228	D5c4	−	円形	0.42 × 0.42	33	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 H群
○229	D5d4	N−41°−W	楕円形	0.64 × 0.56	54	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 H群
○231	D5d4	N−30°−E	楕円形	0.60 × 0.53	36	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 H群
○232	D5d4	N−60°−W	楕円形	0.50 × 0.41	32	外傾	皿状	人為		8世紀前葉～後葉 H群
○234	D5d4	−	円形	0.56 × 0.56	34	外傾	皿状	人為	須恵器2(椀P594)	SB30との新旧関係不明 8世紀前葉～中葉
○238	D5b2	N−30°−E	楕円形	0.66 × 0.52	30	外傾	平坦	人為		8世紀前葉～後葉 G群
○239	D5b2	N−15°−W	楕円形	0.55 × 0.41	20	外傾	平坦	人為		8世紀前葉～後葉 G群
○252A	D6g3	N−57°−W	楕円形	0.57 × 0.48	27	緩斜	平坦	人為	土師器3, 須恵器3 (坏P595)	SK252Bとの新旧関係不明 8世紀後葉
○252B	D5f3	N−55°−E	円形	0.65 × 0.63	62	外傾	皿状	不明	土師器3, 須恵器8	SB27, SK252Aとの新旧関係不明 8世紀
○256A	D5b4	N−29°−E	不整方形	0.85 × (0.32)	72	外傾	皿状	人為	土師器6, 須恵器14	SK256Bとの新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 D群
○256B	D5b4	N−10°−E	不定形	(0.64) × 0.61	62	外傾	皿状	不明		SK256B→SB12, SK256Aとの新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 E群
272	D5d0	N− 0°	円形	0.42 × 0.39	25	緩斜	皿状	人為		
273	D5e9	N−40°−E	楕円形	0.36 × 0.31	46	外傾	皿状	人為		
279	C5i7	N−11°−E	円形	0.52 × 0.47	61	垂直	皿状	人為		
280	C5i7	N−90°	楕円形	0.40 × 0.35	48	垂直	皿状	人為	土師器2	
281	C5h8	N− 0°	楕円形	0.51 × 0.40	44	垂直	皿状	人為	土師器1, 須恵器1	
282	C5i8	N− 0°	不整楕円形	0.73 × 0.48	67	垂直	凹凸	人為	土師器4, 須恵器4	
283	C5i8	N−48°−E	不整楕円形	0.93 × 0.70	82	外傾	皿状	人為	土師器1	
284	C5i8	N−42°−W	[円形]	0.45 × (0.41)	56	外傾	皿状	人為	土師器1, 須恵器3	
285	C5i8	N−35°−E	楕円形	0.67 × 0.60	65	垂直	凹凸	人為	須恵器1	
288	D5e3	N−50°−W	円形	0.61 × 0.58	49	外傾	平坦	人為		SI31→SK288
○323	D5a4	N−70°−E	楕円形	0.48 × 0.35	20	外傾	皿状	不明	土師器2, 須恵器7	SB12との新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 E群
○324	D5b4	N−17°−E	楕円形	0.52 × 0.40	40	外傾	皿状	不明		SB12との新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 E群
○325	D5b4	N−25°−E	楕円形	0.43 × 0.33	20	外傾	皿状	不明	須恵器1	SB12との新旧関係不明 8世紀前葉～後葉 D群
333	D6g3	N−40°−W	楕円形	0.50 × 0.42	45	外傾	皿状	人為		
379	C6i0	N−78°−W	不整楕円形	0.98 × 0.60	67	外傾	皿状	人為	土師器2	
○384	D7d1	−	円形	0.95 × 0.95	93	外傾	皿状	人為	土師器18, 須恵器14 (坏P604・墨書[度], 鉢P605)	8世紀後葉
390	D6d0	N−48°−W	円形	0.77 × 0.71	40	緩斜	皿状	人為		

表16　奈良・平安時代の土坑一覧表（19基）（第247図～第265図）◎は本文中に文章で記載してあります。

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)，時代,その他
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
◎2	B4j0	N－88°－W	［楕円形］	(1.20) × (0.26)	(26)	緩斜	平坦	自然		SK2→SI5 9世紀前葉以前
◎11	B4i7	N－45°－E	楕円形	1.02 × 0.90	10	緩斜	平坦	人為	須恵器1（蓋P585）	8世紀中葉
◎90	B5i4	N－10°－E	不整楕円形	1.34 × 0.90	15	外傾	平坦	自然	須恵器2，平瓦1（T13）	8世紀～9世紀
◎138	D6b7	N－50°－E	円形	1.36 × 1.25	79	外傾	平坦	人為	土師器25（高台付坏P587），須恵器31（鉢TP39），石1（雲母片岩）	SB6→SI39→SK138 9世紀前葉 SK34との新旧不明
◎139	D6c7	N－40°－W	楕円形	0.65 × 0.52	54	外傾	皿状	人為	土師器9（坏P589），須恵器6	SI51→SK139 9世紀中葉
◎156	C5c4	N－0°	円形	0.96 × 0.94	29	外傾	凹凸	人為	須恵器4（甒P592）	9世紀
◎163	C5d5	N－0°	楕円形	1.18 × 1.06	34	外傾	平坦	人為	土師器4，須恵器6（高台付坏P593）	9世紀前葉
◎170	B5j1	N－0°	楕円形	0.64 × 0.58	28	外傾	平坦	自然	土師器8	SK170→SI5 9世紀前葉
◎275	D5c8	N－14°－W	楕円形	1.44 × 1.02	18	緩斜	平坦	人為	土師器44，須恵器22（坏P596，蓋P598，平瓶P597）	8世紀中葉
◎294	D5c3	－	円形	0.65 × 0.65	37	外傾	皿状	不明		SK294→SI31 8世紀中葉以前
◎295	D5c3	N－34°－W	楕円形	1.14 × 1.08	20	緩斜	凹凸	不明		SK295→SI31 8世紀中葉以前
◎298	C6b3	－	円形	0.70 × 0.70	38	外傾	平坦	人為	土師器8，須恵器3，灰釉陶器1（皿・井ヶ谷78号窯式）	9世紀前葉～中葉
◎309	C6e5	N－55°－W	円形	0.93 × 0.91	23	緩斜	平坦	人為	土師器14，須恵器36（坏P600）	9世紀前葉
◎328	D6c5	N－0°	円形	1.28 × 1.22	75	外傾	平坦	人為	土師器68（坏P601），須恵器49	9世紀中葉～後葉
◎353	D6b7	N－0°	円形	1.25 × 1.21	53	緩斜	平坦	人為	土師器8，須恵器17	SB26→SK353→SI50 9世紀前葉
◎378	C7i1	N－40°－E	楕円形	0.49 × 0.40	48	外傾	皿状	人為	土師器3，須恵器8（坏P602）	8世紀後葉
◎382	C6i0	－	円形	0.49 × 0.49	24	外傾	皿状	人為	土師器4（坏P603）	8世紀前葉
◎386	D7c1	N－51°－W	［不整楕円形］	1.30 × (0.77)	20	緩斜	平坦	人為	土師器16，須恵器21（蓋P606）	8世紀中葉
◎394	B7j3	N－90°	楕円形	1.14 × 1.03	13	緩斜	平坦	人為	灰釉陶器1（長頸瓶P609・黒笹14号窯式）	9世紀中葉

表17　方形土坑一覧表（39基）（第272図～第275図）

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)，時代,その他
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
46	D6b6	N－5°－E	長方形	3.06 × 0.50	40	垂直	平坦	人為	土師器20，須恵器19	SI48→SK46 中・近世の竪穴
47	D6a6	N－10°－E	長方形	3.29 × 0.51	58	垂直	平坦	人為	土師器32，須恵器17	SI48，SB3→SK47 中・近世の竪穴
121	D6d0	N－77°－W	長方形	1.20 × 0.70	20	垂直	平坦	人為		SI71→SK121 中・近世
122	D7d1	N－5°－W	方形	0.95 × 0.86	40	垂直	平坦	人為	土師器8，須恵器12	SI71→SK122 中・近世
123	C7h3	N－77°－W	長方形	0.97 × 0.70	30	垂直	平坦	人為	土師器11	SI74→SK123 中・近世
128	D6i0	N－74°－W	長方形	1.01 × 0.88	50	垂直	平坦	人為	土師器5，須恵器4	SI65→SK128 中・近世
129	D7i1	N－79°－W	長方形	1.14 × 0.91	41	垂直	平坦	人為		SK133→134→SK129 中・近世
131	D6i0	N－82°－W	長方形	0.98 × 0.75	48	垂直	平坦	人為	土師器9	SI65→SK132→SK131 中・近世
132	D6i0	N－80°－W	長方形	0.95 × (0.73)	36	垂直	平坦	人為		SI65→SK132→SK131 中・近世
133	D7i1	N－79°－W	長方形	1.30 × 0.66	57	垂直	平坦	人為	土師器27	SK134→SK133→SK129 中・近世
134	D7i1	N－17°－E	方形	1.19 × 1.15	27	垂直	平坦	人為	土師器9	SK134→SK133→SK129 SK130との新旧関係不明 中・近世
145	D7i3	N－5°－E	長方形	1.21 × 1.00	43	垂直	平坦	人為	土師器23，須恵器20	SI66，67→SK145 中・近世
165	C5f3	N－78°－E	長方形	1.12 × 0.80	24	外傾	平坦	人為		中・近世
167	C5f4	N－84°－W	長方形	2.34 × 0.70	34	垂直	平坦	人為	土師器8，須恵器3	中・近世
168	C5f5	N－89°－W	長方形	0.86 × 0.64	30	垂直	平坦	人為	土師器3	SB10との新旧関係不明 中・近世
169	C5f6	N－90°	長方形	1.20 × 0.86	30	垂直	平坦	人為	土師器2	中・近世
201	C6j5	N－10°－E	長方形	1.53 × 1.20	50	垂直	平坦	人為	土師器23，鉄製品1（不明鉄製品）	SB3，8→SK201 中・近世
203	D3f9	N－0°	長方形	1.15 × 0.75	50	垂直	平坦	人為		中・近世
207	D4f2	N－5°－W	長方形	1.20 × 0.86	32	垂直	平坦	人為		中・近世
209	D4j1	N－90°	［長方形］	1.90 × (1.00)	47	垂直	平坦	不明	土師器4，鉄製品1（手鎌）	中・近世
210	D4i2	N－82°－E	長方形	0.96 × 0.85	36	垂直	平坦	人為		中・近世

213A	D4j4	N－90°	［長方形］	(0.94) × (0.60)	55	垂直	平坦	人為	土師器9，須恵器2		SK213A→SK213B 中・近世
213B	D4j4	N－90°	［長方形］	1.80 × (0.70)	83	垂直	平坦	人為			SK213A→SK213B 中・近世
215A	D4j5	N－90°	［長方形］	[2.31] × (0.60)	18	垂直	平坦	人為			SK215A→SK215B→SK215C 中・近世
215B	D4j5	N－90°	［長方形］	3.00 × (0.60)	75	垂直	平坦	人為			SK215A→SK215B→SK215C 中・近世
267	D5g9	N－0°	隅丸長方形	1.95 × 1.29	70	垂直	凹凸	人為	土師器13，須恵器8		中・近世
271	D5e9	N－84°－W	長方形	1.19 × 0.83	47	垂直	平坦	人為			中・近世
292	C6f2	N－82°－W	長方形	1.33 × 0.82	19	垂直	平坦	人為	土師器5，須恵器3		中・近世
313	C6f3	N－85°－E	長方形	1.38 × 0.86	49	外傾	平坦	人為	土師器7，須恵器3		SK313→SK312 中・近世
329	D6e3	N－78°－W	長方形	1.07 × 0.88	46	垂直	平坦	人為	土師器3		中・近世
330	D6g4	N－75°－W	楕円形	1.28 × 0.80	60	垂直	平坦	人為	土師器14，須恵器13		中・近世
331	D6g4	N－73°－W	不整楕円形	1.15 × 0.85	49	垂直	平坦	人為	土師器9，須恵器6		中・近世
332	D6g3	N－81°－W	長方形	1.23 × 1.03	42	垂直	平坦	人為	土師器17，須恵器9		中・近世
334	D6g3	N－5°－E	楕円形	1.51 × 1.37	77	外傾	平坦	人為	土師器9，須恵器5，鉄製品1(釘)		中・近世
335	D6h4	N－85°－W	長方形	1.18 × 1.00	60	垂直	平坦	人為	土師器4，須恵器2		中・近世
336	D6h5	N－90°	隅丸方形	1.30 × 1.11	65	垂直	平坦	人為	土師器5		中・近世
338	D6h2	N－80°－E	隅丸長方形	0.99 × 0.73	20	外傾	平坦	人為			中・近世
339	D6h2	N－86°－W	長方形	0.96 × 0.86	56	外傾	平坦	人為	土師器7，須恵器1		中・近世
340	D6g5	N－0°	長方形	1.15 × 0.67	20	垂直	平坦	人為	土師器2，須恵器4		中・近世

表18　その他の土坑一覧表（229基）（第276図～第286図）

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)，時代，その他
1	C4c9	N－90°	［長方形］	(1.50) × (0.36)	23	緩斜	皿状	人為	土師器2	SI2→SD1→SK1
4	C6j4	N－80°－W	楕円形	1.29 × 0.80	26	緩斜	皿状	人為		SB3→SK4
5	C5g6	N－14°－E	円形	1.30 × 1.20	30	外傾	平坦	人為	土師器7，須恵器8	SI15→SK5
6	C4e8	N－58°－W	不定形	0.45 × 0.37	21	外傾	皿状	不明	土師器2，須恵器2	
10	B4i7	N－15°－W	円形	0.50 × 0.46	15	外傾	凹凸	自然	土師器1	
12	B4j7	N－0°	円形	0.99 × 0.94	22	外傾	平坦	自然		
13	B4j7	－	円形	0.51 × 0.51	20	外傾	平坦	自然		
14	B4j8	N－0°	円形	0.60 × 0.55	25	緩斜	凹凸	自然		
15	B4i9	N－40°－W	楕円形	0.60 × 0.35	20	緩斜	凹凸	自然		
16	C4a9	N－55°－E	不定形	0.58 × 0.42	52	外傾	凹凸	自然		
17	C4b8	N－22°－W	円形	0.46 × 0.47	20	外傾	皿状	自然		
18	C4c8	N－21°－E	楕円形	0.61 × 0.50	24	外傾	凹凸	自然		
19	C4c8	N－0°	円形	0.98 × 0.90	31	外傾	平坦	人為		
20	C4c8	N－10°－W	楕円形	0.58 × 0.68	30	外傾	凹凸	人為	須恵器1	
21	C4a8	N－21°－E	円形	0.47 × 0.53	26	外傾	皿状	人為		
22	C4c7	－	円形	0.56 × 0.56	21	外傾	皿状	人為		
25	C4a7	N－8°－E	方形	0.77 × 0.74	14	外傾	平坦	自然		
26	C4i7	N－4°－E	楕円形	0.54 × 0.42	14	緩斜	皿状	自然		
27	C4d9	N－0°	楕円形	0.82 × 0.76	14	緩斜	平坦	人為	土師器1	
28	C4d0	N－32°－E	楕円形	1.22 × 0.76	21	緩斜	皿状	自然		
29	C4d0	N－43°－W	円形	0.87 × 0.80	58	垂直－緩斜	皿状	人為		
30	C4d0	N－30°－W	不定形	1.15 × 0.82	17～28	緩斜－外傾	皿状	不明	土師器2，須恵器4	
31	C5d1	N－0°	円形	0.63 × 0.55	23	外傾	凹凸	人為	土師器2	
32	C4c9	N－31°－E	円形	0.57 × 0.52	24	緩斜	皿状	人為	土師器2	
33	C4c0	N－83°－E	楕円形	0.47 × 0.41	19	外傾	皿状	人為		

34	C4e0	−	円　形	0.81 × 0.81	46	外横	平坦	入為	土師器5，須恵器4	
35	C4e0	N−90°	円　形	0.45 × 0.40	24	緩斜	皿状	入為	土師器1	
36	C4e0	N−15°−W	楕円形	0.92 × 0.77	51	緩斜	皿状	入為	土師器3，須恵器5	
37	C5e1	N−27°−E	楕円形	0.47 × 0.44	30	外横	平坦	自然		
38	C5e1	N−21°−E	円　形	0.77 × 0.64	18	緩斜	皿状	自然	土師器1，須恵器1	
39	C5e2	N−48°−E	楕円形	0.90 × 0.72	50	外横	凹凸	入為	土師器1	SK39→SK118A，118C
40	C5e1	N−30°−E	不定形	1.15 × 0.73	47	緩斜	凹凸	不明		SK40→SK120
41	C4e0	N−69°−W	不定形	0.85 × 0.76	24	外横	凹凸	自然	土師器1，須恵器2	
42	C5e1	N−44°−W	円　形	1.10 × 0.98	30	緩斜	平坦	入為	土師器3，須恵器1	
43	C5f1	N−82°−W	円　形	1.02 × 0.91	57	外横	凹凸	入為	土師器1，須恵器2	
44	C5f1	N−38°−E	楕円形	0.93 × 0.73	30	外横	皿状	入為		
45	C5e1	N−10°−W	楕円形	0.87 × 0.78	33	緩斜	皿状	入為	土師器3，須恵器3	
48	C5e2	N−34°−W	不定形	1.48 × 0.85	26～48	外横	皿状	自然	土師器4，須恵器9	
49	C5d2	N−70°−W	楕円形	1.00 × 0.58	30	緩斜	皿状	入為	土師器1	
50	C5d2	N−38°−W	不定形	1.06 × 0.77	55	外横	皿状	入為	土師器3，須恵器6	
51	C5e2	N−0°	円　形	0.51 × 0.48	12	緩斜	平坦	自然	土師器1	
52	C5e2	N−40°−W	円　形	0.88 × 0.80	17	緩斜	平坦	入為	土師器2，須恵器2	
53	C5d3	N−0°	円　形	0.71 × 0.69	17	緩斜	皿状	入為		
54	C5d2	N−58°−W	楕円形	0.69 × 0.58	37	外横	凹状	自然		
55	C5e2	N−29°−E	円　形	0.87 × 0.82	20	外横	凹凸	入為	土師器1，須恵器2	
56	C5e3	N−50°−W	円　形	0.56 × 0.50	16	外横	凹凸	入為	土師器1，須恵器1	
57	C5e3	N−43°−E	楕円形	0.64 × 0.58	25	垂直	凹凸	入為		
58	C7e2	N−19°−E	［楕円形］	1.38 ×(0.72)	37	外横	凹凸	入為	須恵器2	SI81→SK58
59	C4e0	N−58°−E	楕円形	0.72 × 0.60	21	緩斜	平坦	入為		
60	B4j0	N−0°	円　形	0.56 × 0.50	18	外横	平坦	入為		
61	C4e0	N−90°	楕円形	0.60 × 0.50	30	外横	皿状	入為		
62	C5e1	N−40°−E	楕円形	1.20 × 0.70	30	外横	凹凸	入為	土師器2，須恵器5	
63	C5e1	N−23°−W	不定形	1.68 × 0.72	32～37	外横	凹凸	不明	土師器1，須恵器12	
64	C5e1	N−41°−W	円　形	0.68 × 0.63	25	外横	皿状	入為		
65	C5e1	N−47°−W	楕円形	0.74 × 0.60	26	外横	凹凸	入為	土師器2，須恵器4	
67	C5e1	N−21°−E	楕円形	1.20 × 0.86	28	緩斜	皿状	入為		SI20との新旧関係不明
68	C5e2	N−60°−W	不整円形	0.54 × 0.54	20	外横	皿状	自然	土師器1，須恵器1	SB21との新旧関係不明
69	C5e2	N−0°	楕円形	0.58 × 0.50	26	外横	凹凸	入為	須恵器5	SB21との新旧関係不明
71	B4j0	N−36°−E	不定形	0.86 × 0.56	28	外横	凹凸	入為	土師器2，須恵器3	
72	B5j1	N−0°	不定形	0.84 × 0.80	20	外横	平坦	入為	須恵器6	SK72→SB20
73	B5j1	N−45°−W	楕円形	1.00 × 0.67	58	外横	凹凸	入為	須恵器7	SK73→SB20
75	B5j2	N−86°−E	楕円形	0.70 × 0.60	33	外横	凹凸	入為	土師器2，須恵器4	SK75→SB20
76	B5i2	N−45°−W	円　形	0.82 × 0.76	30	外横	平坦	自然	須恵器5	
80	B5i1	N−21°−W	不整楕円形	0.90 × 0.56	48	外横	凹凸	入為		
81	B5i2	N−42°−E	不整楕円形	0.82 × 0.56	22	外横	平坦	入為		
82	B5i2	N−90°	楕円形	0.82 × 0.76	18	外横	凹凸	入為	土師器1	
83	C5a2	N−60°−E	円　形	0.75 × 0.72	16	緩斜	凹凸	入為	土師器5，須恵器3	SK83→SB21
85	C5a3	−	円　形	0.75 × 0.75	23	緩斜	皿状	入為		
86	C5a3	N−37°−E	［楕円形］	0.91 ×(0.61)	27	緩斜	皿状	入為	土師器4	
87	C5a3	N−52°−W	［楕円形］	(1.50) × 0.88	28	緩斜	凹凸	入為		
88	B5j3	N−23°−W	楕円形	0.64 × 0.54	37	外横	皿状	入為	土師器3，須恵器4	
89	B5i3	N−38°−E	楕円形	0.72 × 0.54	36	外横	皿状	入為		
91	B5j4	N−0°	不整楕円形	1.19 × 0.68	22	緩斜	凹凸	入為	土師器7	

92	B5i4	N－15°－E	楕円形	0.90 × 0.70	20	外傾	平坦	自然	土師器1		
93	B5i5	N－0°	楕円形	1.08 × 0.92	33	外傾	平坦	自然			
94	B5j5	N－56°－E	楕円形	0.72 × 0.62	33	外傾	凹凸	人為			
95	B5j5	N－67°－W	不定形	1.00 × 0.92	37	外傾	凹凸	人為			
96	B5j5	N－38°－E	楕円形	1.02 × 0.76	47	外傾	皿状	人為			
97	B5j5	N－36°－E	楕円形	0.60 × 0.45	27	外傾	皿状	人為			
98	B5j6	N－65°－E	楕円形	1.21 × 1.00	60	垂直	平坦	人為			
99	B5j5	N－20°－E	円形	0.75 × 0.70	19	緩斜	皿状	人為			
100	C5a5	N－3°－W	不定形	1.35 × 1.17	39	緩斜	凹凸	人為			SK101→SK100
101	C5a5	N－4°－W	不定形	1.35 × 1.03	24	緩斜	凹凸	人為			SK101→SK100
102	C5a5	N－5°－E	楕円形	0.97 × 0.80	13	緩斜	皿状	人為			
103	C5a5	N－72°－W	不定形	1.82 × 1.04	32	緩斜	皿状	自然	土師器3，須恵器2		
104	C5a5	N－63°－W	楕円形	1.20 × 0.80	16	緩斜	皿状	自然	土師器9		
105	C5b5	N－30°－E	円形	0.70 × 0.68	16	緩斜	凹凸	人為	土師器5		
106	C5b6	N－73°－W	不定形	1.10 × 0.74	69	緩斜	凹凸	自然	土師器4		
107	C5b6	N－71°－W	円形	1.15 × 1.06	17	緩斜	平坦	人為			
108	C5b6	N－88°－E	［円形］	1.09 ×(0.55)	43	緩斜	凹凸	自然			
109	C5b6	N－60°－E	不定形	1.05 × 0.86	23	緩斜	皿状	人為			
117	C5a4	N－45°－W	楕円形	1.12 × 0.95	21	緩斜	凹凸	人為			
118	C5c1	N－53°－E	楕円形	1.22 × 0.70	35	緩斜	平坦	不明			
118B	C5c2	N－40°－W	楕円形	0.51 × 0.42	13	緩斜	皿状	不明			
118C	C5c2	N－46°－W	不定形	(0.82) ×(0.58)	8	緩斜	皿状	不明			
119	C5c2	N－52°－E	楕円形	0.76 × 0.53	18	緩斜	平坦	人為			
120	C5c1	N－58°－W	不定形	0.91 × 0.70	42	緩斜	凹凸	不明			SK40→SK120
130	D7i1	N－0°	楕円形	0.58 × 0.50	14	外傾	凹凸	人為			SK134との新旧関係不明
135	D6i9	N－0°	［楕円形］	1.69 ×(1.05)	23	外傾	凹凸	人為	土師器13		SI58→SK135
146	C5d1	N－90°	楕円形	0.82 × 0.65	20	緩斜	平坦	自然			
147	C5d1	－	円形	0.57 × 0.57	13	緩斜	凹凸	自然			
148	C5c1	－	円形	0.42 × 0.42	20	外傾	皿状	人為			
149	C5d1	－	円形	0.41 × 0.41	17	外傾	平坦	自然			
150	C5e1	N－90°	楕円形	0.53 × 0.44	15	外傾	皿状	自然			
151	C5d2	N－0°	楕円形	0.64 × 0.50	39	外傾	皿状	人為			
152	C5d4	N－33°－E	楕円形	0.80 × 0.68	19	緩斜	皿状	自然			
153	C5d4	N－33°－E	楕円形	0.59 × 0.53	34	外傾	凹凸	人為			
154	C5c4	N－0°	円形	0.49 × 0.48	26	外傾	皿状	人為	土師器2		
155	C5d4	N－38°－E	楕円形	0.78 × 0.68	36	外傾	凹凸	人為	土師器1		
157	C5c5	N－0°	楕円形	0.61 × 0.55	17	緩斜	凹凸	人為			
158	C5d5	N－0°	円形	0.61 × 0.58	12	外傾	平坦	自然	土師器2		
159	C5d5	N－47°－W	楕円形	0.62 × 0.55	18	外傾	平坦	人為			
160	C5c5	N－0°	円形	0.42 × 0.40	14	緩斜	皿状	自然			
161	C5d7	N－15°－W	楕円形	0.64 × 0.56	17～31	外傾	皿状	人為			
162	C5c7	N－0°	円形	0.52 × 0.50	25	外傾	皿状	自然	土師器2，須恵器1		
164	C5e3	N－35°－E	楕円形	0.48 × 0.40	18	外傾	皿状	人為			
166	C5f3	N－90°	円形	0.45 × 0.41	29	外傾	皿状	自然			
173	B5i2	N－18°－E	楕円形	0.46 × 0.36	30	外傾	皿状	自然			
174	B5i2	－	円形	0.44 × 0.44	33	外傾	皿状	自然	土師器3		
175	B5i2	N－0°	楕円形	0.88 × 0.62	44	外傾	平坦	人為	土師器5		
176	B5i3	－	円形	0.48 × 0.48	26	外傾	平坦	人為			

177	B5i3	N－21°－E	楕円形	0.40 × 0.30	25	外堤	皿状	自然		
178	B5i3	N－14°－E	楕円形	0.88 × 0.60	20	外堤	平坦	人為	土師器5	
179	B5i3	N－26°－E	楕円形	0.40 × 0.34	20	外堤	平坦	自然	土師器2	
180	B5j3	N－11°－E	楕円形	0.82 × 0.56	29	外堤	平坦	人為	土師器4	
181	B5j3	N－0°	円形	0.39 × 0.38	22	外堤	平坦	自然		
183	C5c2	N－0°	円形	0.44 × 0.43	11	外堤	平坦	自然	土師器1	
185	C5e3	N－61°－E	楕円形	0.82 × 0.60	36	外堤	皿状	自然	土師器2，須恵器1	
197	D5a6	N－0°	円形	0.40 × 0.38	33	外堤	平坦	人為		
198	D5a6	N－21°－E	円形	0.41 × 0.38	25	外堤	平坦	人為		
202	D3f9	N－0°	円形	0.65 × 0.60	29	外堤	皿状	人為		
204	D3g9	N－90°	円形	0.77 × 0.74	50	外堤	平坦	人為		
205	D3h9	N－0°	楕円形	1.05 × 0.83	22	緩斜	皿状	人為	土師器4	
206A	D3f0	N－0°	隅丸長方形	0.76 × 0.61	13	緩斜	平坦	人為		SK206B→SK206A
206B	D3f0	N－0°	[隅丸長方形]	0.90 ×(0.80)	25	緩斜	平坦	人為		SK206B→SK206A
208	D4i2	N－5°－W	楕円形	1.80 × 1.40	76	外堤	凹凸	人為		
211	D4i6	N－90°	楕円形	0.84 × 0.74	28	緩斜	皿状	自然		
212	D4i4	－	円形	0.64 × 0.64	23	外堤	平坦	自然		
214	D4i4	N－31°－W	不整楕円形	0.88 × 0.78	55	垂直	平坦	不明	土師器8，須恵器2	
215C	D4j5	－	円形	(0.38) ×(0.38)	53	垂直	皿状	不明		SK215A→SK215B→SK215C
221	D5h4	N－65°－W	楕円形	0.50 × 0.34	24	緩斜	皿状	自然		
226	D5c5	N－56°－E	円形	0.46 × 0.40	27	緩斜	皿状	人為		
227	D5c4	N－43°－E	楕円形	0.48 × 0.40	34	外堤	凹凸	人為	土師器1	
230	D5d4	N－0°	楕円形	0.40 × 0.36	24	外堤	皿状	人為		
237	D5b3	N－0°	楕円形	0.70 × 0.54	24	外堤	皿状	人為		SB13との新旧関係不明
242	D5e3	－	円形	1.00 × 1.00	16	緩斜	皿状	人為	土師器3，炭化材多量出土	SI35→SK242
243	D5e4	N－50°－E	楕円形	0.74 × 0.65	42	垂直	皿状	人為	土師器4，須恵器2	SI35→SK243
248	D5f4	N－90°	楕円形	0.42 × 0.34	17	垂直	皿状	人為		
259	D5e6	N－54°－E	楕円形	1.64 × 0.82	54	外堤	平坦	自然		
264	D5g5	N－53°－W	円形	1.56 × 1.48	62	緩斜	皿状	人為	土師器3，須恵器3	
265	D5c7	N－39°－E	楕円形	0.56 × 0.44	32	外堤	凹凸	人為		
266	D5g9	N－64°－W	不定形	1.96 × 1.04	78	外堤	凹凸	人為	土師器27，須恵器30	
268	D5g0	N－73°－W	円形	1.14 × 1.10	48	外堤	平坦	人為	土師器14，須恵器8	
269	D5f0	N－37°－E	楕円形	0.71 × 0.59	42	緩斜	皿状	自然		
270	D5e9	N－0°	楕円形	0.61 × 0.56	40	外堤	皿状	人為		
274	D5c9	N－9°－W	不整楕円形	1.32 × 0.92	27	緩斜	平坦	人為	土師器3	
286	C5b8	N－36°－W	円形	0.86 × 0.85	43	外堤	凹凸	人為	土師器5，須恵器3	
287	D5b3	N－0°	楕円形	0.75 × 0.68	18	緩斜	皿状	自然	土師器8	SB13→SK287
289	C5g0	N－0°	円形	0.77 × 0.72	30	外堤	平坦	人為	土師器3	
290	C5f0	N－0°	円形	0.44 × 0.38	39	外堤	皿状	人為		
293	C6c2	N－45°－W	楕円形	1.35 × 1.25	23	緩斜	皿状	人為	土師器3，須恵器4	
297	C6a1	N－57°－E	円形	0.90 × 0.82	24	外堤	平坦	人為	土師器1	
299	C6a4	N－0°	円形	0.75 × 0.73	42	外堤	平坦	人為		
300	C6a4	N－83°－W	長方形	1.70 × 1.10	22	緩斜	皿状	人為	土師器12，須恵器6	
301	C6a4	N－90°	円形	0.75 × 0.74	27	緩斜	皿状	人為	土師器4，須恵器3	
302	C6b5	N－60°－W	円形	1.12 × 1.06	26	緩斜	皿状	人為	土師器8，須恵器3	
303	C6b4	N－45°－W	円形	0.76 × 0.72	22	緩斜	皿状	人為		
306	C6e3	N－0°	長方形	1.06 × 0.55	33	外堤	平坦	人為	須恵器2	
307	C6e3	N－0°	円形	0.76 × 0.73	28	外堤	平坦	人為	土師器2，須恵器3	

310	C6e6	N－0°	円形	0.70 × 0.67	47	外傾	平坦	人為	土師器1	
311	C6f6	N－82°－W	隅丸方形	1.17 × 1.07	59	外傾	平坦	人為	土師器4，須恵器2	
312	C6f3	N－71°－E	楕円形	1.07 × 0.92	51	外傾	平坦	人為	土師器3	SK313→SK312 中・近世
314	C6f3	N－80°－E	不整円形	1.03 × 0.95	38	緩斜	平坦	人為	土師器2	
315	C6g3	N－28°－E	円形	1.17 × 1.05	55	外傾	平坦	人為	土師器4，土師質土器1(内耳鍋)	中・近世？
316	C6g3	N－27°－E	円形	1.18 × 1.17	58	外傾	皿状	人為	土師器3，須恵器3	
317	C6g4	N－54°－E	円形	1.00 × 0.95	43	外傾	平坦	人為	土師器5，須恵器3	
318	C6h3	N－88°－E	円形	1.12 × 1.02	38	外傾	平坦	人為	土師器6	
320	D6f2	N－0°	円形	0.50 × 0.47	69	緩斜	皿状	不明		
321	C6i2	N－62°－W	楕円形	1.85 × 0.91	37	緩斜	平坦	自然		
322	C6i3	N－20°－E	円形	0.97 × 0.94	30	外傾	平坦	人為		
327	D6c5	N－90°	隅丸長方形	1.43 × 1.06	63	外傾	平坦	人為	土師器3，須恵器3	SB6A→SK327
337A	D6h2	N－90°	楕円形	(1.25) × 1.15	43	外傾	平坦	人為	土師器4	SK337B→SK337A
337B	D6h3	N－7°－W	[隅丸方形]	(0.60) × (0.55)	25	垂直	平坦	人為		SK337B→SK337A
341	D6e5	N－46°－W	楕円形	0.90 × 0.78	10	緩斜	平坦	人為	土師器2	
342	D6d6	N－11°－W	円形	1.18 × 1.15	27	外傾	平坦	人為	土師器8，須恵器4	
344	D6d7	N－0°	[円形]	0.95 × (0.64)	17	外傾	平坦	人為	土師器1	SK344との新旧関係不明
345	C6d6	N－80°－W	隅丸方形	0.92 × 0.90	30	外傾	皿状	人為	土師器6，須恵器2	SB26→SK345
346	C6c6	N－0°	円形	0.85 × 0.80	17	外傾	皿状	人為	土師器1	SB26→SK346
347	C6d6	N－0°	楕円形	0.88 × 0.79	19	外傾	平坦	人為	土師器5，須恵器2	SB26→SK347
349	D6d5	N－0°	楕円形	0.64 × 0.51	31	外傾	平坦	人為		
352	D6d7	N－75°－W	円形	1.00 × 0.91	49	外傾	平坦	人為	土師器13，須恵器7	SB26→SI50→SK352
365	C6j9	N－60°－W	円形	0.37 × 0.35	24	外傾	皿状	人為		
366	C6j9	N－65°－W	不整楕円形	0.71 × 0.53	26	緩斜	皿状	人為	土師器6	
367	C6j9	－	円形	0.43 × 0.43	18	外傾	平坦	人為		
368	C6i9	N－44°－W	不整円形	0.60 × 0.57	50	垂直	皿状	人為	土師器5，須恵器6	
369	C6j0	N－25°－E	楕円形	0.54 × 0.44	25	外傾	皿状	人為	土師器3	
370	C6j0	N－58°－E	楕円形	0.53 × 0.43	16	外傾	皿状	人為	土師器2	
371	C6i0	N－36°－W	円形	0.50 × 0.49	48	外傾	平坦	人為	土師器2	
372	C7i1	－	円形	0.35 × 0.35	43	外傾	皿状	人為		
373	C7i1	N－50°－E	円形	0.58 × 0.55	28	外傾	皿状	人為	土師器3，須恵器2	
374	C7i1	N－62°－E	楕円形	0.58 × 0.48	51	垂直	平坦	人為		
375	C7i1	N－0°	長方形	1.25 × 0.70	21	垂直	平坦	人為		
376	C7i1	N－32°－W	円形	0.75 × 0.70	52	外傾	皿状	人為		
377	C7i1	N－29°－E	不整楕円形	0.54 × 0.38	29	外傾	皿状	人為		
380	C6i0	N－12°－W	楕円形	0.96 × 0.68	56	外傾	皿状	人為		
381	C6i0	N－53°－E	円形	0.65 × 0.55	41	外傾	皿状	人為		
383	D7d1	N－0°	楕円形	2.23 × 1.51	34	緩斜	凹凸	自然		
387A	D6c0	N－33°－E	円形	1.00 × (0.85)	13	外傾	平坦	人為	土師器5，須恵器3	SK387B→SK387A
387B	D6c0	N－3°－W	楕円形	1.30 × (0.84)	23	緩斜	平坦	人為		SK387B→SK387A
391	B7i2	N－90°	楕円形	1.67 × 1.15	26	外傾	平坦	自然		
392	B7i2	N－43°－W	楕円形	1.08 × 0.99	30	外傾	平坦	自然	土師器4	
393	B7i2	N－90°	不整楕円形	2.29 × 1.32	51	外傾	皿状	自然・人為	土師器4，1～2層から須恵器10(坏P607，P608)	1層と2層は8世紀中葉から後葉の土坑と考えられる
395	B7i5	N－0°	円形	0.94 × 0.89	21	緩斜	皿状	自然	土師器1	
396	B7i6	N－39°－W	楕円形	0.95 × 0.88	25	緩斜	皿状	自然	土師器4，須恵器3	
397	C7a5	N－90°	円形	0.92 × 0.88	42	外傾	平坦	自然		
398	C7a4	N－29°－W	円形	0.92 × 0.84	37	外傾	皿状	人為	土師器2	
399	C7a3	N－30°－W	楕円形	0.94 × 0.85	35	外傾	凹凸	自然	土師器6，須恵器4	

401	C7b3	N－41°－E	楕円形	1.50 × 1.04	30	緩斜	皿状	自然		
402	C7c3	N－ 0°	円形	0.82 × 0.78	41	外傾	皿状	自然	土師器2，須恵器4	
403	C7c4	N－33°－E	楕円形	1.08 × 0.94	28	外傾	平坦	自然	土師器1	
404	C7c5	N－90°	楕円形	1.34 × 1.16	32	外傾	平坦	人為	土師器2	
405	C7d5	N－90°	長方形	1.84 × 1.14	34	外傾	平坦	人為	土師器10，須恵器5	
406	D7a5	N－ 0°	円形	1.00 × 0.97	43	外傾	平坦	人為		
410	D7g3	N－ 0°	円形	0.85 × 0.80	54	外傾	平坦	自然		
411	D7i2	N－28°－E	楕円形	0.63 × 0.51	34	緩斜	皿状	人為	土師器5，須恵器3	
412	D7i2	N－45°－E	円形	0.83 × 0.83	24	外傾	平坦	自然	土師器1	
413	D7h1	N－78°－W	楕円形	0.52 × 0.46	67	垂直	皿状	人為		
414	D7i1	N－39°－W	楕円形	0.82 × 0.72	26	緩斜	凹凸	人為	土師器10，須恵器6	
415	D7j1	N－ 0°	不定形	0.68 × 0.48	58	外傾	皿状	人為		

付　　章

中原遺跡の自然科学分析 ……パリノ・サーヴェイ株式会社

1　ローム層の層序確立のための火山ガラス比分析および重鉱物分析

2　中原遺跡から出土した炭化材・種実遺体の同定

茨城県中原遺跡出土の漆膜について ……㈱吉田生物研究所

中原遺跡の自然科学分析

1　ローム層の層序確立のための火山ガラス比分析および重鉱物分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本遺跡は，花室川左岸の舌状台地上に立地する。今回の発掘調査により，奈良・平安時代の集落に関わる遺構をはじめとして，中近世の遺構，旧石器時代のブロックなどが検出されている。遺物は，上述の奈良・平安時代の土師器，須恵器，陶器などのほか，旧石器時代の石器類，縄文式土器，中近世の陶磁器などが出土している。

今回の自然科学分析調査では，旧石器時代の石器ブロックの年代を検討するために，火山ガラス比分析および重鉱物分析により石器が検出された褐色火山灰土層（いわゆるローム層）の層序対比を行う。火山ガラス比分析では，本地域のローム層上部の指標テフラである立川ローム層最上部ガラス質火山灰（ＵＧ：山崎，1978）や姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ：町田・新井，1976）に由来する細粒の火山ガラスの産状を調べることにより，降灰層準を推定する。重鉱物分析では，ローム層中の重鉱物組成を調べ，その層位的変化を指標として対比に用いる。本分析法は，武蔵野台地の立川ローム層では対比資料が比較的多いためとくに有効な手段となっている。本遺跡周辺では分析例は少ないが，武蔵野台地や栃木県～茨城県北部のローム層との対比を行う。

1．遺跡周辺の地形・地質

茨城県南部に広がる常陸台地は霞ヶ浦や北浦を含むいくつかの谷によって開析され，さらに東茨城・鹿島・行方・新治・稲敷などの各台地にわかれている。常陸台地の地形・地質は坂本（1986）により以下のように記載されている。常陸台地は下総台地に対比される段丘で，その構成層は後期更新世の海成層の見和層である。見和層は最終間氷期の下末吉海進に伴って堆積したものである。その上位に堆積する茨城粘土層は，関東平野中南部の台地下部に広く分布する常総粘土層に対比されている。常総粘土層は常総層上部粘土層に相当し，常総層はおよそ10万年前から６万年前頃にかけて武蔵野台地北縁から大宮台地・下総台地・常陸台地にわたる氾濫原に広く堆積した地層であるといわれている（小玉ほか，1981）。さらに，茨城粘土層の上位には各台地が離水した後に形成した褐色火山灰土層（いわゆるローム層）が分布する。

本遺跡が立地する稲敷台地は，常陸台地の南部に位置し，北を桜川に，南および西を小貝川の低地に，東を霞ヶ浦により限られている。南部では，台地は花室川や小野川とその支流の乙戸川や桂川などにより開析が進んでいる。

2．試料

試料採取地点では，上位よりⅢ～Ⅳ層からⅩⅦ層，常総粘土層－ａ，常総粘土層－ｂに分層されている。Ⅲ層～Ⅹ層が立川ローム層の標準層序，それ以下が武蔵野ローム層に対比されている。Ⅶ層・Ⅸ層は第二暗色帯（ＢＢⅡ）にあたり，Ⅸ層は層相の違いによりさらにⅨ－ａ層とⅨ－ｃ層に細分されている。また，ＡＴはⅥ層を中心に拡散していると考えられており，Ⅴ層の第一暗色帯（ＢＢⅠ）は確認されていない。ローム層の上位の黒色火山灰土層（いらゆる黒ボク土層）の状況は，Ⅰ層は表土撹乱層で，Ⅱ層は確認されていない。

試料は，上位のⅢ～Ⅳ層から下位に向かって，厚さ5㎝で連続的に合計15点（試料番号1～15）が採取されている。この中から，前述のＵＧおよびＡＴに由来する火山ガラスの検出が予想される試料番号1・3～7の6点を分析試料とする。以上のⅢ～Ⅳ層からⅩⅢ層までの柱状図と試料採取位置を図1に示す。

3．分析方法

(1) 重鉱物分析

試料約40ｇに水を加えて超音波洗浄装置により分散，250メッシュの分析篩を用いて水洗し，粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後，篩別し，得られた粒径1/4㎜－1/8㎜の砂分をポリタングステート（比重約2.96に調整）により重液分離，重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際，不透明な粒については，斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

(2) 火山ガラス比分析

重鉱物分析の処理により得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて観察，火山ガラスとそれ以外の砕屑物を250粒を計数し，砕屑物中における火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは，便宜上軽鉱物にいれ，その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は，バブル型は薄手平板状，中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり，軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

4．結果

結果を表1・図1に示す。

(1) 重鉱物分析

カンラン石は，いずれの試料中にも微量認められるが，その量比の極大および極小層準は明瞭ではない。斜方輝石と単斜輝石の両輝石は，試料番号1～5では比較的多く認められるが，試料番号6以下では下位に向かって減少する。また，角閃石は試料番号1・6・7で微量認められる。

(2) 火山ガラス比分析

試料番号1～5ではバブル型火山ガラスが比較的多く認められる。下位より見て，試料番号6から5で増加，試料番号5から4で漸増，それより上位では漸減する。この火山ガラスは，その形態と色調および産出層準から前述のＡＴに由来すると考えられる。ＡＴは，鹿児島県の給良カルデラを給源とし，降灰年代は約2.1～2.5万年前と考えられている（町田・新井，1992）。一般に，土壌中に特定のテフラが混交して産出する場合，テフラ最濃集部の下限が降灰層準に一致する場合が多い（早津，1988）。これに従えば，本地点のＡＴの降灰層準は試料番号5のⅦ層上限付近と考えられる。

5．考察

本地域のローム層上部の指標テフラには前述のＵＧやＡＴなどがある。ＵＧは，浅間火山の軽石流期のテフラの細粒部であると考えられており，その降灰年代は約1.2万年前とされている（町田・新井，1992）。武蔵野台地の立川ローム層の標準層序におけるⅢ層上部が降灰層準と考えられており，南関東地方に広く分布する。さらに，当社によるこれまでの分析例により，ＵＧによく類似するテフラが栃木県～茨城県北部に広く分布することが認められており，その降灰層準もローム層の最上部にある場合が多い。ＵＧやＵＧに類似するテフラ

表1　重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1	15	163	13	6	35	18	250	21	2	3	224	250
3	13	166	13	2	44	12	250	25	0	2	223	250
4	15	163	13	2	53	4	250	37	0	1	212	250
5	16	165	10	2	51	6	250	32	0	2	216	250
6	14	131	4	7	69	25	250	11	0	1	238	250
7	16	116	4	7	78	29	250	10	0	0	240	250

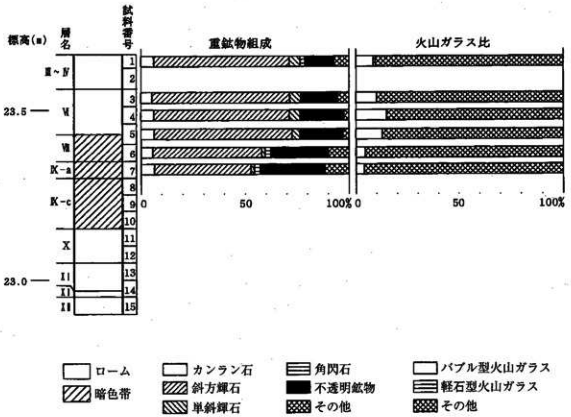


図1　重鉱物組成・火山ガラス比

の由来と考えられている浅間軽石流期のテフラには，浅間板鼻黄色テフラ（As－YP）やAs－YPと同一噴火輪廻のテフラと考えられている浅間草津テフラ（As－K）などがある（町田・新井，1992）。As－YPは分布主軸は東南東で群馬県南部を中心に分布し，その降灰年代は約1.3～1.4万年前と考えられている（町田・新井，1992）。また，As－Kは分布主軸は北東で，主に群馬県北西部から新潟県南部に分布する（町田・新井，1992）。さらに，As－K（引用文献中ではAs－YPk）に対比されるテフラは東北地方南部から中部でも認められている（小岩・早田，1994）。UGまたはUGに類似するテフラは，いずれにしてもこれらの浅間火山の軽石流期のテフラに由来すると考えられる。ただし，今回の分析ではUGに由来すると考えられる火山ガラスがほとんど認められなかったため，本地点におけるUGの降灰層準はⅡ～Ⅳ層よりさらに上位と考えられる。したがって，本地点ではローム層の最上部は削剥を受けていると考えられる。

ATの降灰層準は，武蔵野台地の立川ローム層の標準層序ではⅦ層上限付近にある場合が多い。また，栃木県～茨城県北部ではATの降灰層準は田原ローム層と宝木ローム層の境界層の暗色帯の上部（町田・新井，1976）とされている。今回の分析結果から，本地点のⅦ層上限が武蔵野台地の立川ローム層の標準層序におけるⅦ層上限，栃木県～茨城県北部の宝木ローム層の最上部に対比される。また，本地点では検出されたATの量比が比較的少なかった。これは調査地点が台地の縁辺部に位置し傾斜しているため，降灰したATが流されてしまい保存されにくかったことが考えられる。

重鉱物組成の層位的変化の指標には，小林ほか（1971）の羽鳥の分析例をはじめとして，当社による分析例でも確かめられている。これは武蔵野台地における立川ローム層の第一暗色帯（BBI）であるⅤ層上限付近の輝石の極大である。今回の分析結果では，両輝石の極大は明瞭にはわからなかった。したがって，武蔵野台地の標準層序におけるⅤ層との対比はわからない。

また，下位では当社の分析例によりATの降灰層準であるⅦ層上限のやや下位にカンラン石の極大層準が指標として認められている。しかし，今回の分析結果ではカンラン石の極大層準は明瞭には認められなかったため，カンラン石の極大層準はさらに下位の可能性がある。

角閃石は栃木県～茨城県北部の分析例では，宝木ローム層の上部（暗色帯上部）付近すなわちATの降灰層準付近から下位に向かって増加することが認められている。この角閃石は，宝木ローム層の中部に降灰層準がある赤城鹿沼軽石（Ag－KP：新井，1962）に由来するものが拡散していると考えられる。Ag－KPは赤城火山を給源とし，降灰年代は約3.1～3.2万年前と考えられている（町田・新井，1992）。一方，武蔵野台地の立川ローム層中には角閃石はほとんど認められない。したがって，本遺跡においてATの降灰層準付近以下で角閃石が微量ではあるが認められたことは，栃木県～茨城県北部の宝木ローム層の特徴とやや類似する。ただし，さらに下位の層準の結果を含めて再検討しなければならない課題とされる。以上のように本遺跡のローム層の重鉱物組成には，栃木県～茨城県北部のローム層の重鉱物組成と，南関東のローム層の重鉱物組成の両方の特徴が認められている。これは，これまでの周辺における柴崎遺跡，宮前遺跡，西ノ原遺跡などの調査結果ともほぼ整合し，本地域の特徴となる可能性がある。

以上の結果をまとめると，本地点のⅥ層以上が武蔵野台地の立川ローム層の標準層序におけるⅣ層付近～Ⅵ層に対比され，AT降灰以降すなわち約2.1～2.5万年前以降に形成したと考えられる。また，Ⅶ層以下が立川ローム層の標準層序におけるⅦ層以下に対比され，AT降灰以前すなわち約2.1～2.5万年前以前に形成したと考えられる。栃木県～茨城県北部のローム層との対比ではⅥ層以上が田原ローム層，Ⅶ層以下が宝木ローム層に対比される。

引用文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，4，p.1－79.

早津賢治（1988）テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロノロジー－ＡＴにまつわる議論に関係して－．考古学研究，34，p.18-32．

小林達夫・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男（1971）野川先土器時代遺跡の研究．第四紀研究，10，p.231－252．

小玉喜三郎・堀口万吉・鈴木尉元・三梨　昂（1981）更新世後期における関東平野の地塊状造盆地運動．地質学論集，20，p.113－128．

小岩直人・早田　勉（1994）東北地方中南部に分布する更新世末期のガラス質テフラ．地学雑誌，103，p.68－76．

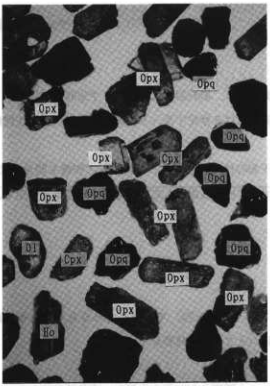
町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339－347．

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276p.，東京大学出版会．

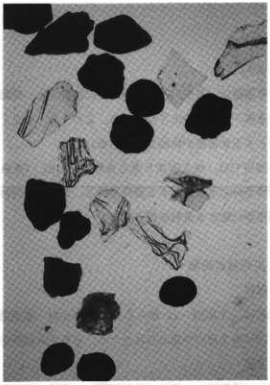
坂本　亨（1986）3.4 関東平野北部の更新統(9)常陸台地．「日本の地質３　関東地方」．p.189－190，共立出版．

山崎晴雄（1978）立川断層とその第四紀後期の運動．第四紀研究，16，p.231－246．

図版1　重鉱物・火山ガラス



1．重鉱物（試料番号1）



2．ATの火山ガラス（試料番号4）

0.5mm

01：カンラン石．　Opx：斜方輝石．　Ho：角閃石．　Opq：不透明鉱物．

2　中原遺跡から出土した炭化材・種実遺体の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

中原遺跡は，花室川左岸の台地上に位置する。発掘調査により，旧石器時代，奈良・平安時代前期，中・近世の遺構・遺物が検出されている。このうち，奈良・平安時代は8世紀中葉～9世紀中葉までの竪穴住居跡を中心とする集落跡が検出されている。

本報告では，焼失家屋と考えられるSI－22（奈良・平安時代）から出土した炭化材の樹種を明らかにし，住居構築材の用材に関する資料を得る。また，住居跡のカマド内から出土した種実遺体等の種類を同定し，植物利用等に関する資料を得る。

1．炭化材の樹種

(1)　試料

試料は，1区SI－22から出土した炭化材（試料番号1～4・6～74）である。このうち，試料番号16・17・73は各2点づつ認められたため，それぞれ試料番号にハイフォンで枝番号を付した。

(2)　方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し，種類を同定する。

(3)　結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号47には2種類が認められた。また，保存状態が悪いために樹種の同定に至らなかった試料については，観察できた範囲での結果を記した。その他の炭化材は，広葉樹7種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・モクレン属・サクラ属・キハダ）とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（***Quercus*** subgen. ***Lepidobalanus*** sect. ***Cerris***）　ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（***Castanea crenata*** Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1～4列，孔圏外で急激～やや急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～15細胞高。

・ケヤキ（***Zelkova serrata*** (Thunb.) Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で孔圏部は1～2列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減，塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型，1～7細胞幅，1～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ（***Morus australis*** Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で孔圏部は1～4列，晩材部へ向かって管径を漸減させ，のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は密に交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型，1～6細胞幅，1～30細胞高。しばしば結晶を含む。

表1　炭化材の樹種同定結果 (1)

遺構名	時代・時期	試料番号	用途など	樹種
SI-22	奈良・平安時代	1	住居構築材	クリ
		2	住居構築材	クリ
		3	住居構築材	クリ
		4	住居構築材	クリ
		6	住居構築材	クリ
		7	住居構築材	クリ
		8	住居構築材	クリ
		9	住居構築材	クリ
		10	住居構築材	サクラ属
		11	住居構築材	クリ
		12	住居構築材	クリ
		13	住居構築材	クリ
		14	住居構築材	クリ
		15	住居構築材	クリ
		16-1	住居構築材	クリ
		16-2	住居構築材	クリ
		17-1	住居構築材	クリ
		17-2	住居構築材	クリ
		18	住居構築材	クリ
		19	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		20	住居構築材	サクラ属
		21	住居構築材	クリ
		22	住居構築材	ヤマグワ
		23	住居構築材	ヤマグワ
		24	住居構築材	キハダ
		25	住居構築材	キハダ
		26	住居構築材	クリ
		27	住居構築材	クリ
		28	住居構築材	クリ
		29	住居構築材	クリ
		30	住居構築材	クリ
		31	住居構築材	クリ
		32	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		33	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		34	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		35	住居構築材	クリ
		36	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		37	住居構築材	広葉樹
		38	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		39	住居構築材	クリ
		40	住居構築材	キハダ
		41	住居構築材	クリ
		42	住居構築材	クリ
		43	住居構築材	ヤマグワ
		44	住居構築材	クリ
		45	住居構築材	モクレン属
		46	住居構築材	クリ
		47	住居構築材	クリ
				ケヤキ
		48	住居構築材	クリ

表1　炭化材の樹種同定結果 (2)

遺構名	時代・時期	試料番号	用途など	樹種
SI-22	奈良・平安時代	49	住居構築材	クリ
		50	住居構築材	クリ
		51	住居構築材	クリ
		52	住居構築材	クリ
		53	住居構築材	サクラ属
		54	住居構築材	クリ
		55	住居構築材	クリ
		56	住居構築材	クリ
		57	住居構築材	クリ
		58	住居構築材	クリ
		59	住居構築材	クリ
		60	住居構築材	クリ
		61	住居構築材	クリ
		62	住居構築材	クリ
		63	住居構築材	クリ
		64	住居構築材	クリ
		65	住居構築材	イネ科タケ亜科
		66	住居構築材	クリ
		67	住居構築材	クリ
		68	住居構築材	サクラ属
		69	住居構築材	クリ
		70	住居構築材	クリ
		71	住居構築材	クリ
		72	住居構築材	キハダ
		73-1	住居構築材	ケヤキ
		73-2	住居構築材	ケヤキ
		74	住居構築材	ケヤキ

・モクレン属（***Magnolia***）　モクレン科

散孔材で管壁厚は中庸～薄く，横断面では角張った楕円形～多角形，単独および2～4個が放射方向に複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型，1～3細胞幅，1～40細胞高。

・サクラ属（***Prunus***）　バラ科

散孔材で管壁厚は中庸，横断面では角張った楕円形，単独または2～8個が複合，晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型，1～3細胞幅，1～30細胞高。

・キハダ（***Phellodendron amurense*** Ruprecht）・ミカン科キハダ属

環孔材で孔圏部は2～5列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減，塊状に複合し紋様をなす。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性，1～5細胞幅，1～20細胞高。

・イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。

タケ亜科は，タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

(4)　考察

住居構築材と考えられる炭化材は，クリを中心に7種類の広葉樹材とタケ亜科が確認された。各試料の部位

などの詳細は不明であるが，今回の結果からクリを中心とした種類構成であったことが推定される。本地域では，これまでにも古墳時代を中心とした住居構築材の樹種が明らかにされている（未公表資料）。その結果ではクヌギ節・コナラ節が比較的多く，今回の結果とはやや異なる。

クリは，縄文時代の住居構築材や燃料材として大量に利用されていたが，古墳時代ではクヌギ節・コナラ節の利用が多く，クリの利用は少なくなることが知られている（千野，1983，1991；高橋・植木，1994）。また，奈良・平安時代には，減少していたクリの利用が再び多くなる傾向がある（千野，1991）。これらの傾向は，本地域でこれまで得られてきた樹種同定結果とも調和的であり，時代によって用材選択が異なっていたことが推定される。また，本地域では常緑広葉樹の利用が多い遺跡と落葉広葉樹が多い遺跡とがあり，周辺植生の違いが用材選択に影響していた可能性も指摘されている（未公表資料）。

今後さらに周辺地域での類例を蓄積し，用材選択の時代や地域による違いを明らかにしたい。

2．種実遺体同定

(1) 試料

試料は，8世紀～10世紀代の各住居跡のカマド灰層試料（試料番号1～11）と8世紀～10世紀代の住居跡（SI－7）および8世紀中頃の溝跡から検出された炭化種実遺体（試料番号1～3）が対象とされた。カマドの灰層試料の中で，試料番号8・10は水洗選別を当社にて実施した。

(2) 方法

水洗選別されていない試料は，水酸化ナトリウム水溶液を加えて放置し試料を泥化させたあと，0.5mmの篩を通して水洗選別し，残渣を集める。残渣を乾燥後，他の試料も含めて，双眼実体顕微鏡下で観察し，種実遺体を抽出，同定する。

(3) 結果

結果を表2に示す。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

表2　種実遺体同定結果

試料名		遺構名など	同定結果（個数）	備考
炭化種子	1	SI-7	モモ（破片）	No45
	2	SD11B	モモ（1）	1区X1
	3	SD11B	モモ（1）	X
カマド灰炭化物	1	SI-8　カマド灰	未検出	
	2	SI-11　カマド灰	未検出	
	3	SI-19　カマド灰	イネ（5）	
	4	SI-31　カマド灰	未検出	
	5	SI-32　カマド灰	イネ（1）	
	6	SI-38　カマド灰	イネ（1）	
	7	SI-39　カマドB灰	未検出	
	8	SI-41　カマドA灰	未検出	水洗選別
	9	SI-67　カマド灰	未検出	
	10	SI-68　カマド灰	未検出	水洗選別
	11	SI-79　カマド灰	未検出	

・モモ科（***Prunus parsica*** Batsch）　バラ科サクラ属

核（肉果皮）が検出された。褐色～黒褐色で大きさは２㎝程度。核の形はほぼ球形で，やや偏平である。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり，先端部はやや尖る。一方の側面にのみ，縫合線が顕著に見られる。表面は，不規則な線状のくぼみがあり，全体としてあらいしわ状に見える。

・イネ状（***Oryza sativa*** L.）　イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさは４㎜程度で，胚が位置する部分は欠如し大きく窪んでいる。表面には縦に平行な隆起構造が数本認められる。

(4)　考察

カマドの水洗選別試料（カマド灰８・10）をみると，炭化物がほとんどなく，少量の砂分が含まれるのみである。また，他の試料（カマド灰１～７・９・11）も，イネが若干含まれているだけで，ほとんどの試料では微細な炭化材片が少量みられる程度である。イネが含まれるのは，調理などに伴って混入したものと考えられる。また，炭化材片が少ないことを考えると，燃料材は草本類に由来する可能性がある。これについては，灰像分析を応用することにより，イネ科植の燃料材について情報が得られることが期待される。

また，カマドの灰中には，モモの核も混入しており，食用後の残渣を廃棄した可能性もある。今回検出されたものは，いわゆる「古代モモ」と呼ばれている小型で球形な形質をもった種類であり，幅広い時代から検出されることが知られている（南木，1991）。モモの果実が傷みやすく，長距離の輸送に向かないことを考慮すれば，周辺で栽培されていたと考えられる。

引用文献

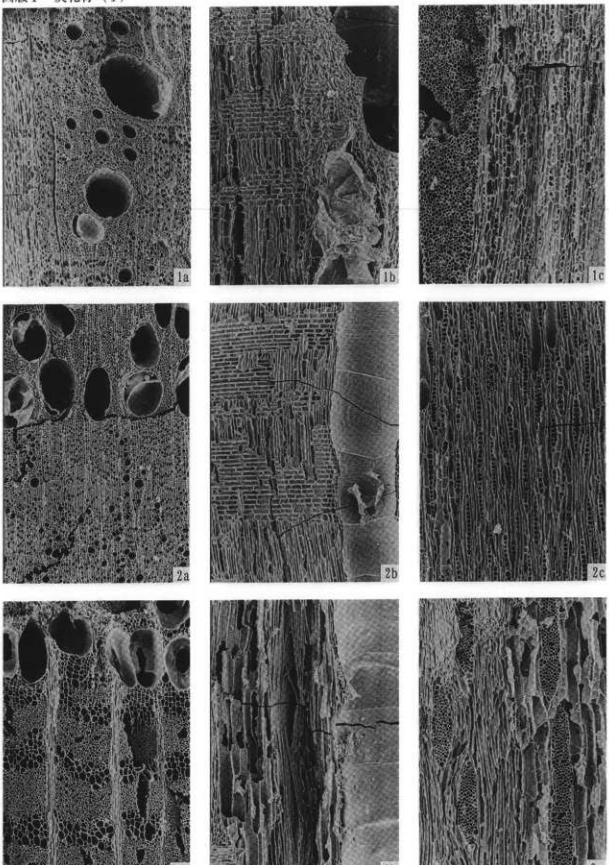
千野裕道（1983）縄文時代のクリと集落周辺植生　－南関東地方を中心に－．東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，p.25－42．

千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか　－遺跡出土の植物性遺物からの検討－．東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅹ，p.215－249．

南木睦彦（1991）栽培植物．「古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ」，石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎，P.165－174，雄山閣．

高橋　敦・植木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択．PALYNO，2，p.5－18.

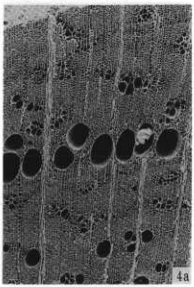
図版1　炭化材（1）

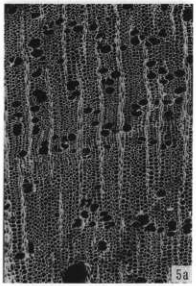


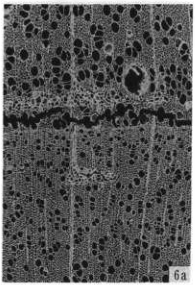
1．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（SI－22　No.38）
2．クリ（SI－22　No.6）
3．ケヤキ（SI－22　No.73－1）
　a：木口，b：柾目，c：板目

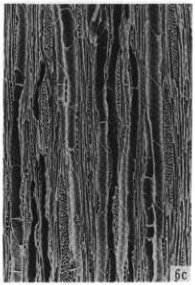
200 μm：a
200 μm：b，c

図版2　炭化材（2）





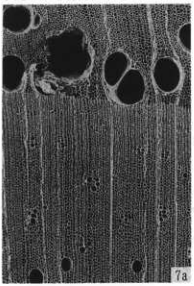


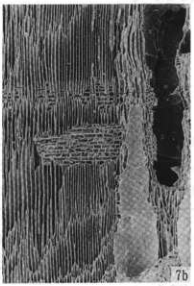


4．ヤマグワ（SI－22　No.22）
5．モクレン属（SI－22　No.45）
6．サクラ属（SI－22　No.10）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm：a
200 μm：b，c

図版3　炭化材（3）・種実遺体





7．キハダ（SI－22　No.25）　a：木口，b：柾目，c：板目
8．イネ科タケ亜科（SI－22　No.65）　横断面
9．モモ（カマド灰炭化種子　No.2）
10．イネ（カマド灰炭化物　No.6）

200μm：7a，8
200μm：7b，7c
1cm：9
2mm：10

茨城県中原遺跡出土の漆膜について

㈱吉田生物研究所

茨城県所在の中原遺跡から出土した，土が付着したままの漆膜をクリーニングし，その破片について断面観察を行ったので以下に報告する。

漆膜が円筒状の形態をとること，残存している漆膜の外側面の１ヶ所に縦方向の段差が認められること，そして底部の破片の外面に木目が認められることから，この漆膜は漆容器として使用されていた木胎の曲げ物の内面に残った漆が硬化したもの，と判断される。なお，木胎は全く確認できなかった。

漆膜分析の手順は以下の通りである。土中から小破片を試料としてサンプリングし，エポキシ樹脂に包埋し硬化させた。次にそれらを研磨し薄片化した後，光学顕微鏡下で漆膜断面を観察した。

漆膜断面は一様に淡茶褐色を呈し，試料によっては数層の漆層が確認できる（写真１）ので，同一の曲げ物が漆容器として数回使用された可能性がある。

また，漆膜中に白く筒状に漆が抜けたように見える試料（写真２，３）がある。この白い筒状のものは紙を組織する繊維で，いろいろな方向に繊維が走る様子が観察できる。この紙は，漆膜の真ん中というよりは片側よりに面的に（漆膜断面では線的に）認められるため，漆容器の蓋紙として使用された漆紙と判断した。なお，紙の繊維が確認されたので，文字の有無を調べるため赤外線撮影装置で写してみたが，全体像を写した限りではそれらしきものは認められなかった。

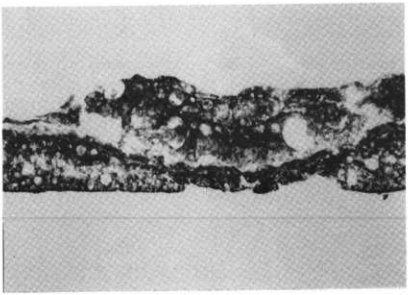


写真1　漆膜が数層確認できる部分（×80）

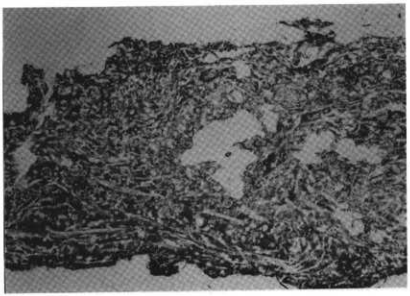


写真2　紙の繊維が確認できる部分（×80）

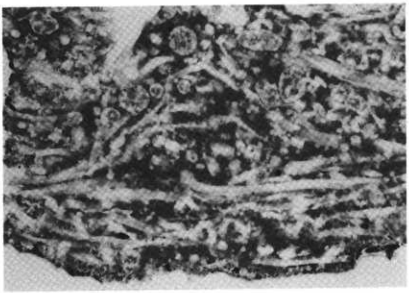
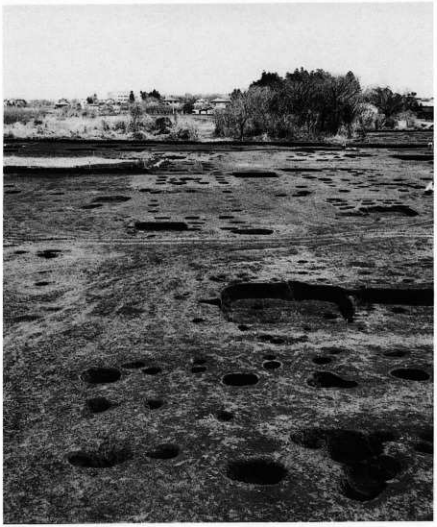


写真3　同上拡大（×200）

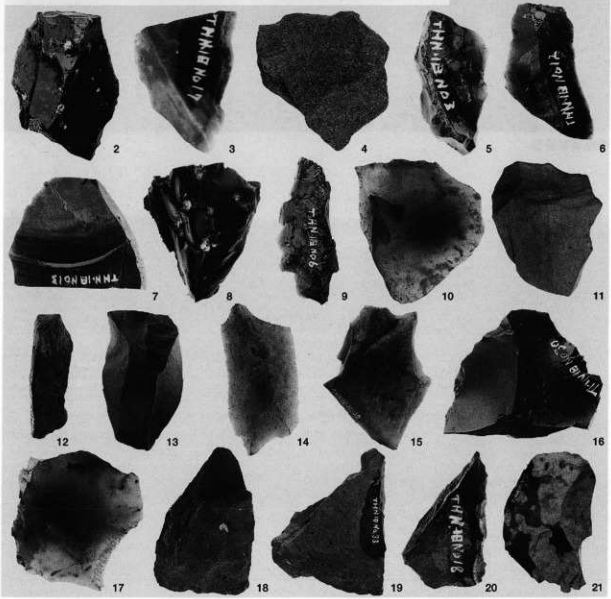
写　真　図　版



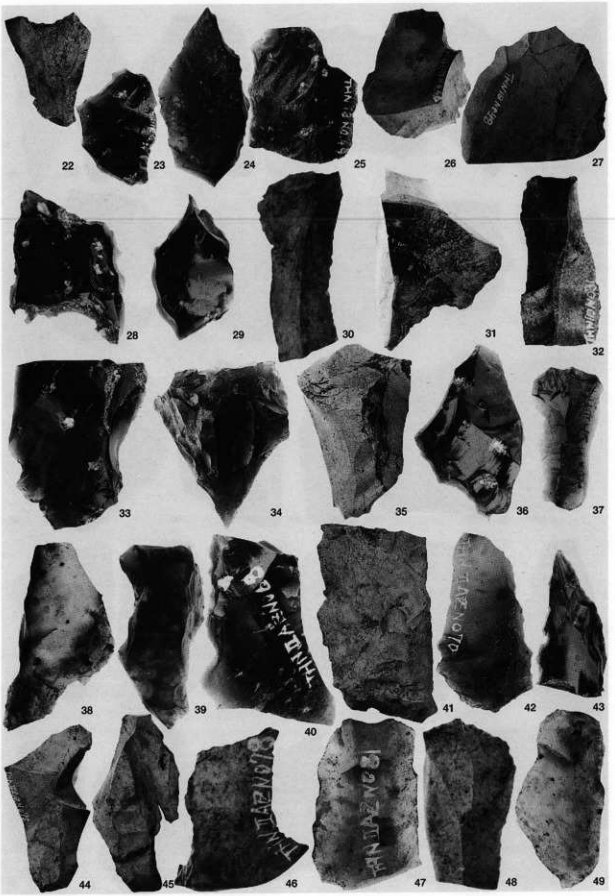
中原遺跡全景

調査１区遺構確認状況

PL2

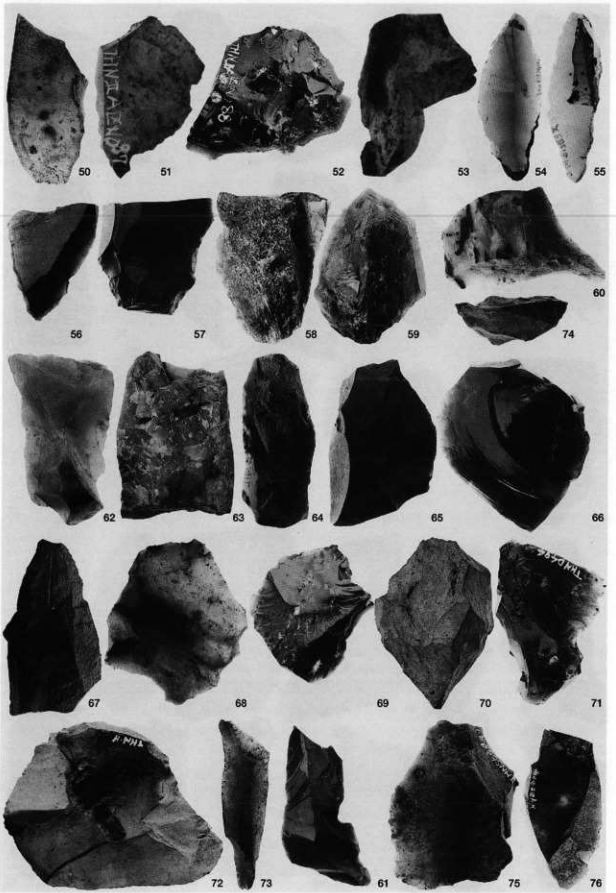


旧石器第２調査区，旧石器時代出土遺物（１）

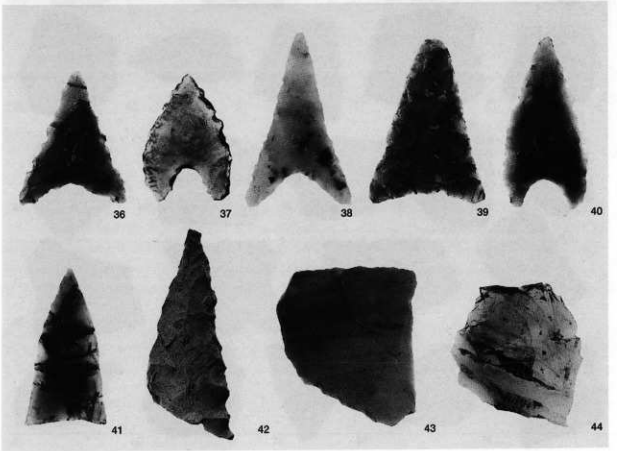

22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49

旧石器時代出土遺物（2）

PL4

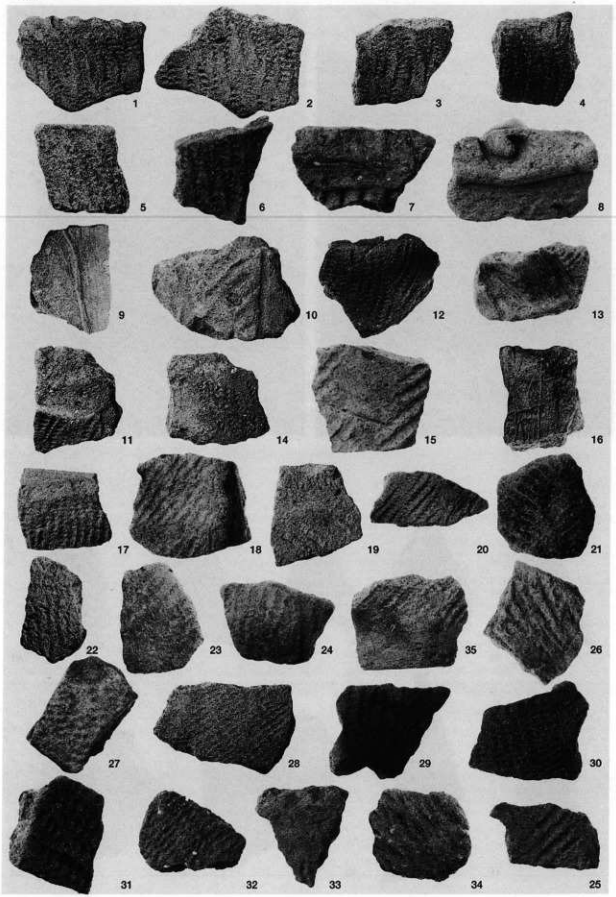


旧石器時代出土遺物（3）

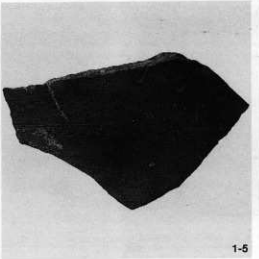


第2・3号陥し穴，縄文時代出土遺物(石器)

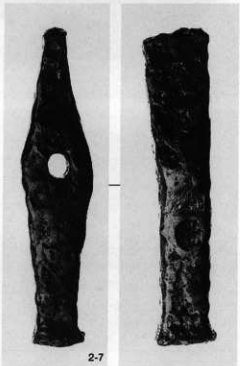
PL6



縄文時代出土遺物（縄文土器）



第１号住居跡・出土遺物



第２号住居跡・出土遺物

第3・4号住居跡・出土遺物

第５号住居跡・遺物出土状況

第５号住居跡掘り方・出土遺物

PL12

5-7

5-8

5-6

5-17

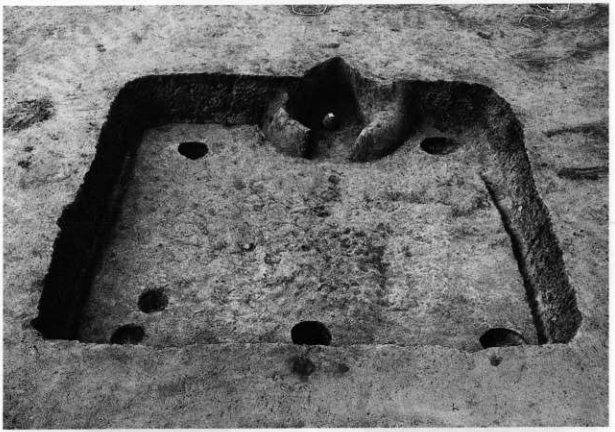
5-10

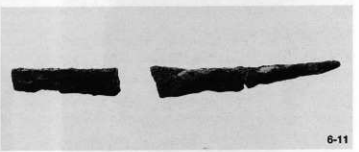
5-9

5-13

5-18

第５号住居跡出土遺物





第６号住居跡・出土遺物

PL14

6-8

6-6

6-7

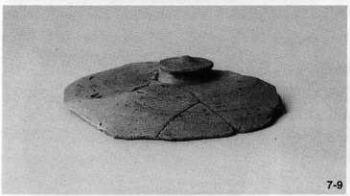
6-10

6-12

6-14

第６号住居跡遺物出土状況・出土遺物

第７号住居跡・出土遺物

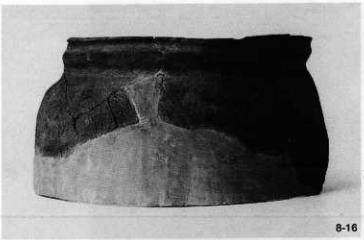


第７号住居跡遺物出土状況・出土遺物

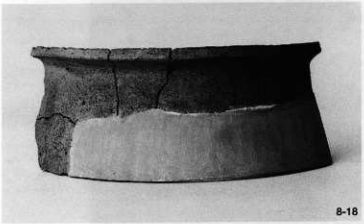
第 8 号住居跡・出土遺物

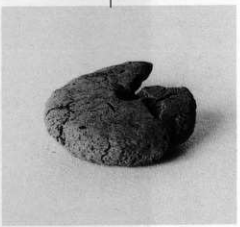
PL18

第 8 号住居跡遺物出土状況・出土遺物


8-16

8-22


8-18



8-21

8-20

8-23

8-24

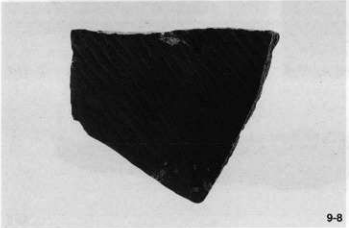
第８号住居跡出土遺物

9-3

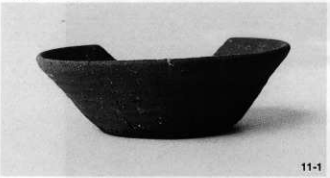
9-1

9-5

第9・11号住居跡，第9住居跡出土遺物



第 9 号住居跡遺物出土状況・出土遺物



第11号住居跡出土遺物

13-2

13-3

13-4

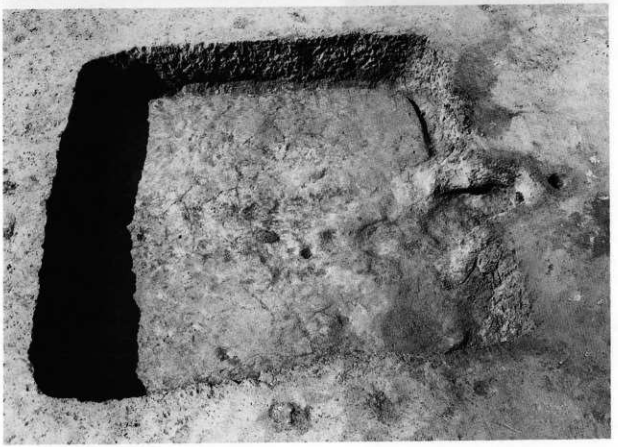
13-5

13-9

13-6

第13号住居跡・出土遺物

第14号住居跡・出土遺物



第14号住居跡遺物出土状況，第15号住居跡

15-4

15-1

15-3

15-2

15-5

第15号住居跡出土遺物

16-4

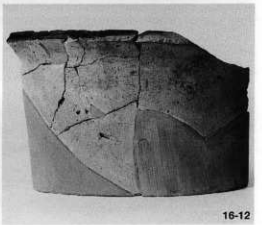
16-6

16-1

16-5

16-1
墨書「本井」

第16号住居跡・出土遺物



第16号住居跡遺物出土状況・出土遺物

16-8

16-9

16-10

16-11

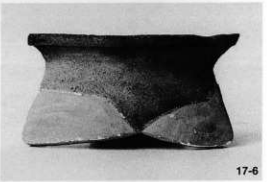
16-16

16-15

16-17

16-18

第16号住居跡出土遺物



第17号住居跡・出土遺物

19-4

19-1

19-2

19-支脚

19-7

第19号住居跡・出土遺物

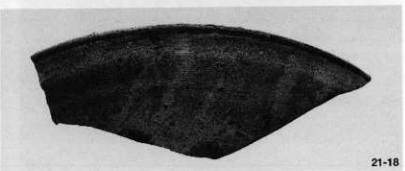
20-2

20-5

20-3

20-4

第20号住居跡・出土遺物



第21号住居跡・出土遺物

21-9

21-13

21-16

21-15

21-17

21-14

第21号住居跡遺物出土状況・出土遺物